

金沢工業大学 御中

令和5年度 授業調査 報告書

---

2024.7.29

有限会社 アイ・ポイント

## INDEX

<1>本調査の全体像	2
<2>基本的な分析	7
<3>学年別の分析	16
<4>学部・学科別の分析	22
<5>科目区分別の分析	32
<6>同一学生群の分析	38
<7>授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	44
<8>遠隔授業の評価の分析	49
<9>全体のまとめ	56

## <1>本調査の全体像

## 1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

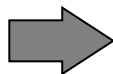
- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が19年目となるため、19年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確認している。(調査開始は平成14年度)
- 前回に続いてすべてWebで実施した。また、「遠隔授業」に関する質問は4年目となる。

## 2) 調査の概略

項目	内容					
有効回答数	49,410件(1年次:22,358件、2年次:17,407件、3年次:8,726件、4年次:919件、クラス未記入の20件は集計から除外)					
年別回答数推移	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数	調査票
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	質問項目変更
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055	
	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917	
	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494	
	年度	前学期	後学期	全回答数	調査票	
	平成21年度	42,446	43,962	86,408		
	平成22年度	48,541	48,175	96,716		
	平成23年度	53,166	49,870	103,036		
	平成24年度	47,317	46,666	93,983		
	平成25年度	47,317	45,003	92,320		
	平成26年度	45,014	50,767	95,781		
	平成27年度	48,882	43,421	92,303		後学期より一部選択肢変更
	平成28年度	47,946	41,113	89,059		
	平成29年度	46,988	39,594	86,582		
	平成30年度	47,659	40,416	88,075		
	令和元年度	41,011	46,990	88,001		
	令和2年度	29,365	32,293	61,658		Web調査へ移行、質問項目追加
	令和3年度	27,148	19,341	46,489		
	令和4年度	22,499	19,112	41,611		
令和5年度	28,221	21,189	49,410			
対象科目	699科目(シラバスコードの件数)					
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学期の第14週目から学期最終日、または最終授業日の1週間後まで実施した。</li> <li>実施方法:記名式。Web入力。</li> <li>Web入力を科目担当の教員より周知するとともに、学生ポータルにて通知した。</li> </ul>					
調査主体	学校法人 金沢工業大学					
集計	有限会社 アイ・ポイント					

## 3) 以前との設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度、一部は平成14年度から)
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。

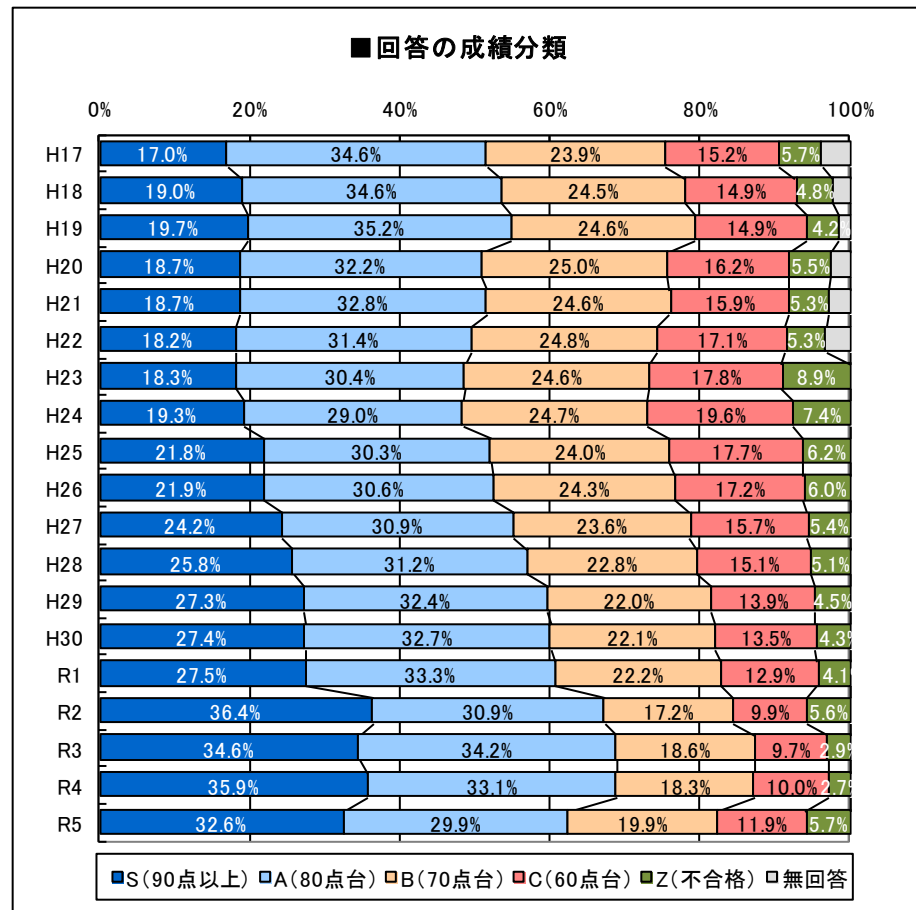
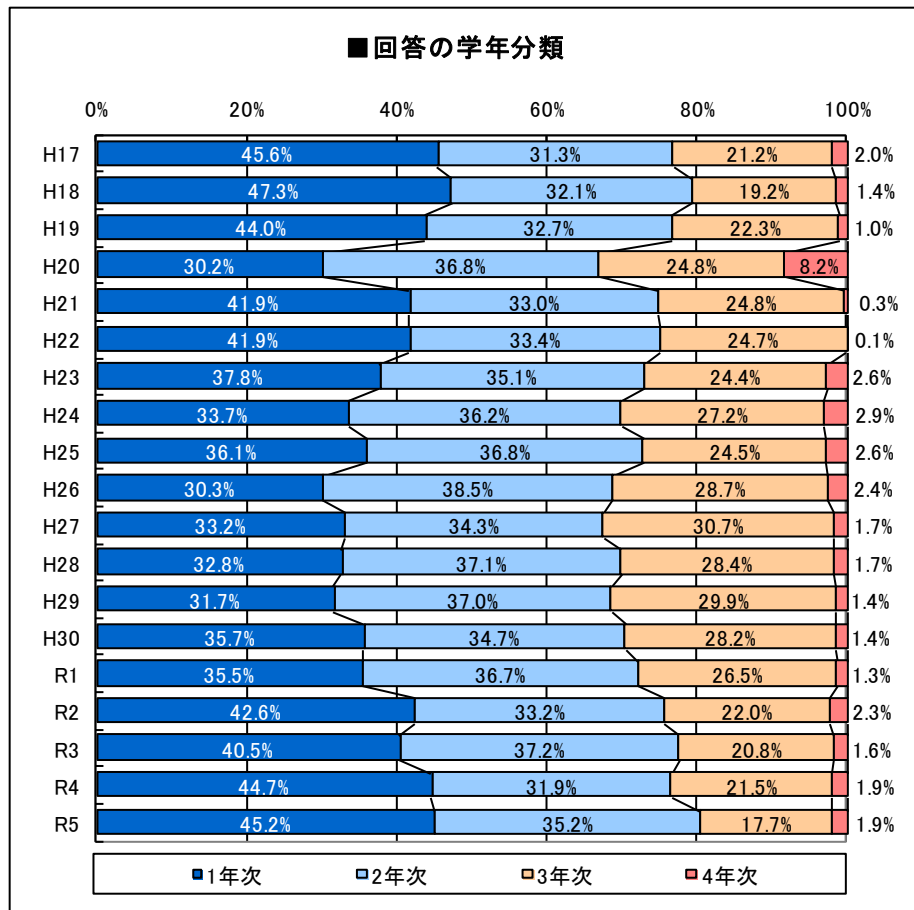


	新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。 ※平成27年度の後学期より選択肢を変更している。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合評価

## 4) 集計に関して

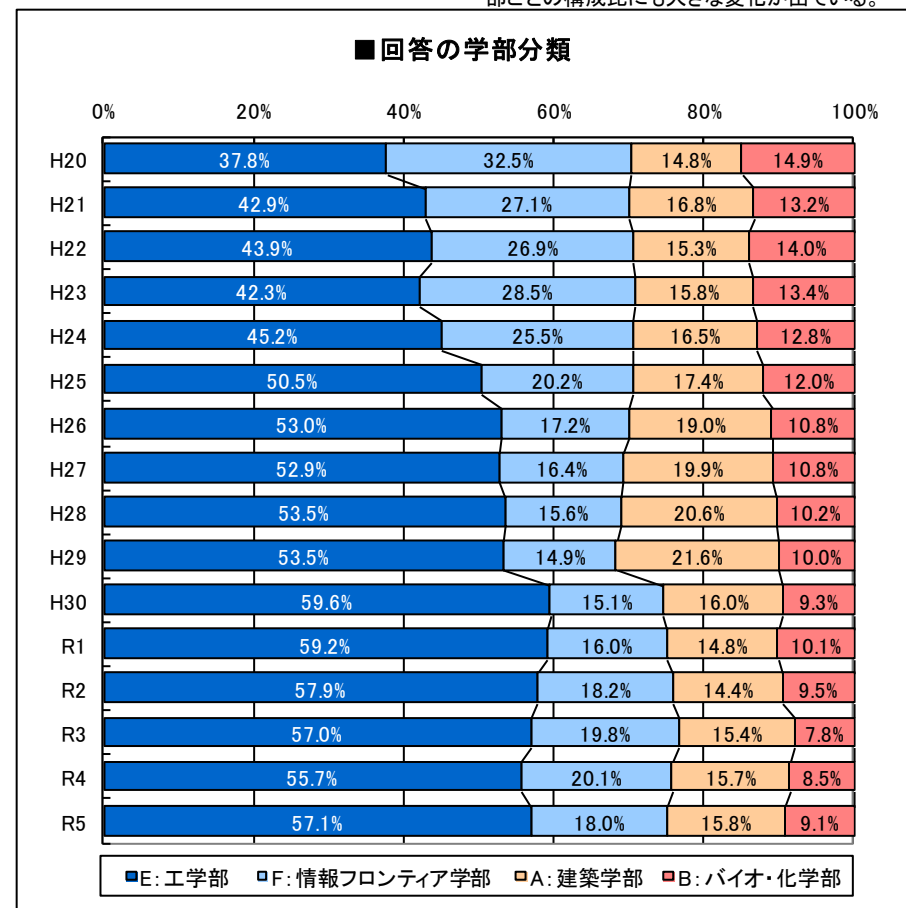
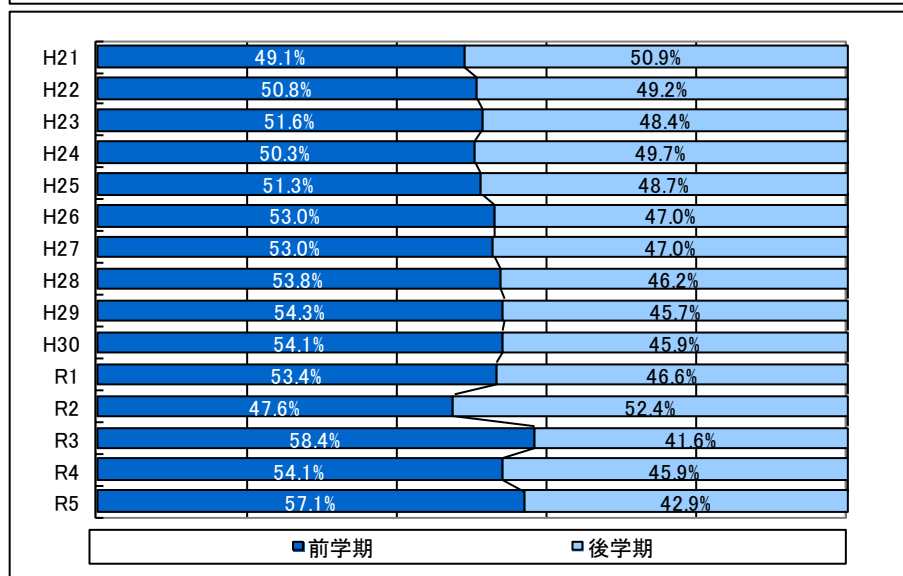
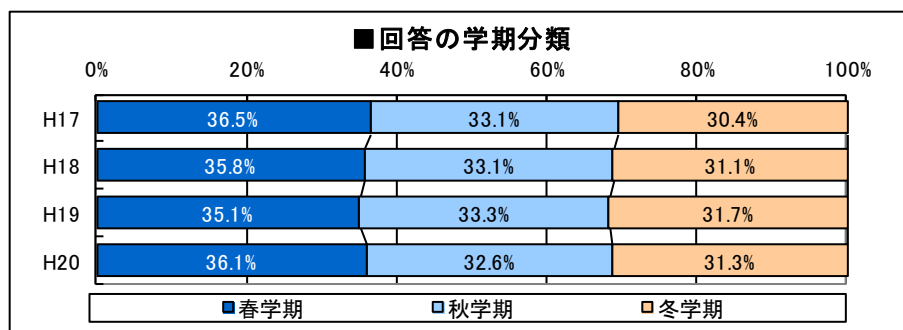
- 平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」の設問は平成14年度より、「K」の設問は平成15年度より内容が同じなので、これらの4つの設問についてはそれぞれの期間に渡って比較を行っている。それら以外の設問は変更後の平成17年度以降で比較を行った。
- 平成27年度の後学期より、設問D(1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。)の選択肢を変更している。これまでは「1. 2時間以上、2. 1～2時間、3. 1時間程度、4. 30分程度、5. 学習は特にしなかった」の5択であったが、後学期からは「1. 3時間以上、2. 2～3時間、3. 1～2時間、4. 1時間程度、5. 30分程度、6. 学習は特にしなかった」の6択とした。これは2時間以上を選択する学生の実態を、より詳細に分析するための変更となる。
- 報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」などもこのルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。

- 学年別の割合を見ると、「1年次」が45.2%、「2年次」が35.2%、「3年次」が過去最少の17.7%、「4年次」が1.9%となっていた。
- 成績別の割合は、「S」が32.6%で前回は3.3ポイント下回っていた。そして、「A」が29.9%、「B」が19.9%、「C」が11.9%、「Z」が5.7%となっていた。



- H21年度以降は2学期制となり、今回の回答数は「前学期」が57.1%、「後学期」が42.9%となっていた。
- 学部・学科構成はH29までは4学部14学科であったが、H30以降は4学部12学科となっており、切り替わりのタイミングで構成比の変化が見られる。今回の割合は「E:工学部」が57.1%と最も多く、R1からの減少傾向が止まっていた。一方、「F:情報フロンティア学部」は増加傾向が止まって18.0%となっていた。そして、「A:建築学部」が15.8%、「B:バイオ・化学部」が9.1%となっていた。

※H30に4学部14学科から4学部12学科に変わり、各学部に含まれる学科が異なっているため、学部ごとの構成比にも大きな変化が出ている。

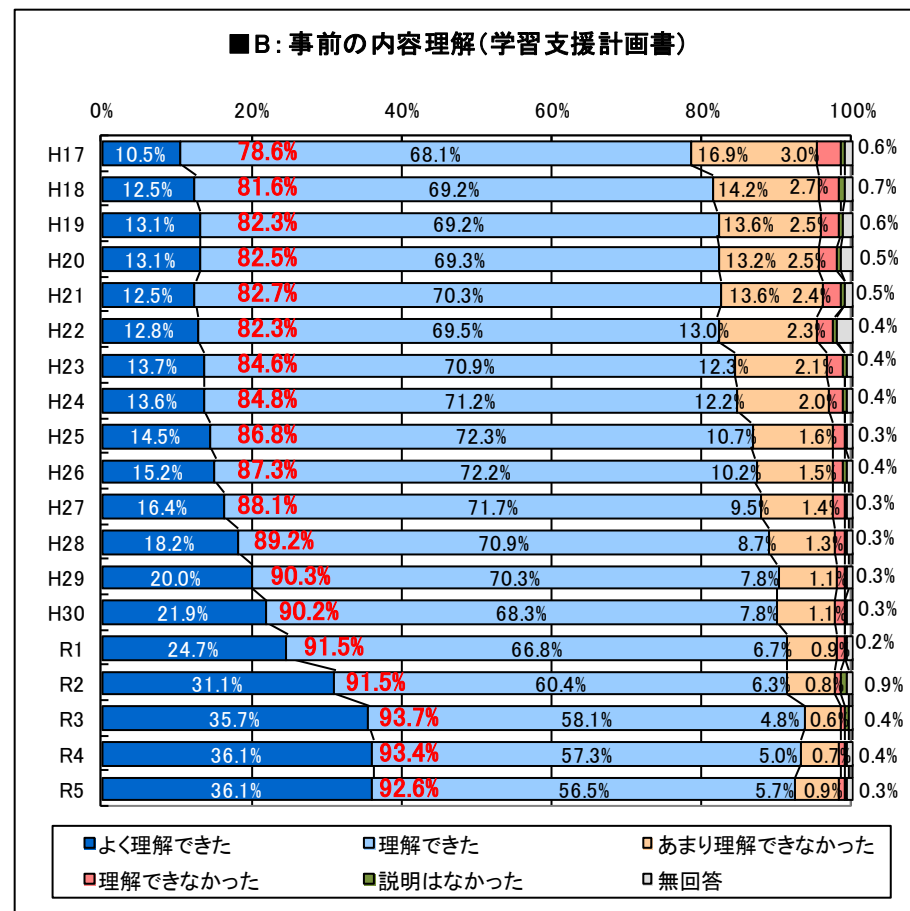
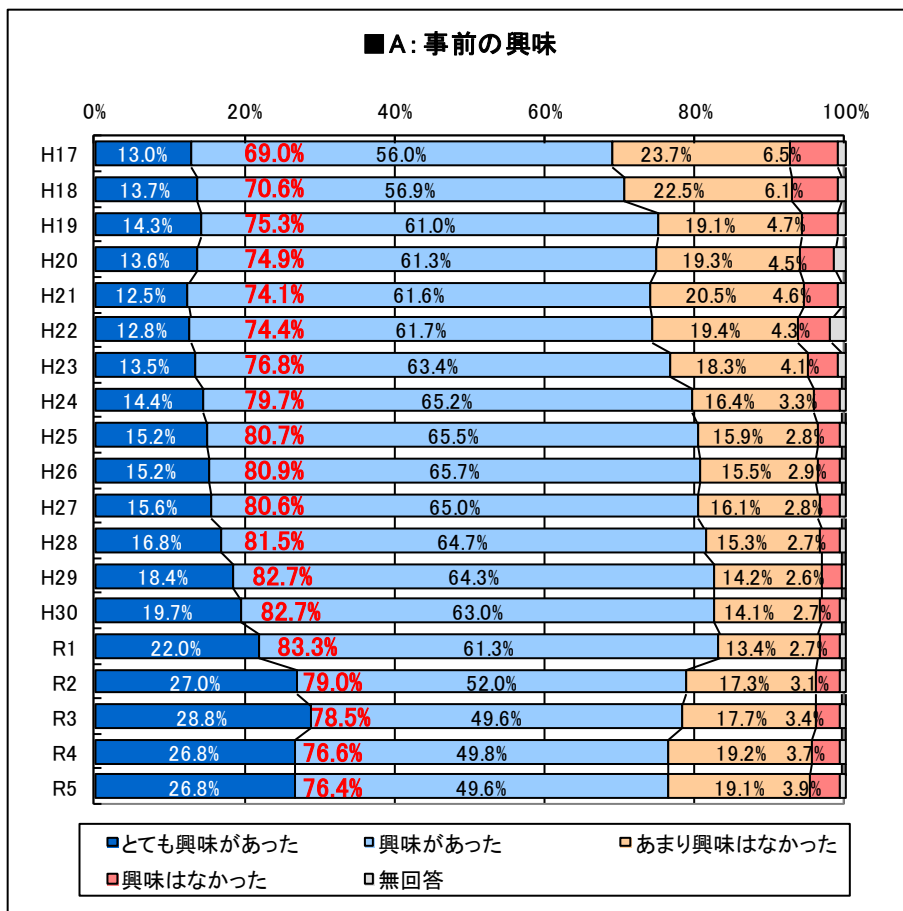


## <2> 基本的な分析



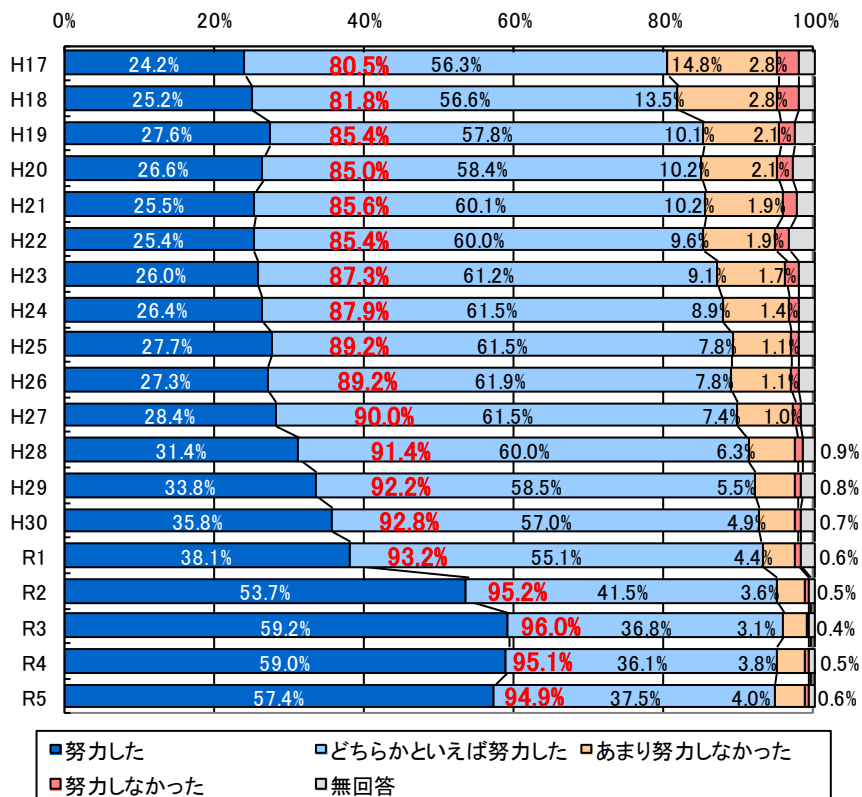
- 経年変化のグラフでは肯定的な意見の合計を赤太文字で示しているが、注意書きにあるように、合計値には誤差が含まれる場合もある。そして、「無回答」の数値はグラフ内に表示していない。
- 「A:事前の興味」の「とても興味があった」は前回と同じ26.8%であった。そして、「興味があった」が前回とほぼ同じ49.6%であり、肯定的な意見の合計は76.4%でほぼ横ばいとなっていた。一方、否定的な意見の合計も横ばいの23.0%であり、授業に興味を持ってないという意見が継続的に約2割を占める状態が続いていた。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」の「よく理解できた」は前回と同じ36.1%であった。そして、「理解できた」はわずかに減少して56.5%であり、肯定的な意見の合計は92.6%と非常に高い状態が続いていた。

※報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」なども、このルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。

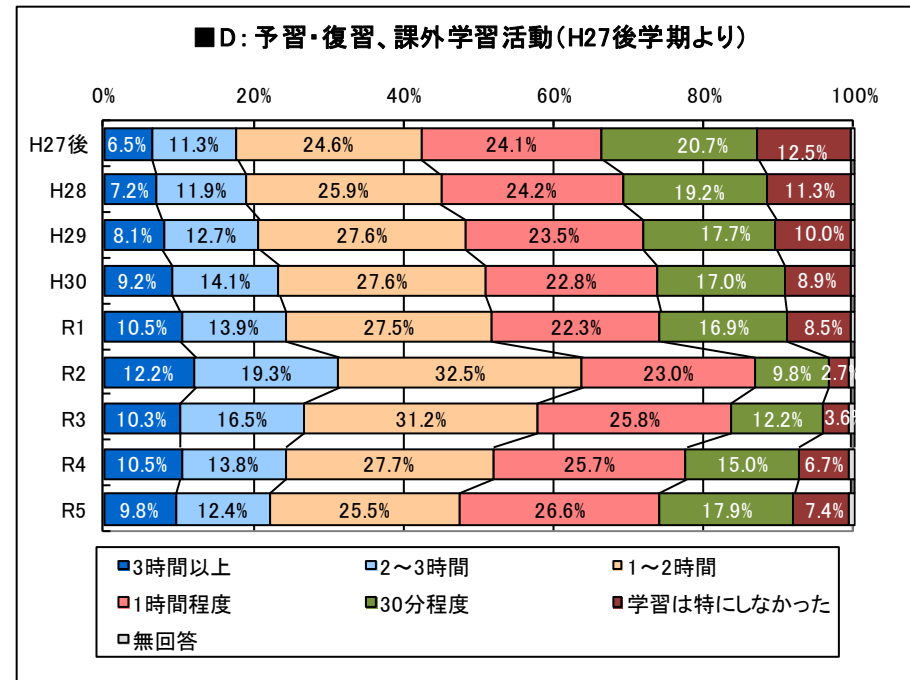
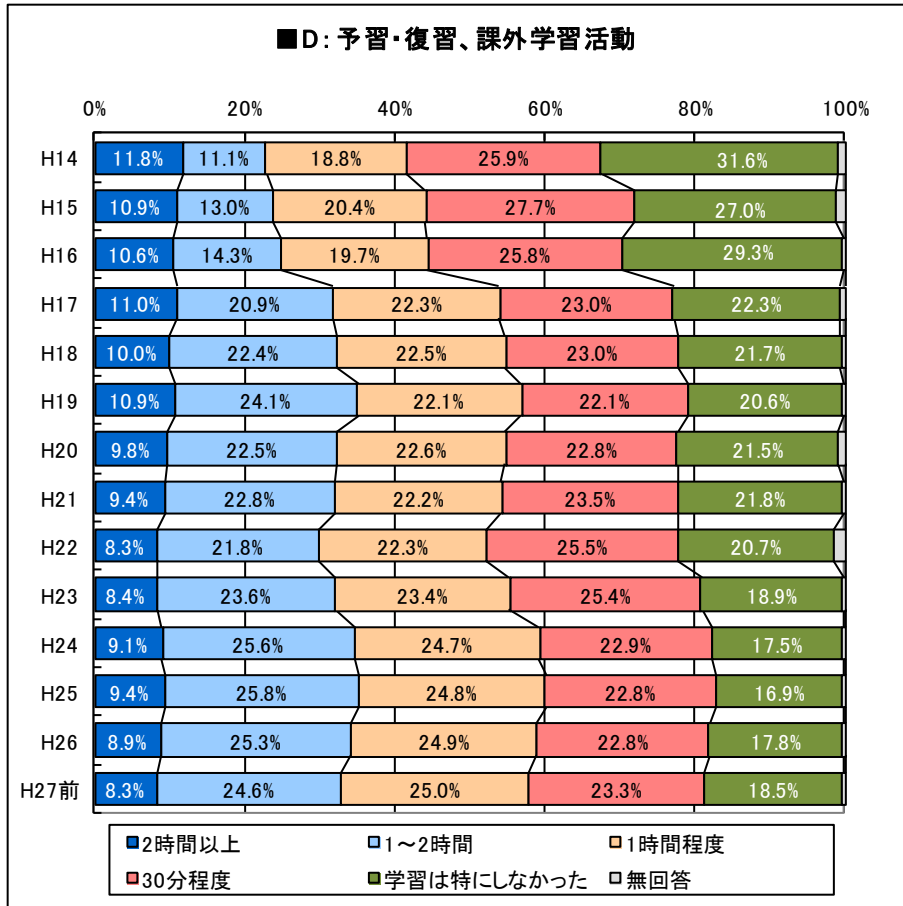


- 「C:自分の熱意と努力」は「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか?」という質問であるが、今回、「努力した」は57.4%であり、R4からわずかずつ減少する傾向が続いていた。そして、「どちらかといえば努力した」は前回より増加して37.5%となり、肯定的な意見の合計はほぼ横ばいの94.9%であり、非常に多くの学生が熱意と努力を持って授業に取り組んでいた。

■ C: 自分の熱意と努力



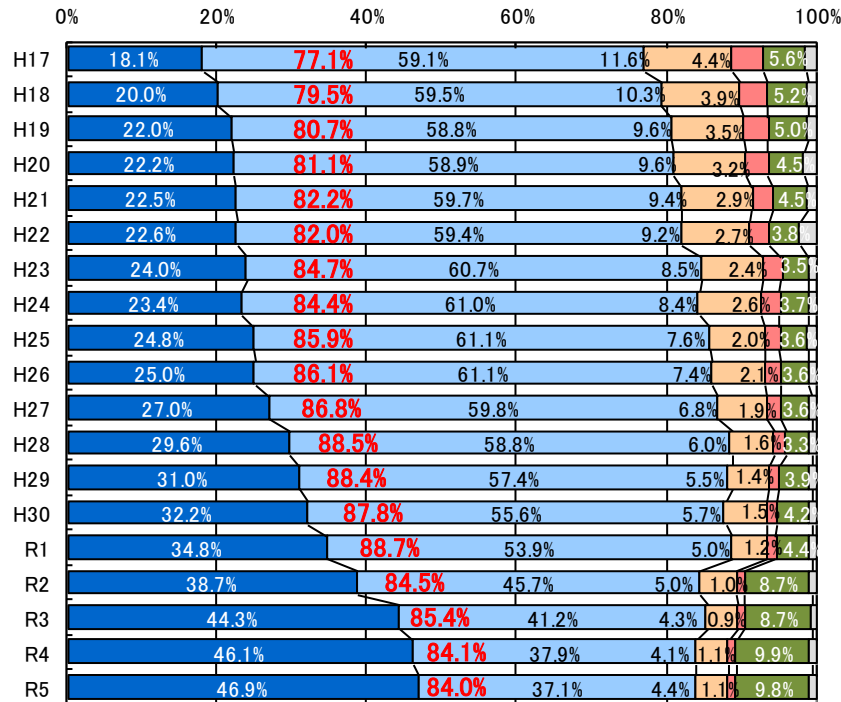
- 「D: 予習・復習、課外学習活動」は「1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか?」という質問であるが、H27後学期(H27後)以降は選択肢を変更したため、別のグラフ(右側)で比較をしている。
- 今回は「3時間以上」が9.8%、「2~3時間」が12.4%、「1~2時間」が25.5%であり、この3分野はすべて前を下回っていた。これらの合計をしっかりと学習時間を確保している層と考え、R3から継続的に減少傾向が続いていた。
- 一方、「1時間程度」は26.6%、「30分程度」は17.9%、「学習は特にしなかった」は7.4%でいずれも前を上回っており、学習時間としては短くなる傾向が続いていた。



※H16までの設問文は「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」であった。  
 ※H27後学期から選択肢が変わったが、設問文は変わっていない。

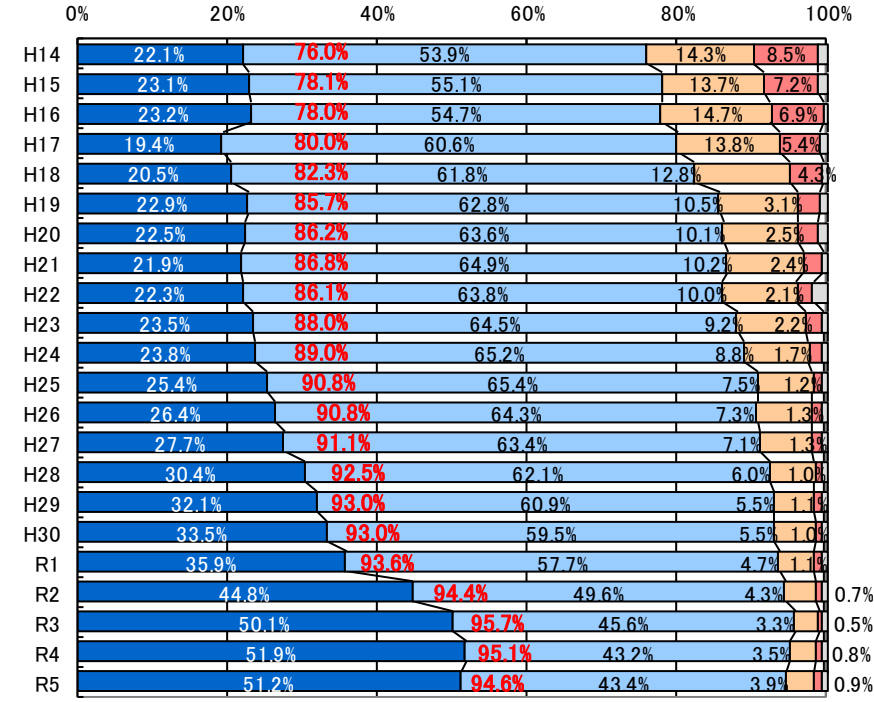
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか?」という質問であるが、「適切だった」は前回は0.8ポイントとわずかに上回って過去最高の46.9%であった。そして、「まあ適切だった」が37.1%であり、肯定的な意見の合計は前回とほぼ同じ84.0%で、R2からの横ばいが続いていた。そして、「教科書・指導書はなかった」も前回とほぼ同じ9.8%となっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか?」という質問であるが、「十分役立った」は前回は0.7ポイントとわずかに下回って51.2%であった。そして、「役立った」が43.4%であり、肯定的な意見の合計は94.6%で、前回より0.5ポイント下回ったものの、非常に高い状態が続いていた。

■E:教科書・指導書の適切さ



■適切だった      □まあ適切だった      □あまり適切ではなかった  
 ■適切ではなかった      ■教科書・指導書はなかった      □無回答

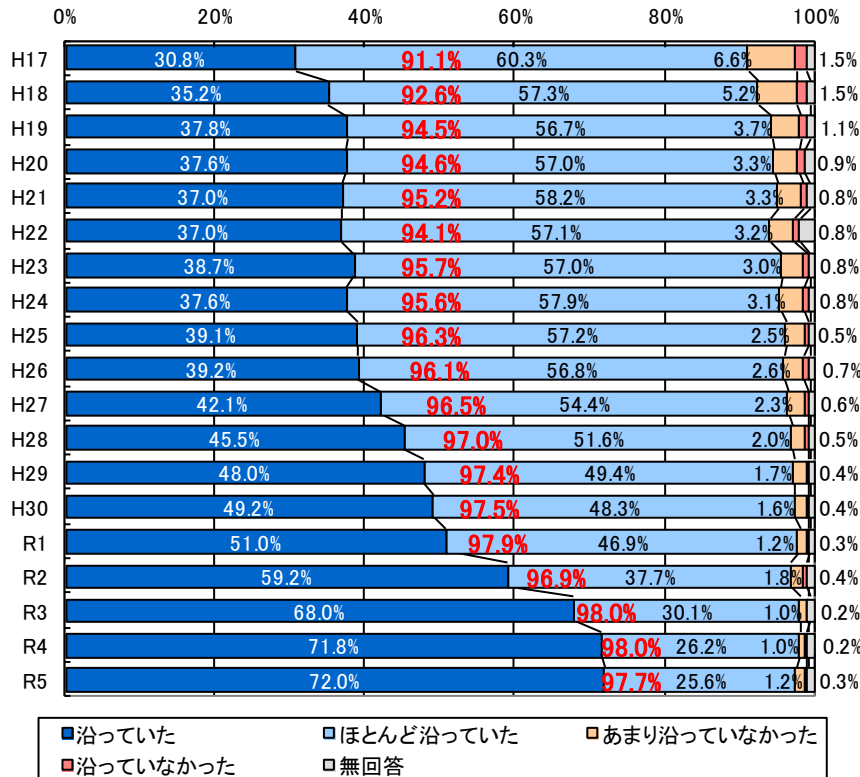
■F:課題・レポートの適切さ



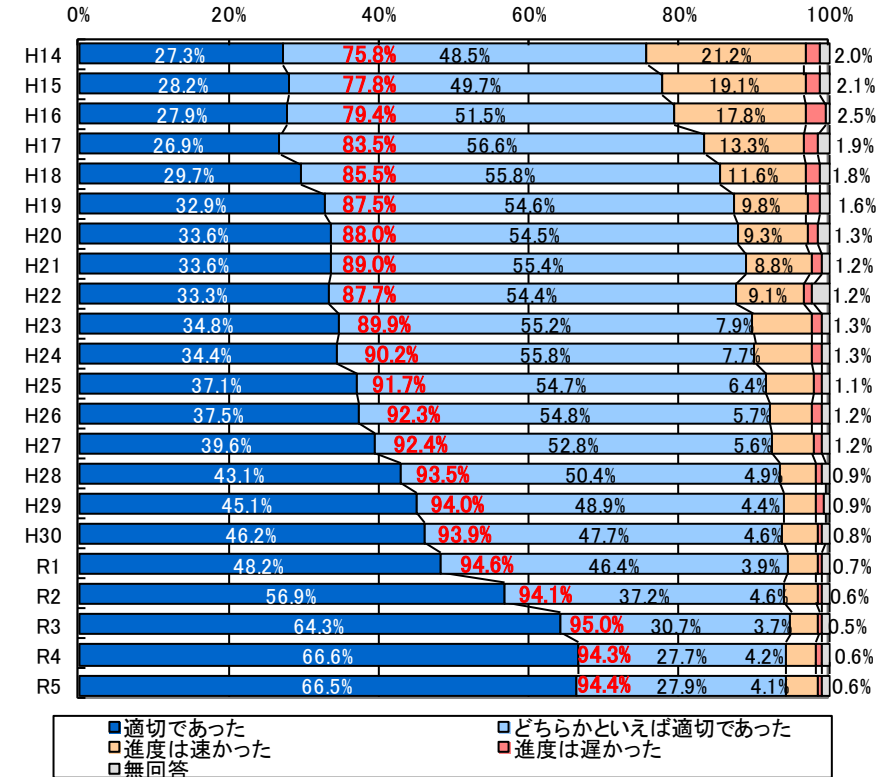
■十分役立った      □役立った  
 ■あまり役立たなかった      ■課題またはレポート等はなかった  
 □無回答

- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか?」という質問であるが、「沿っていた」は前回は0.2ポイントとわずかに上回って過去最高となっていた。そして、「ほとんど沿っていた」は25.6%で、肯定的な意見の合計は97.7%でほぼ横ばいとなっており、非常に高い状態が続いていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか?」という質問であるが、「適切であった」は前回は0.1ポイント下回って66.5%であった。そして、「どちらかといえば適切であった」は27.9%で、肯定的な意見の合計は94.4%で横ばいとなっており、非常に高い状態が続いていた。

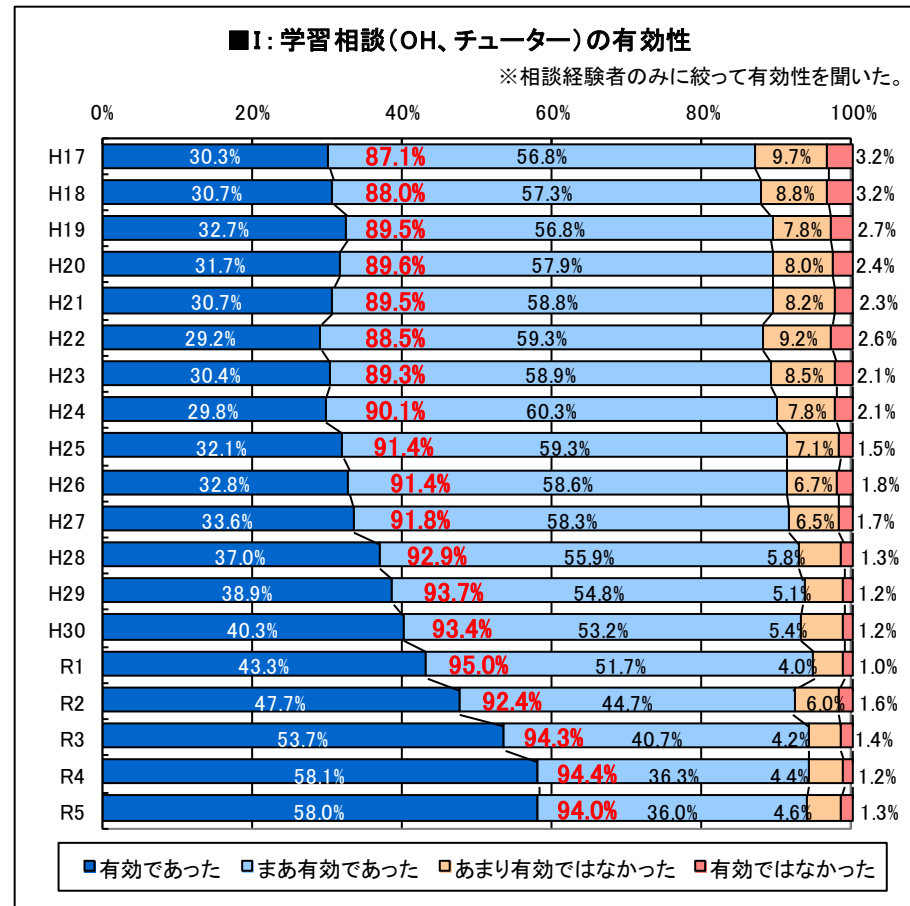
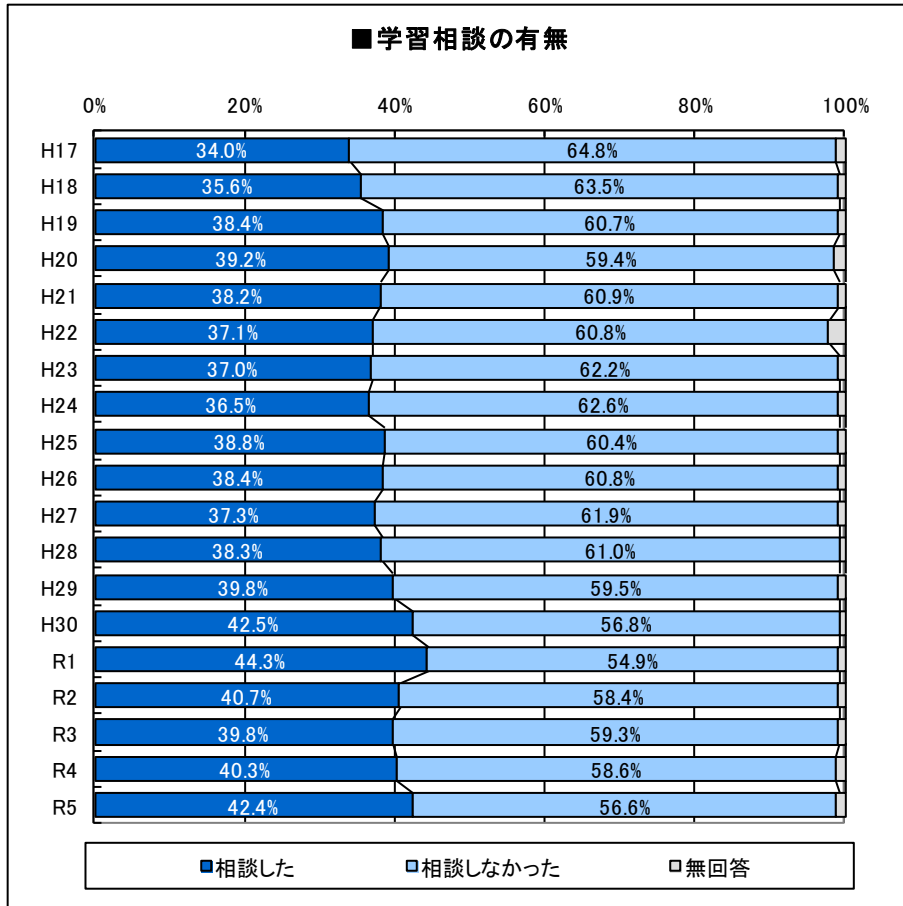
■ G: 学習支援計画書との一致



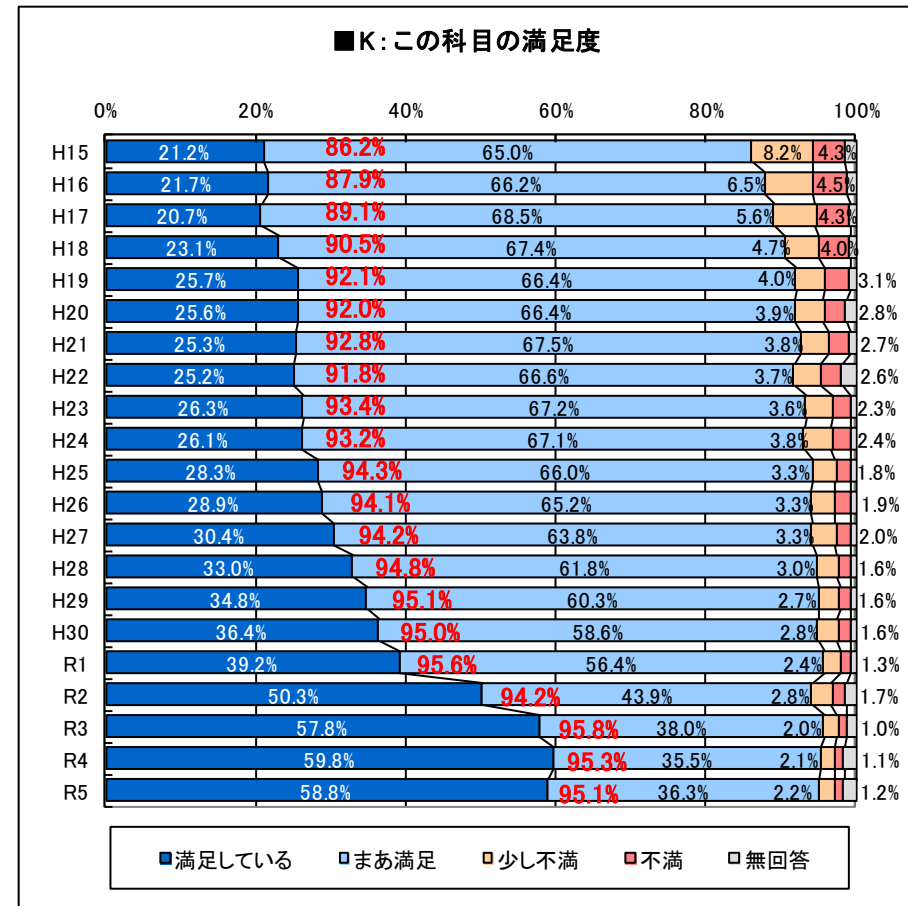
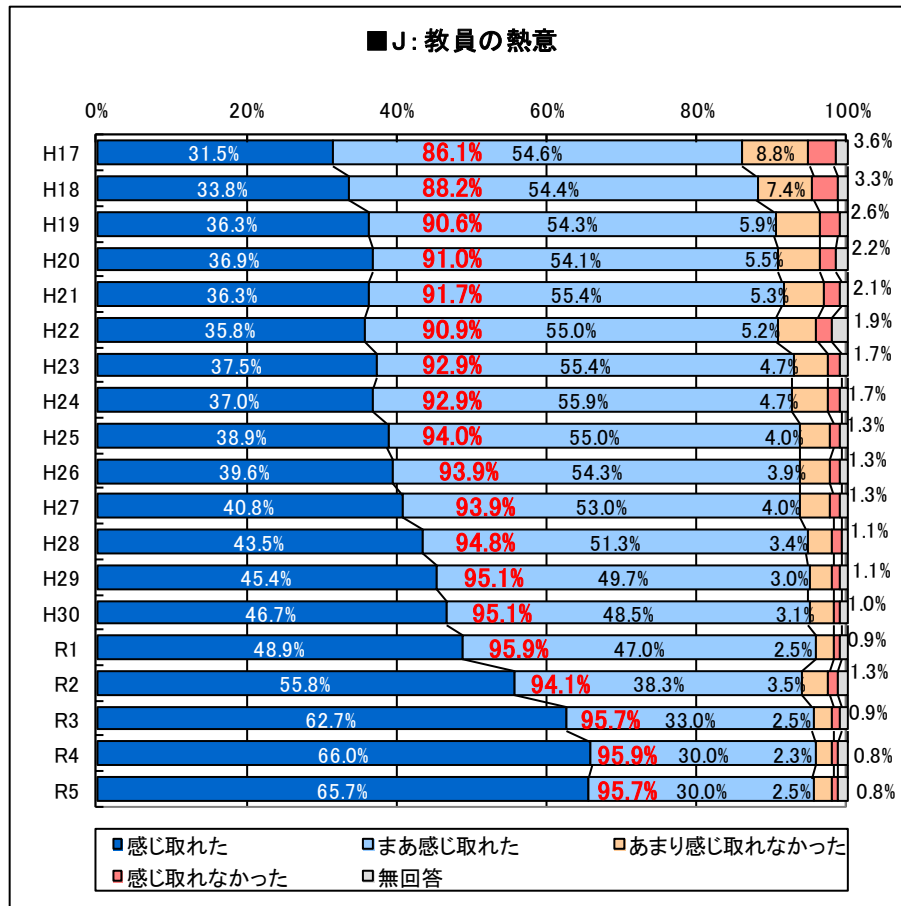
■ H: 授業の進度の適切さ



- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」という質問で、「有効であった」～「有効ではなかった」という内容の評価と、「相談しなかった」という5つの選択肢で聞いている。
- 左のグラフは「有効であった」～「有効ではなかった」の4段階で回答した学生を「相談した」層、それ以外を「相談しなかった」層として比較をしているが、「相談した」は前回は2.1ポイント上回って42.4%、「相談しなかった」は2.0ポイント下回って56.6%であり、大きな変化は見られなかった。
- 右のグラフは「相談した」と回答した学生だけの評価を見ているが、「有効であった」は58.0%で、前回は0.1ポイントとわずかに下回ったもののほぼ横ばいで、非常に高い評価が続いていた。そして、「まあ有効であった」の36.0%を合わせると肯定的な意見の合計は94.0%となり、「学習相談(OH、チューター)」の評価は非常に高い状態を維持していた。



- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じる事ができましたか?」という質問であるが、「感じ取れた」は前回はわずかに下回って65.7%であった。そして、「まあ感じ取れた」は前回と同じ30.0%で、肯定的な意見の合計は過去最高であった前回は0.2ポイント下回って95.7%となっており、ほとんどの学生が授業が教員の熱意を感じていると答えていた。
- 「K:この科目の満足度」では、「満足している」が過去最高であった前回は1.0ポイント下回って58.8%であり、非常に高い満足度で横ばいが続いていた。そして、「まあ満足」の36.3%を合わせると肯定的な意見の合計は95.1%で、ほとんどの学生が授業に満足していると回答しており、非常に高い評価が続いていた。



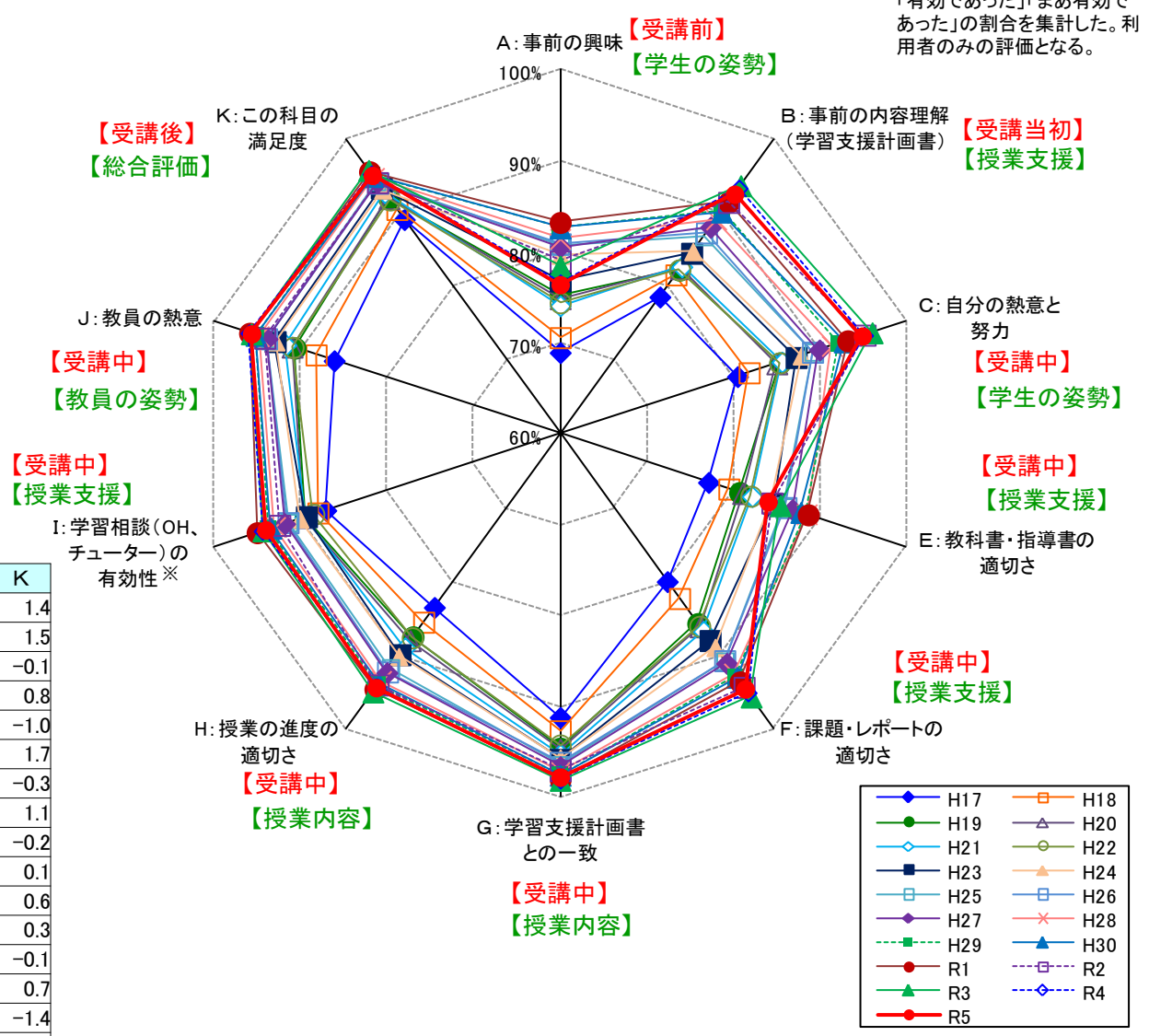
# <2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

- 肯定的な意見の割合(%)をレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 比較のできない「D: 予習・復習、課外学習活動」は除外し、「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」は利用経験者の評価だけを抽出している。
- 今回の肯定的な意見の合計は「H: 授業進度の適切さ」がわずかに前回を上回り、「E: 教科書・指導書の適切さ」は横ばいとなっていたが、他はすべて前を下回っていた。
- 前回から低下していた項目は多いものの、いずれも1.0ポイント以下の低下であり、変化としては全体的に横ばいと言えるものであった。

■ 肯定的な意見の差(単位:ポイント)

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1
H20からH21	-0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	-0.1	0.7	0.8
H21からH22	0.3	-0.4	-0.3	-0.1	-0.7	-1.0	-1.4	-1.1	-0.8	-1.0
H22からH23	2.4	2.2	1.9	2.7	1.9	1.6	2.3	0.9	2.1	1.7
H23からH24	2.8	0.2	0.6	-0.3	0.9	-0.2	0.3	0.8	-0.1	-0.3
H24からH25	1.1	2.0	1.3	1.5	1.8	0.8	1.5	1.3	1.1	1.1
H25からH26	0.3	0.5	-0.1	0.2	0.0	-0.3	0.6	0.1	0.0	-0.2
H26からH27	-0.3	0.7	0.7	0.7	0.4	0.5	0.1	0.5	-0.1	0.1
H27からH28	0.9	1.0	1.4	1.7	1.4	0.5	1.1	1.1	1.0	0.6
H28からH29	1.3	1.1	0.8	0.0	0.5	0.4	0.5	0.8	0.3	0.3
H29からH30	-0.1	-0.1	0.6	-0.5	0.0	0.1	-0.1	-0.3	0.1	-0.1
H30からR1	0.6	1.3	0.4	0.9	0.6	0.4	0.7	1.6	0.7	0.7
R1からR2	-4.3	0.0	2.0	-4.2	0.7	-1.0	-0.6	-2.6	-1.7	-1.4
R2からR3	-0.5	2.3	0.8	1.0	1.3	1.1	1.0	1.9	1.6	1.7
R3からR4	-1.9	-0.3	-0.9	-1.4	-0.6	-0.1	-0.7	0.1	0.2	-0.5
R4からR5	-0.2	-0.8	-0.2	0.0	-0.5	-0.3	0.1	-0.4	-0.3	-0.2

■ 比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

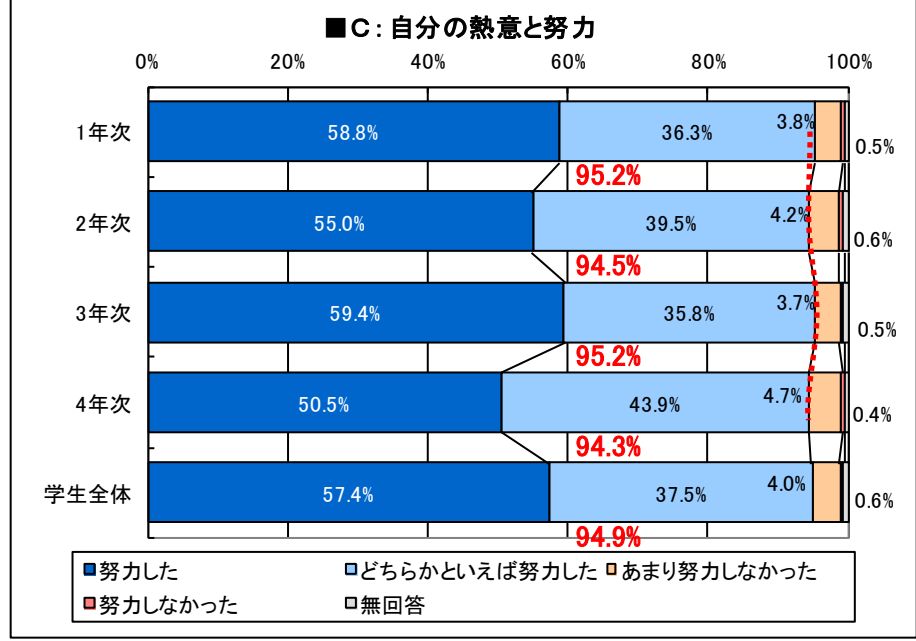
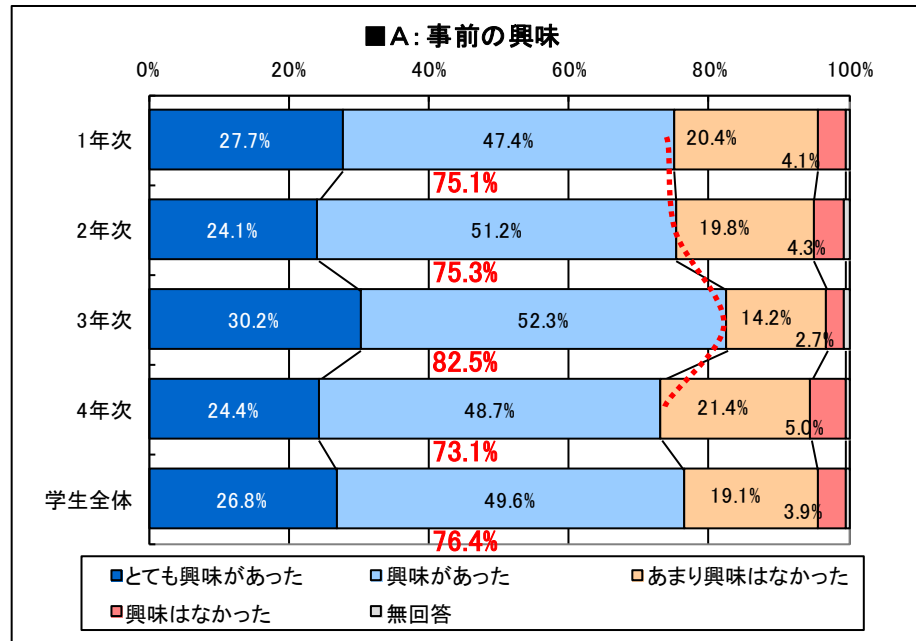
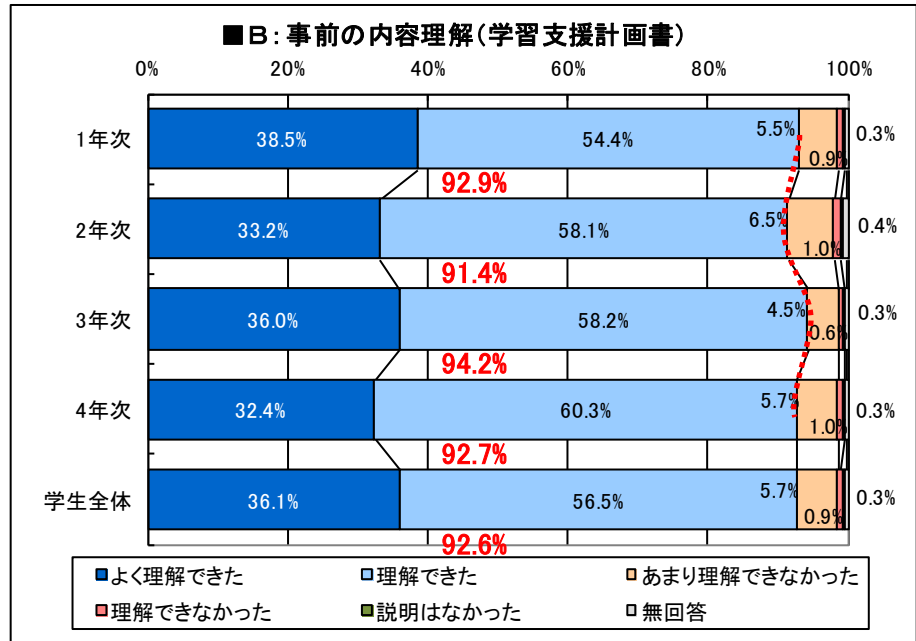


※「I: 学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者のみの評価となる。

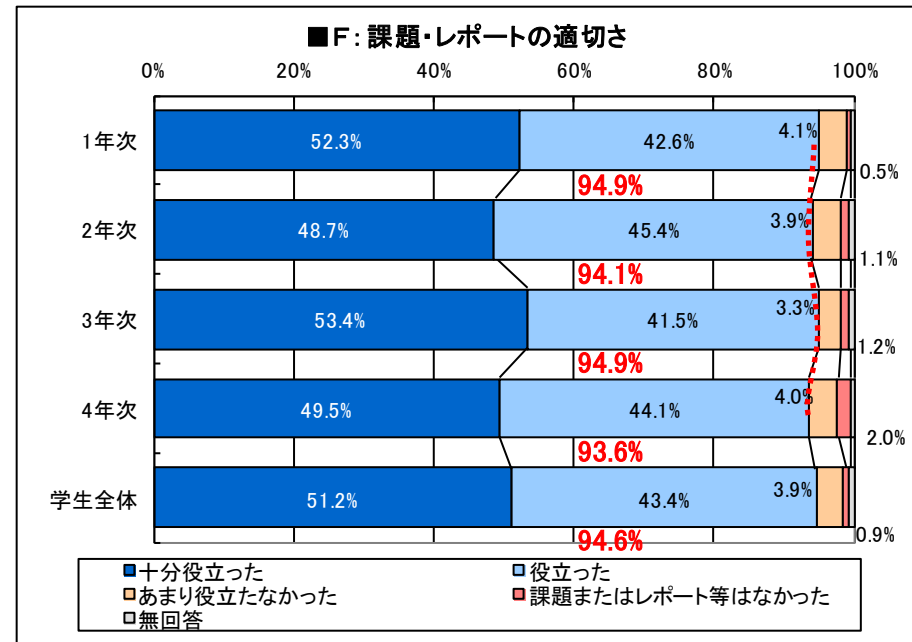
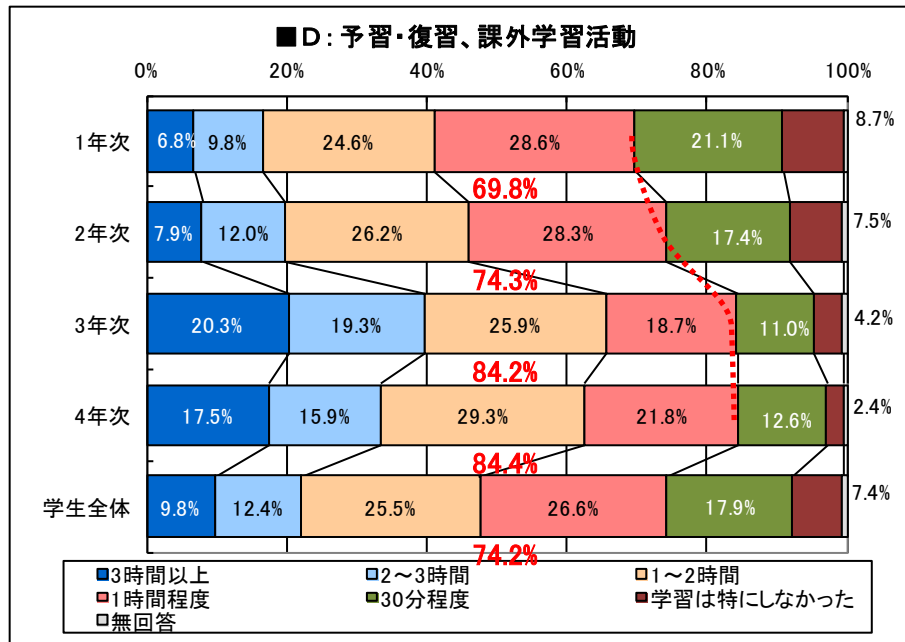
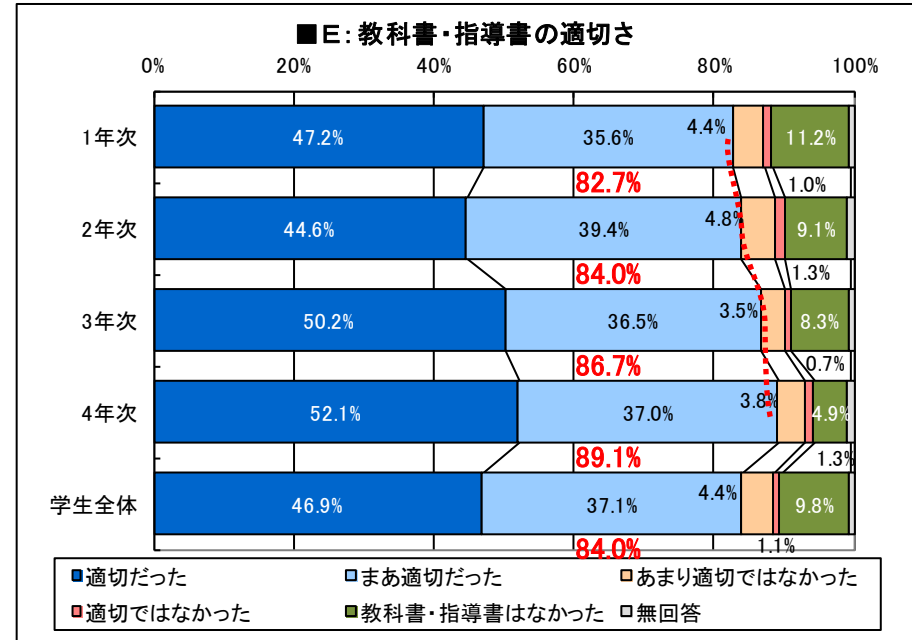


### <3> 学年別の分析

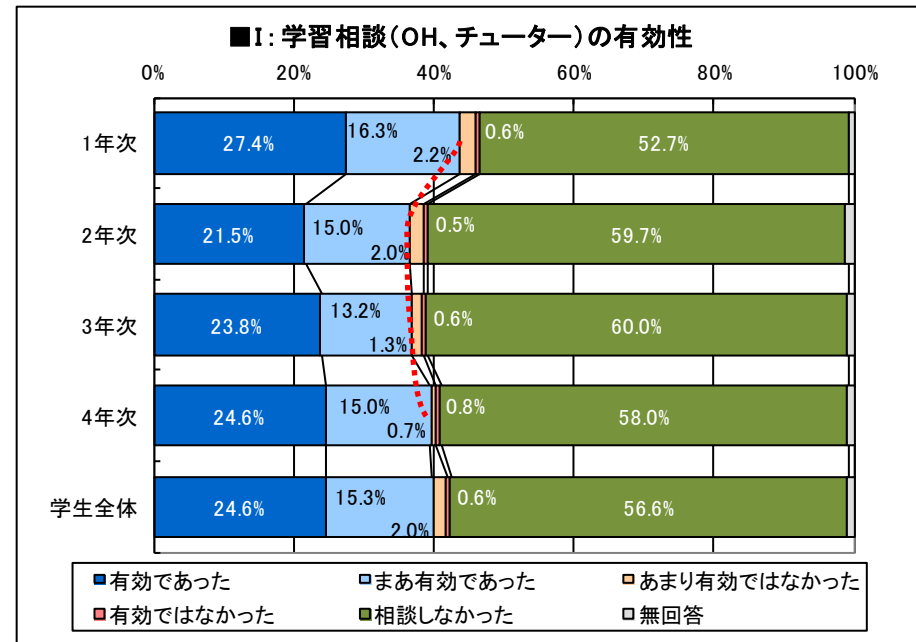
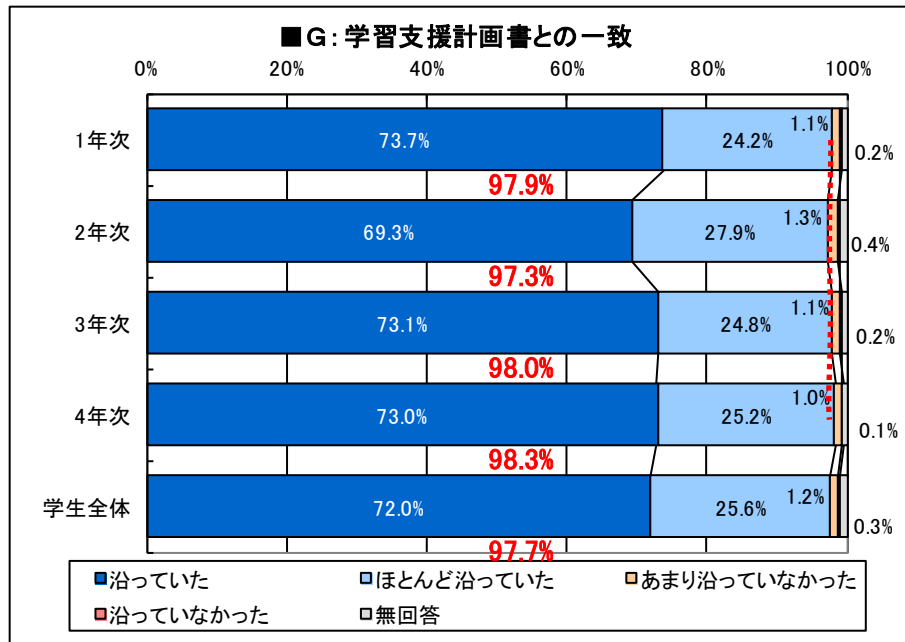
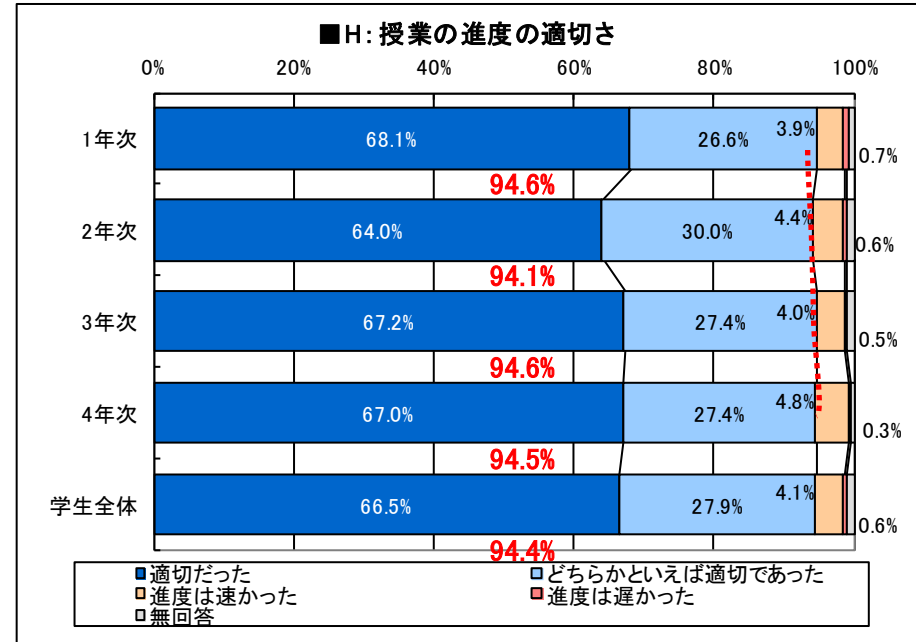
- グラフ中の赤太文字は、肯定的な意見の合計を示している。
- 「A:事前の興味」の肯定的な意見の合計を見ると、事前の興味が最も強かったのは「3年次」の82.5%であり、他の学年との差が大きかった。そして、「1年次」と「2年次」がほぼ同じで続き、「4年次」が最も低い73.1%となっていた。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」の肯定的な意見の合計は学年による差が小さく、最も高かったのは「3年次」の94.2%、最も低かったのは「2年次」の91.4%であり、いずれの学年でも高い評価となっていた。
- 「C:自分の熱意と努力」の肯定的な意見の合計も学年による差が小さく、「1年次」と「3年次」が共に95.2%で最も高く、「4年次」が94.3%で最も低かったが、いずれの学年でも高い熱意と努力が感じられた。ただし、「努力した」だけを見ると「4年次」が50.5%でやや低かった。



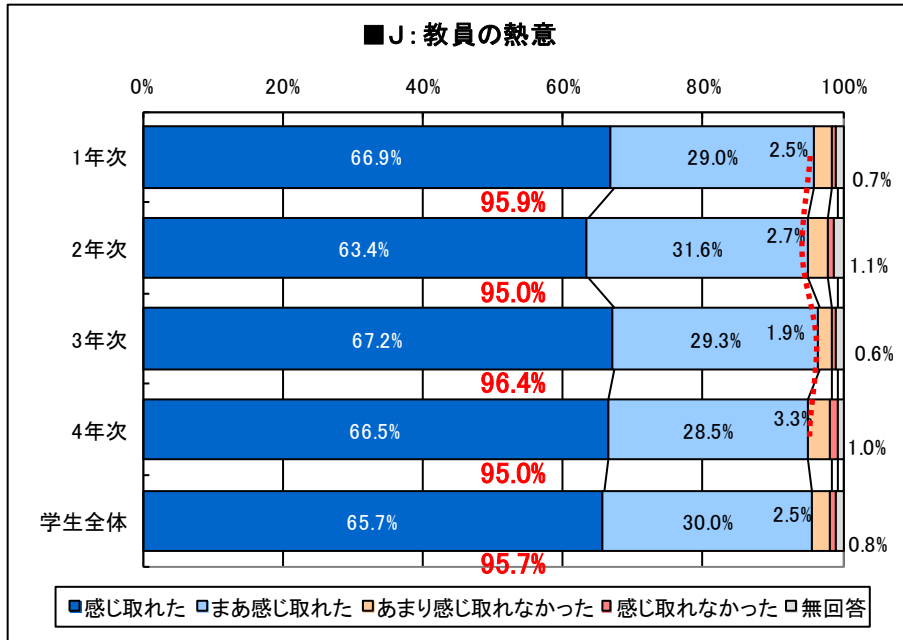
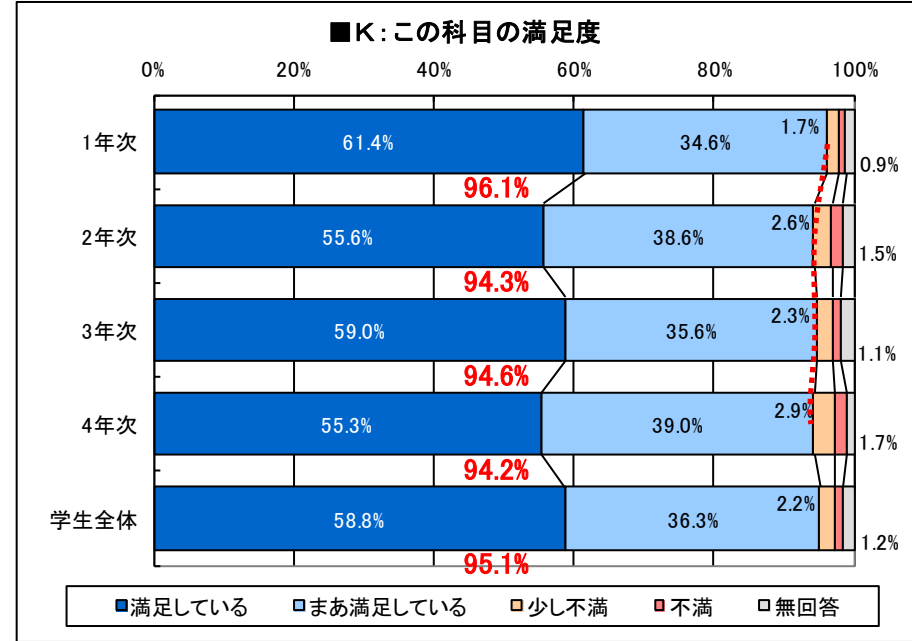
- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「1時間程度」までの合計(グラフ内の赤太文字)で学年別に見ると、「1年次」から順に69.8%、74.3%、84.2%、84.4%となっており、「3年次」「4年次」の差はほとんどないものの、高学年ほど学習時間が長い傾向が見られた。特に「3時間以上」は「3年次」が20.3%と最も多く、しっかりと学習時間を確保している様子うかがえた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」の肯定的な意見の合計は学年による差が小さかったが、「1年次」の82.7%から「4年次」の89.1%へと、高学年ほど高い評価になっていた。そして、「教科書・指導書はなかった」は、高学年ほど少なくなる傾向となっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」の肯定的な意見の合計も学年による差が小さく、差は最大で1.3ポイントであった。そして、学年との相関関係はなく、いずれの学年でも95%近くが肯定的な意見であり、非常に高い評価であった。



- 「G:学習支援計画書との一致」の肯定的な意見の合計はいずれの学年でも98%程度であり、学年による差は最大でも1.0ポイントと小さかった。そして、「沿っていた」だけを見てもほぼ7割以上であり、非常に高い評価となっていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」の肯定的な意見の合計はいずれの学年でも94%程度であり、非常に高い評価となっていた。そして、学年による差は最大でも0.5ポイントと小さく、評価の差や学年との相関関係は見られなかった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」では、「1年次」で「相談しなかった」が52.7%とやや少ない点が特徴的であった。そして、有効性の評価を見ると、いずれの学年でも否定的な意見は3%以下に収まっており、高い評価となっていた。「有効であった」の割合を学年別に比較すると、「1年次」が27.4%と高さが目立っており、最も少なかったのは「2年次」の21.5%であった。



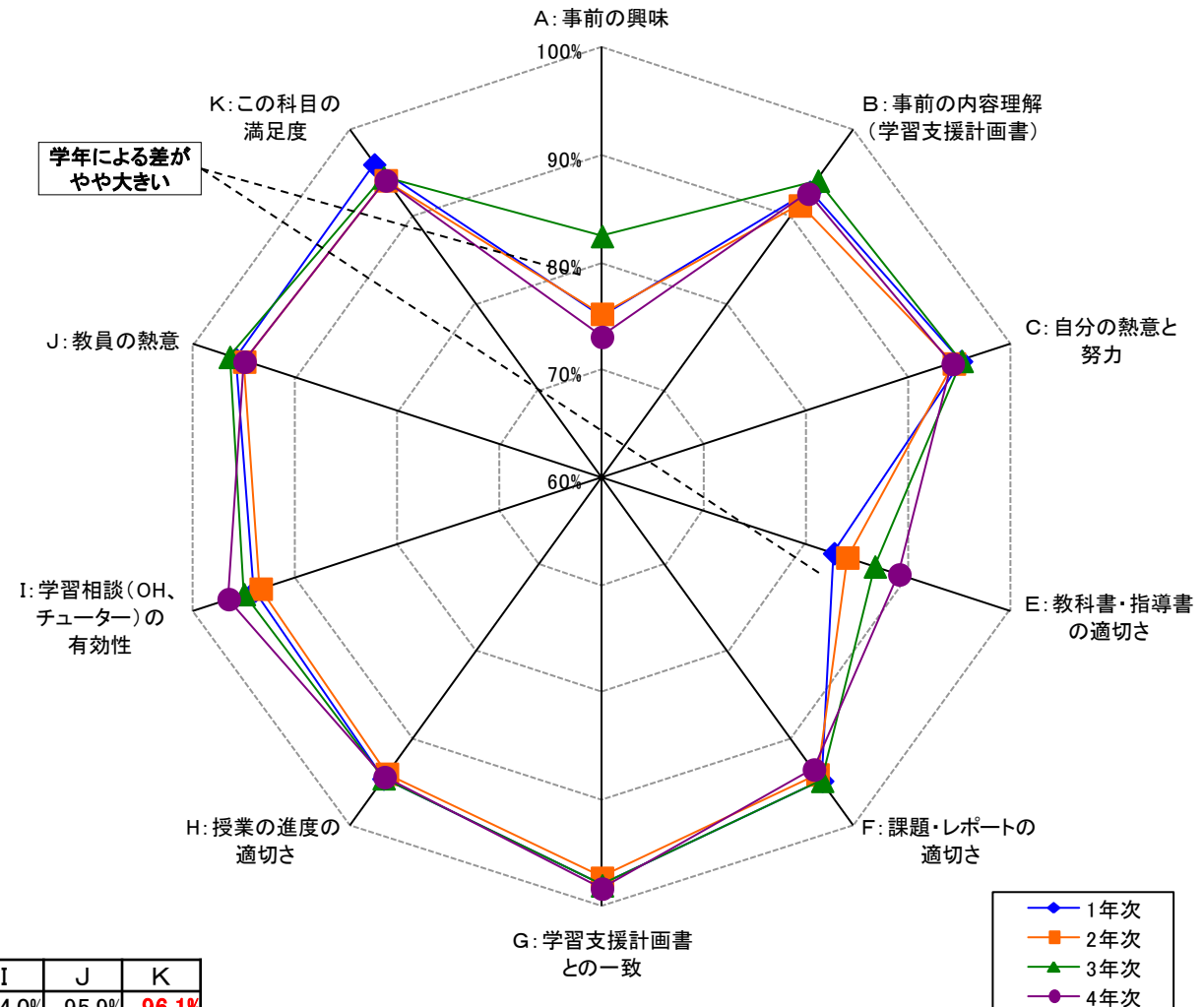
- 「J:教員の熱意」の肯定的な意見の合計は、いずれの学年でも95%を超えて非常に高い評価となっていた。「感じ取れた」だけを見ると、「3年次」が67.2%で最も多く、「2年次」が63.4%で最も少なかったが、これも十分に高い評価と言える。
- 「K:この科目の満足度」の肯定的な意見の合計も、全学年で94%を超えており、非常に高い満足度となっていた。最も高かったのは「1年次」の96.1%であり、「3年次」が94.6%、「2年次」が94.3%、「4年次」が94.2%で続いており、学年による差は最大で1.9ポイントであった。そして、「満足している」だけを見ても「1年次」が61.4%と最も多かった。



# <3-2> 肯定的な意見の学年別比較

- 肯定的な意見の割合を学年別にレーダーチャートにプロットし、比較を行った。
- 学年による差の大きさが目立っていたのは「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」であったが、特に「A:事前の興味」では「3年次」以外が低い点が特徴的であった。
- 上記以外の項目では学年による大きな差は見られなかった。そして、下記の表を見ると、肯定的な意見は「3年次」で多く、「2年次」で少なめであった。ただし、差はわずかであった。

### ■ 学年別比較レーダーチャート



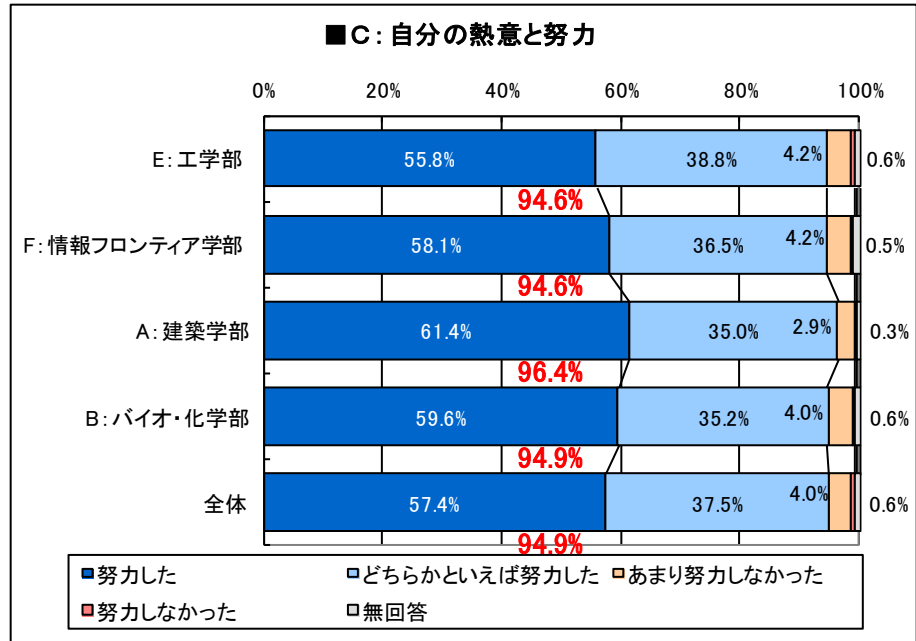
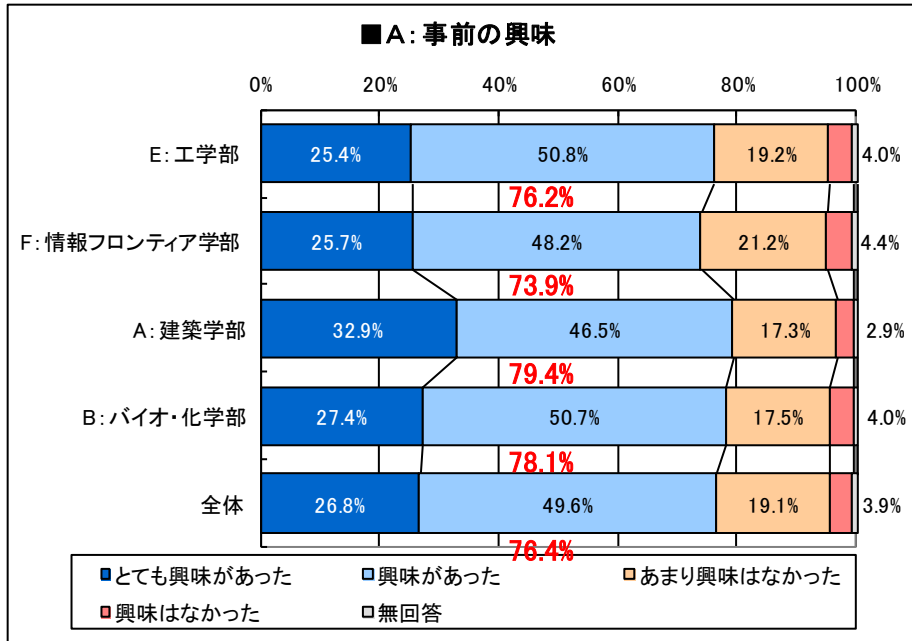
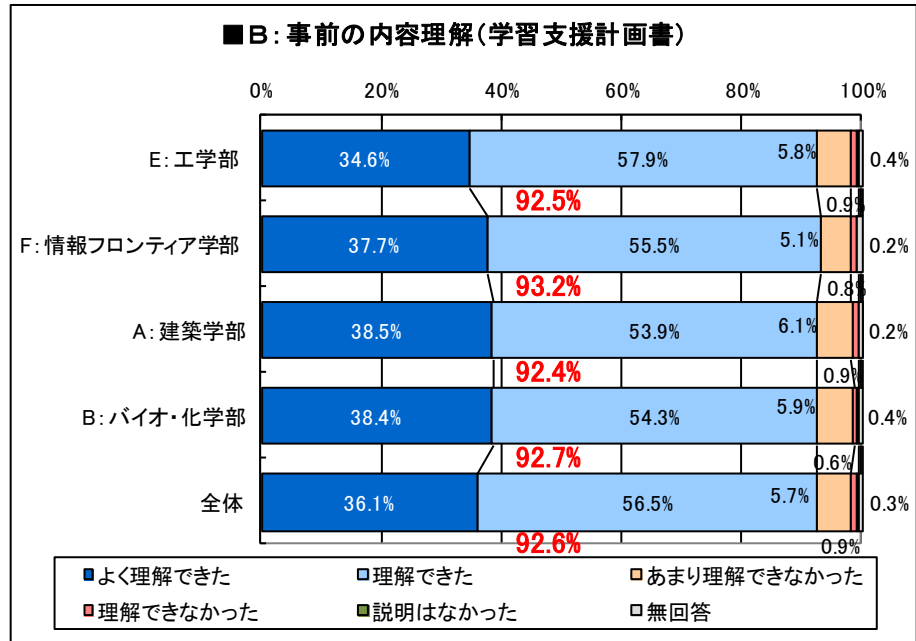
### ■ 学年別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次	75.1%	92.9%	95.2%	82.7%	94.9%	97.9%	94.6%	94.0%	95.9%	96.1%
2年次	75.3%	91.4%	94.5%	84.0%	94.1%	97.3%	94.1%	93.4%	95.0%	94.3%
3年次	82.5%	94.2%	95.2%	86.7%	94.9%	98.0%	94.6%	95.1%	96.4%	94.6%
4年次	73.1%	92.7%	94.3%	89.1%	93.6%	98.3%	94.5%	96.6%	95.0%	94.2%

※最高が赤太文字、最低が青太文字としている。

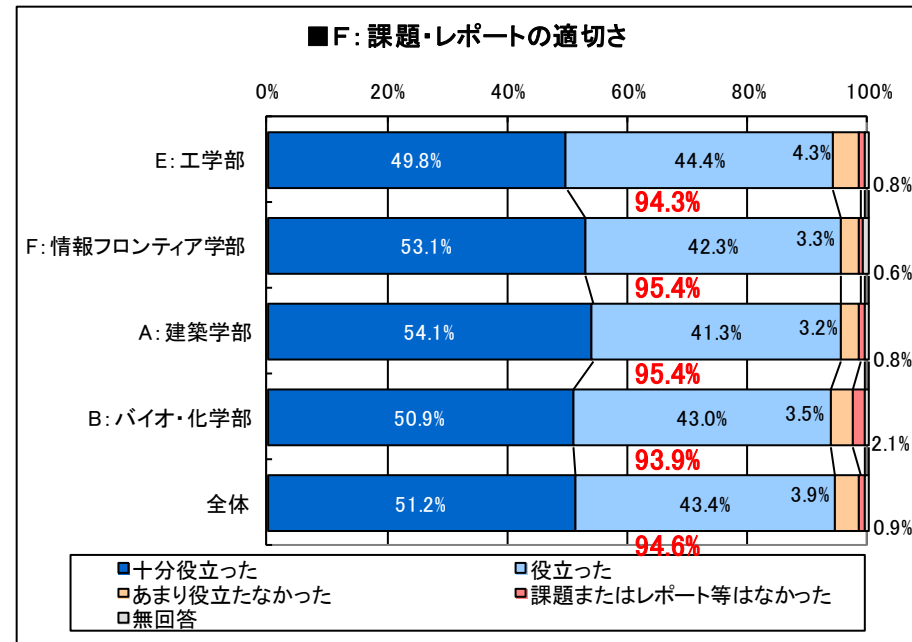
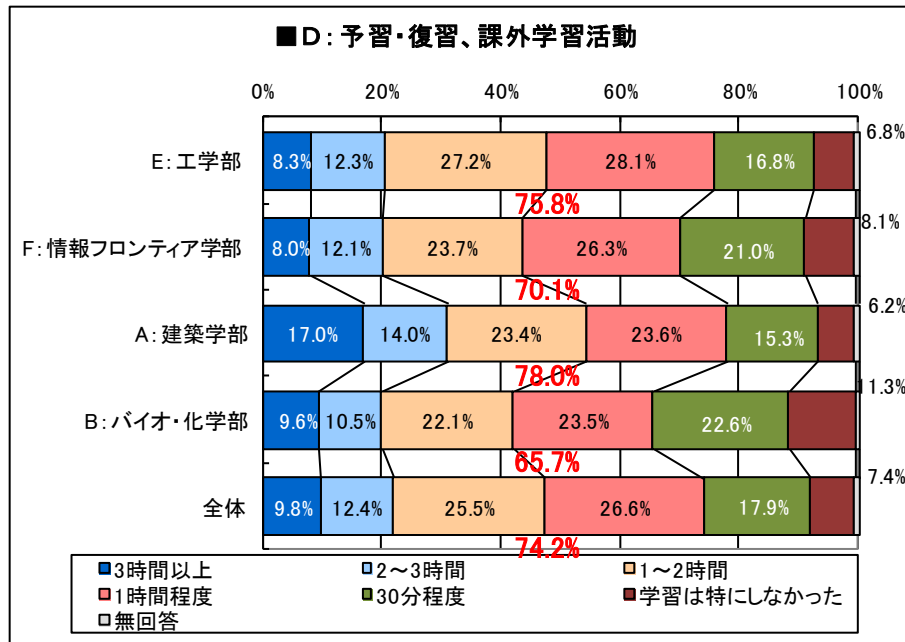
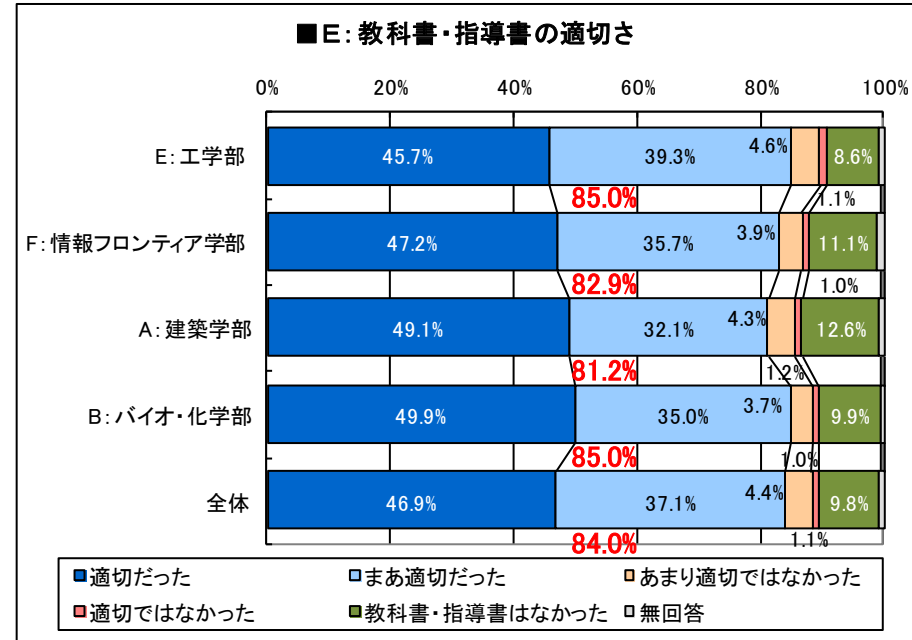
## <4> 学部・学科別の分析

- 「A:事前の興味」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の79.4%であり、特に「とても興味があった」が32.9%と多く、興味の強さがうかがえた。次いで、「B:バイオ・化学部」が78.1%、「E:工学部」が76.2%、「F:情報フロンティア学部」が73.9%と続いており、学部間の差は最大で5.5ポイントであった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」で肯定的な意見が最も多かったのは「F:情報フロンティア学部」の93.2%であったが、次いで「B:バイオ・化学部」が92.7%、「E:工学部」が92.5%、「A:建築学部」が92.4%と続いており、学部間の差は最大で0.8ポイントと小さかった。
- 「C:自分の熱意と努力」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の96.4%であり、「努力した」も61.4%と多かった。次いで、「B:バイオ・化学部」が94.9%、「E:工学部」と「F:情報フロンティア学部」が94.6%と続いており、学部間の差は最大で1.8ポイントと小さく、いずれの学部でも高い熱意と努力が感じられた。



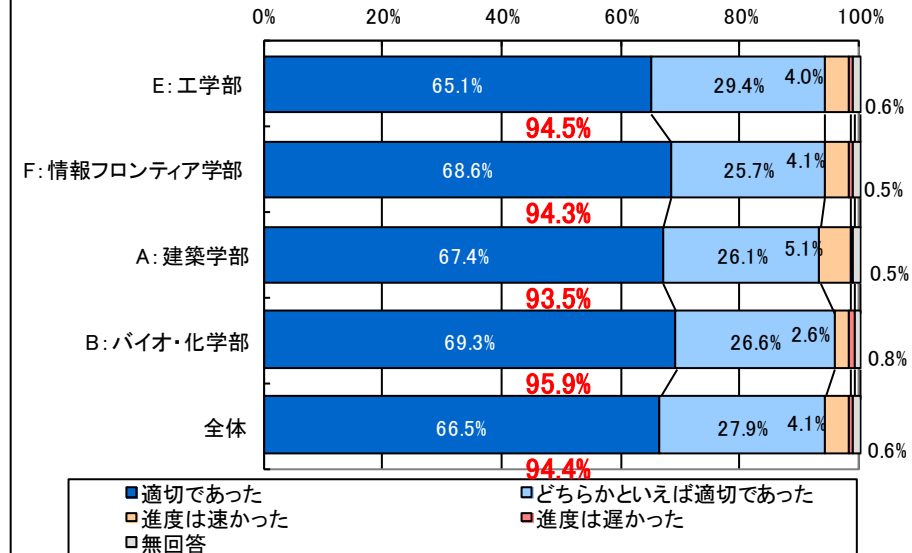


- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「1時間程度」までの合計を学部別に見ると、最も多かったのは「A:建築学部」の78.0%で、特に「3時間以上」が17.0%と多さが目立っており、しっかりと学習時間を確保しているようであった。次いで、「E:工学部」が75.8%、「F:情報フロンティア学部」が70.1%、「B:バイオ・化学部」が65.7%と続いており、差は最大で12.3ポイントとやや大きかった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「E:工学部」と「B:バイオ・化学部」の85.0%であったが、「適切だった」だけを見ると、各々、45.7%、49.9%と差が見られた。次いで、「F:情報フロンティア学部」が82.9%、「A:建築学部」が81.2%と続いており、「A:建築学部」では「教科書・指導書はなかった」が12.6%と多い点が特徴的であった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「F:情報フロンティア学部」と「A:建築学部」の95.4%であり、「E:工学部」が94.3%、「B:バイオ・化学部」が93.9%と続いており、いずれも非常に高い評価となっていた。

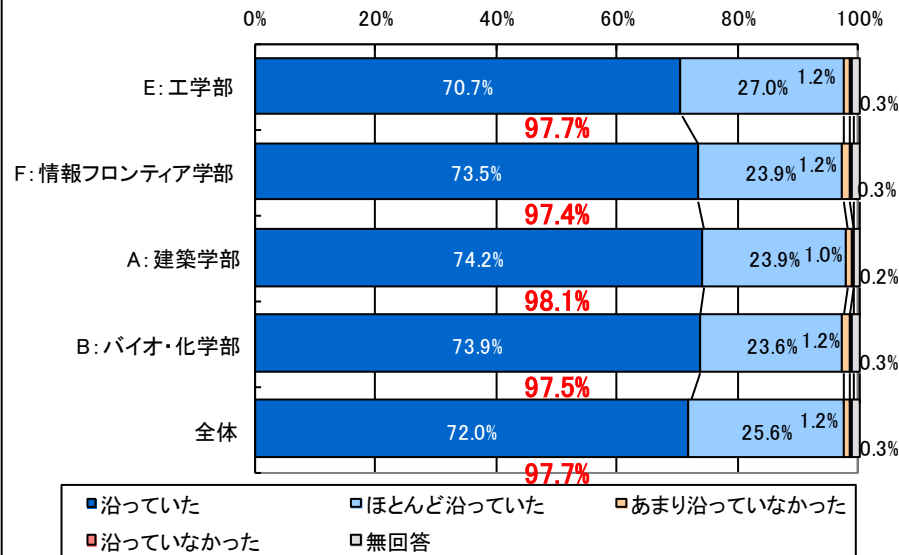


- 「G:学習支援計画書との一致」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の98.1%であり、「E:工学部」が97.7%、「B:バイオ・化学部」が97.5%、「F:情報フロンティア学部」が97.4%で続いていた。「沿っていた」だけを見ると「E:工学部」が70.7%とやや少なかったが、いずれの学部でも学習支援計画書の評価は非常に高かった。
- 「H:授業の進度の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「B:バイオ・化学部」の95.9%であった。次いで、「E:工学部」が94.5%、「F:情報フロンティア学部」が94.3%、「A:建築学部」が93.5%と続いている、いずれも高い評価で、学部間の差も2.4ポイントと小さかった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を見ると、「F:情報フロンティア学部」が58.8%、「E:工学部」が58.5%となっており、この2学部がやや多かった。そして、有効性を見ると、いずれの学部でも否定的な意見は3%に満たず、利用者からの評価は非常に高いと言える。

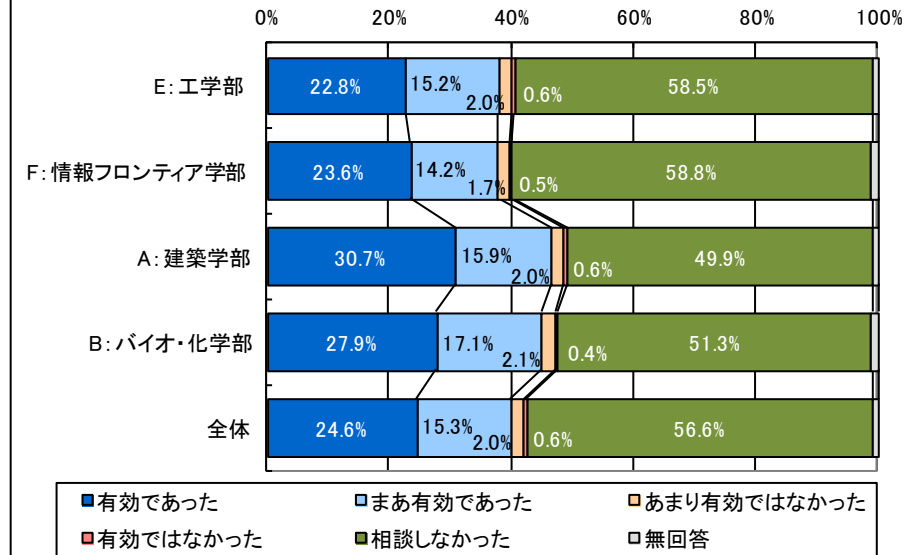
■H: 授業の進度の適切さ



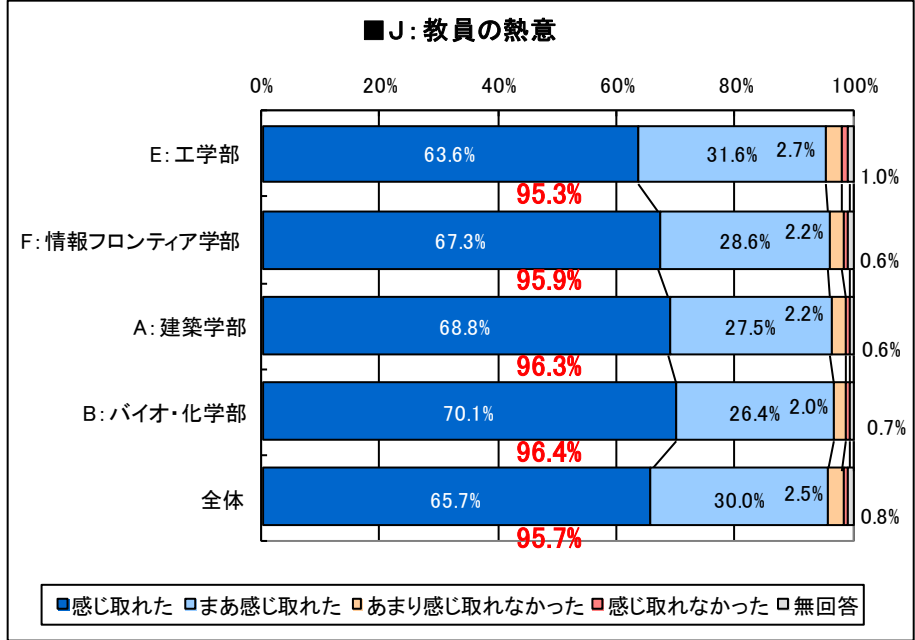
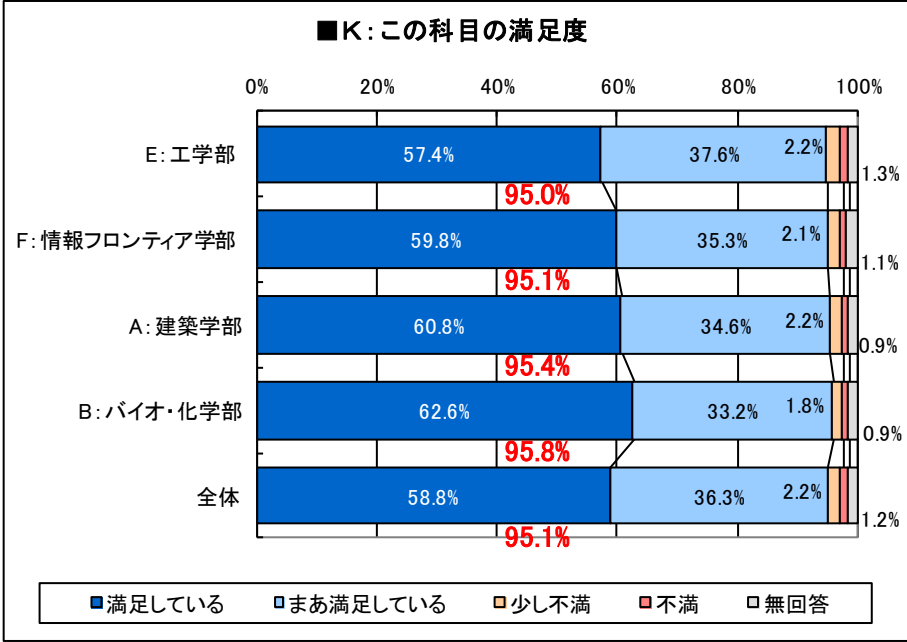
■G: 学習支援計画書との一致



■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性



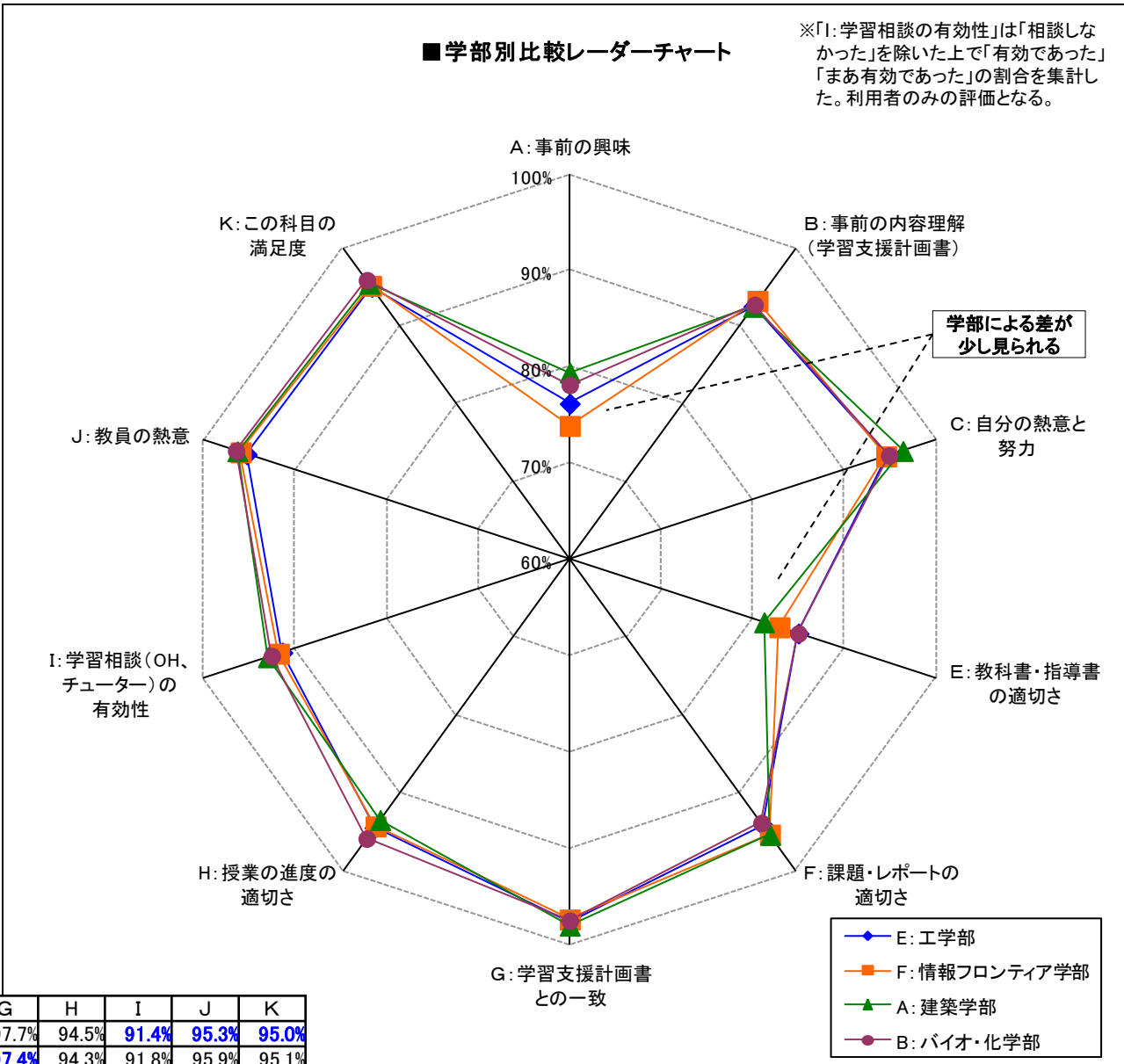
- 「J:教員の熱意」で肯定的な意見が最も多かったのは「B:バイオ・化学部」の96.4%であり、「A:建築学部」が96.3%、「F:情報フロンティア学部」が95.9%、「E:工学部」が95.3%と続いており、いずれも非常に高い評価であった。そして、「感じ取れた」だけを見ても上記と同じ傾向であり、最も多い「B:バイオ・化学部」では70.1%が教員の熱意を強く感じていると答えていた。
- 「K:この科目の満足度」で肯定的な意見が最も多かったのは「B:バイオ・化学部」の95.8%であり、次いで「A:建築学部」が95.4%、「F:情報フロンティア学部」が95.1%、「E:工学部」が95.0%と続き、「J:教員の熱意」と同じ傾向となっていた。そして、「満足している」だけを見ても「B:バイオ・化学部」が62.6%で最も多く、最も少ない「E:工学部」でも57.4%であり、いずれの学部も非常に高い満足度となっていた。



- 肯定的な意見の割合を学部別にレーダーチャートにプロットし、比較を行った。
- 全体的に学部による大きな差は見られなかったが、「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」で少し差が見られた。
- 下表の数値を見ると、「A:建築学部」が5項目で最も高く、「E:工学部」が4項目で最も低かったが、いずれも大きな差ではなかった。

■学部別比較レーダーチャート

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者からのみの評価となる。



■学部別比較

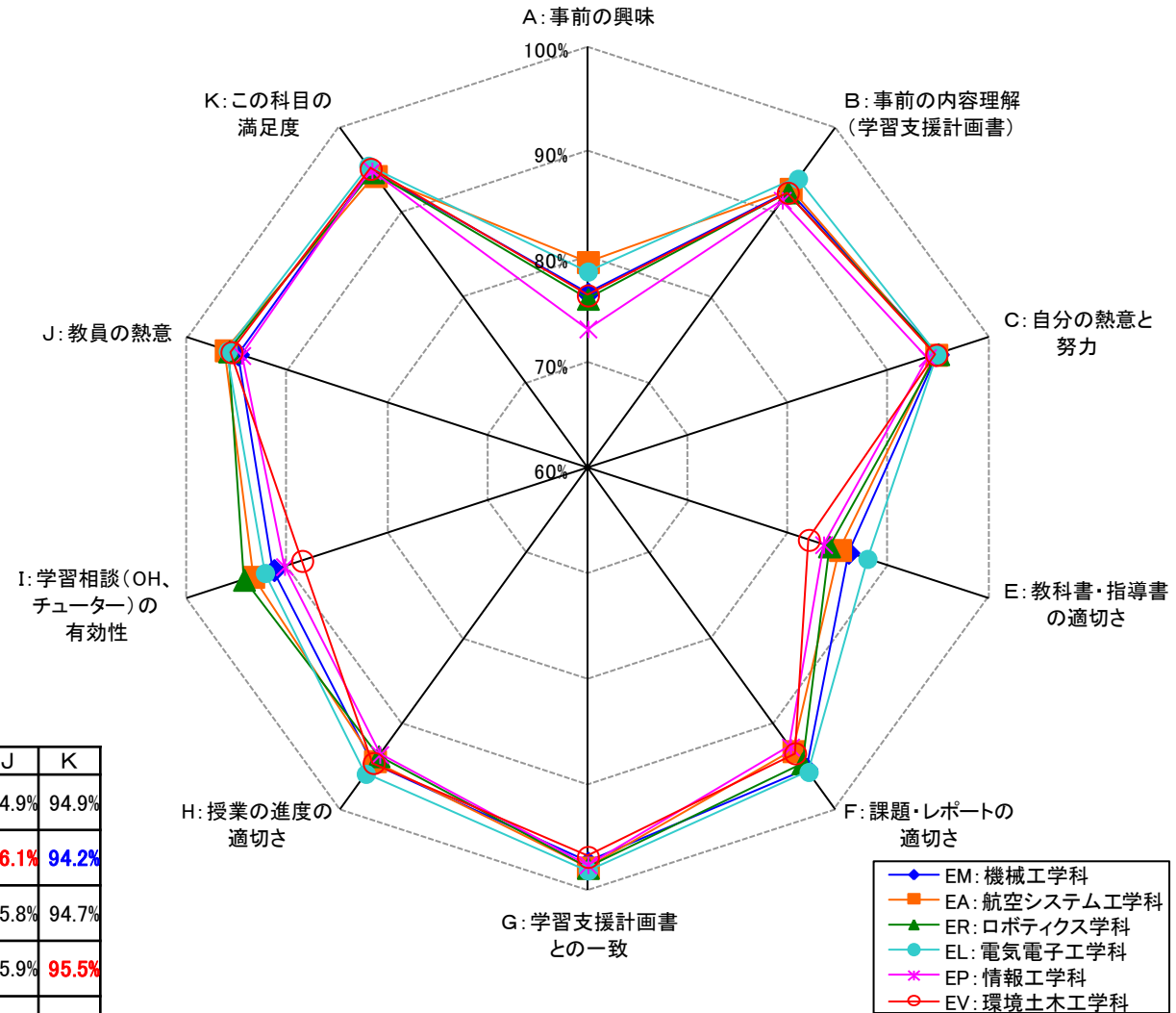
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E: 工学部	76.2%	92.5%	94.6%	85.0%	94.3%	97.7%	94.5%	91.4%	95.3%	95.0%
F: 情報フロンティア学部	73.9%	93.2%	94.6%	82.9%	95.4%	97.4%	94.3%	91.8%	95.9%	95.1%
A: 建築学部	79.4%	92.4%	96.4%	81.2%	95.4%	98.1%	93.5%	93.0%	96.3%	95.4%
B: バイオ・化学部	78.1%	92.7%	94.9%	85.0%	93.9%	97.5%	95.9%	92.5%	96.4%	95.8%

※最高が赤太文字、最低が青太文字としている。

# <4-3> 肯定的な意見の学科別比較

- 学科数が多いため、学科別集計は学部ごとに分けて比較をした。
- 「工学部」の各学科の特徴を見ると、「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」に加えて、「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」でも少し差が見られた。
- 下表の数値を見ると、「EL:電気電子工学科」が6項目で最も高く、「EP:情報工学科」が6項目で最も低かったが、いずれも目立つものではなかった。

## ■工学部 学科別比較レーダーチャート

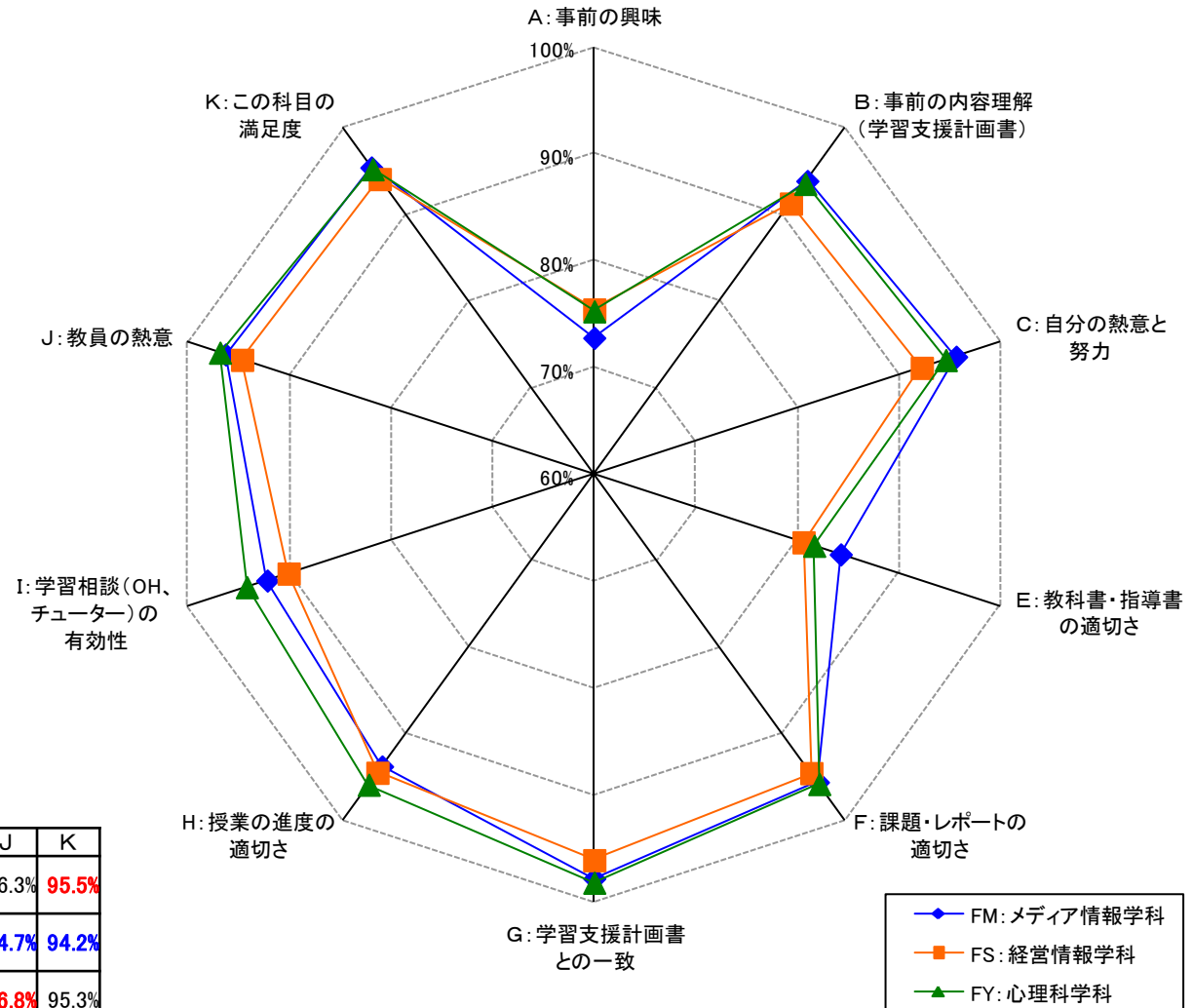


## ■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械工学科	76.6%	92.5%	94.9%	86.0%	95.3%	97.4%	94.6%	91.3%	94.9%	94.9%
EA: 航空システム工学科	<b>79.5%</b>	92.7%	94.8%	85.2%	93.2%	97.9%	94.4%	93.4%	<b>96.1%</b>	<b>94.2%</b>
ER: ロボティクス学科	76.1%	92.3%	<b>95.0%</b>	84.1%	94.6%	97.9%	93.8%	<b>94.3%</b>	95.8%	94.7%
EL: 電気電子工学科	78.6%	<b>93.9%</b>	94.9%	<b>87.9%</b>	<b>95.6%</b>	<b>98.2%</b>	<b>95.9%</b>	92.2%	95.9%	<b>95.5%</b>
EP: 情報工学科	<b>73.2%</b>	<b>91.4%</b>	<b>93.9%</b>	83.5%	<b>92.7%</b>	97.7%	<b>93.6%</b>	90.3%	<b>94.5%</b>	94.9%
EV: 環境土木工学科	76.4%	92.3%	94.8%	<b>82.1%</b>	93.5%	<b>96.9%</b>	94.6%	<b>88.5%</b>	95.6%	95.1%

- 「情報フロンティア学部」では、全体的にわずかな差が見られ、「FS:経営情報学科」は全体的に低めであり、8項目で最も低かった。
- 一方、「FM:メディア情報学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」が高く、「A:事前の興味」が低くなっており、「FY:心理科学科」は「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」など、5項目で最も高く、低いものは見られなかった。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート

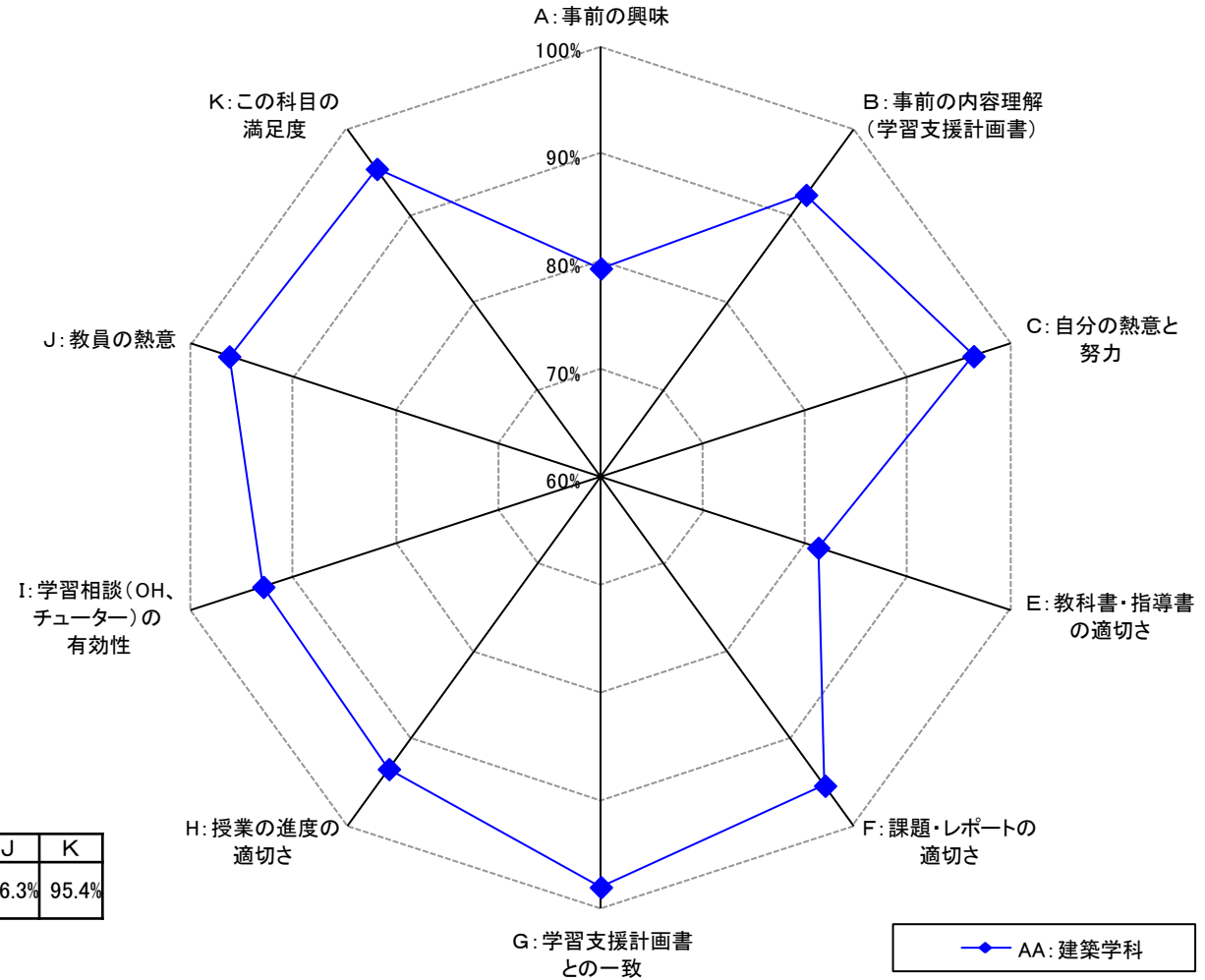


■情報フロンティア学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
FM:メディア情報学科	72.8%	93.9%	95.6%	84.3%	95.6%	97.8%	93.8%	92.2%	96.3%	95.5%
FS:経営情報学科	75.4%	91.3%	92.2%	80.6%	94.6%	96.1%	94.5%	90.1%	94.7%	94.2%
FY:心理科学科	75.3%	93.6%	94.6%	81.6%	95.8%	98.2%	95.9%	94.2%	96.8%	95.3%

- 「建築学部」は「AA:建築学科」だけなので、比較は行っていない。

■ 建築学部 学科別比較レーダーチャート

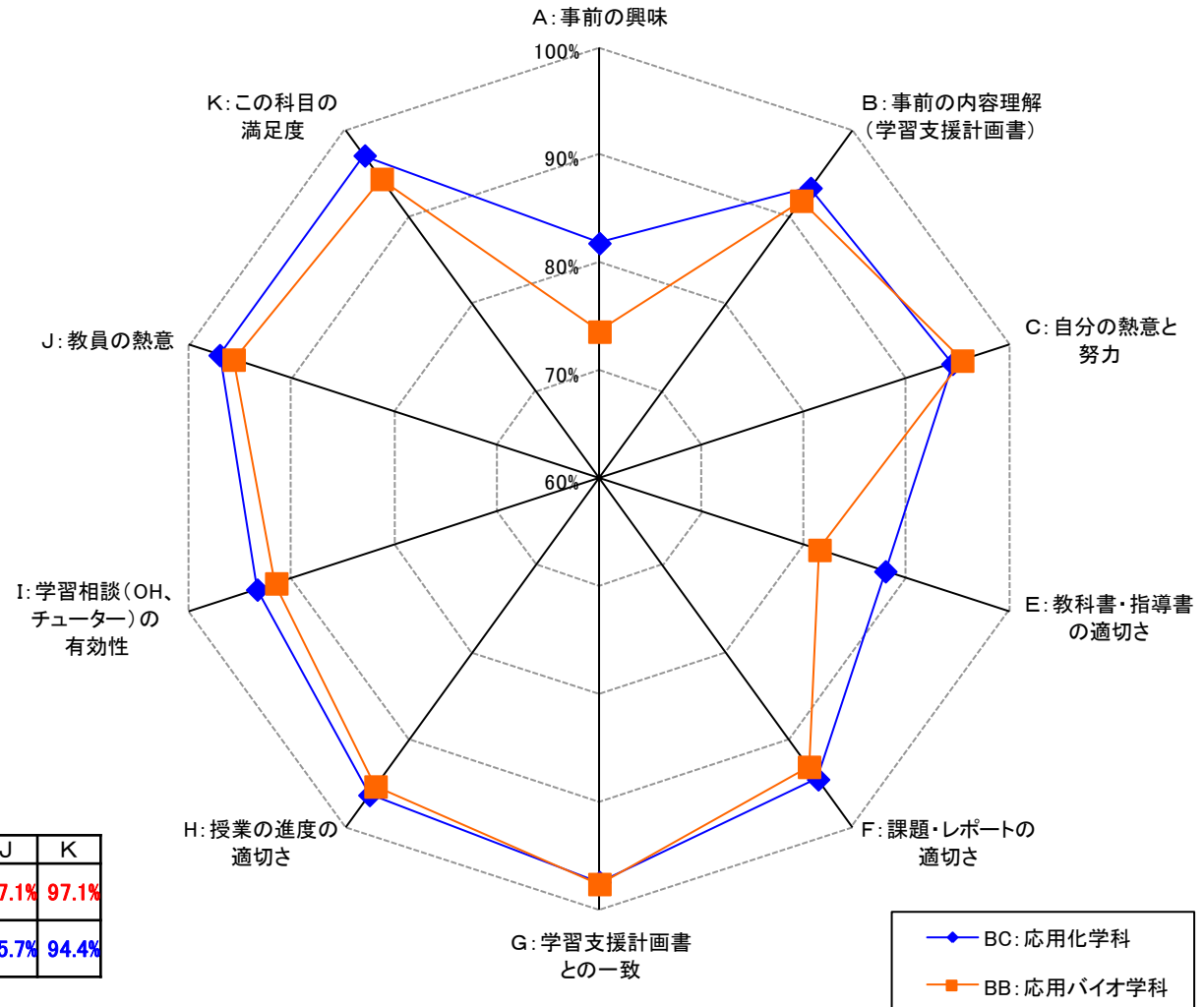


■ 建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
AA: 建築学科	79.4%	92.4%	96.4%	81.2%	95.4%	98.1%	93.5%	93.0%	96.3%	95.4%

- 「バイオ・化学部」は2学科の比較になるが、「BC:応用化学科」は8項目で高く、「BB:応用バイオ学科」が高いのは2項目となっていた。
- 2学科の差が特に大きかったのは「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」であり、いずれも「BC:応用化学科」の高さが目立っていた。

■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート



■ バイオ・化学部 学科別比較

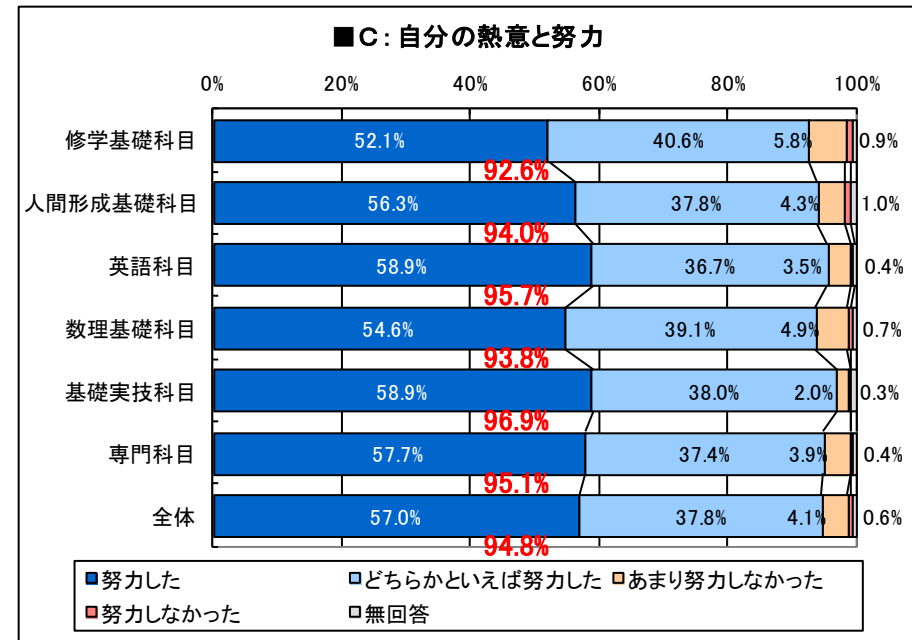
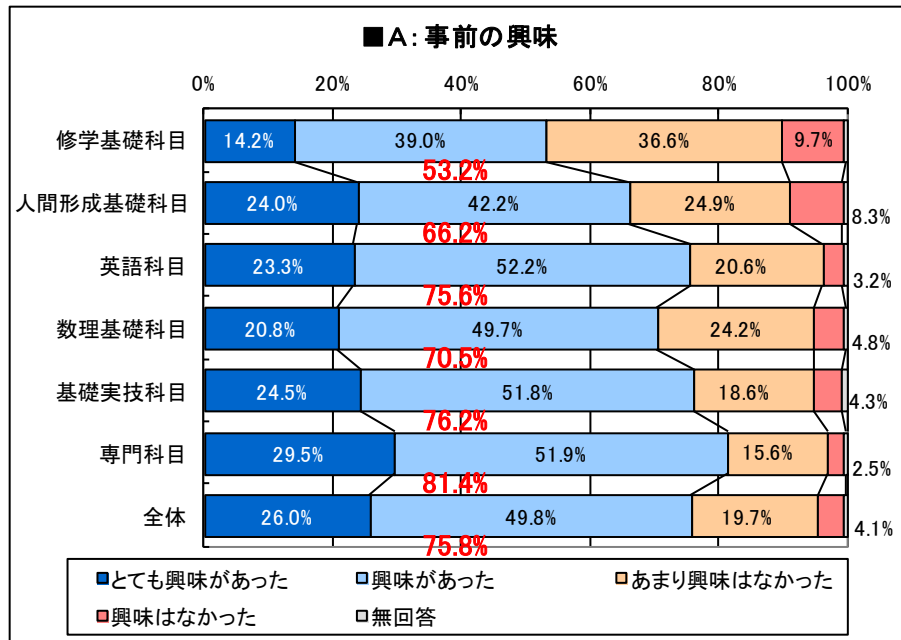
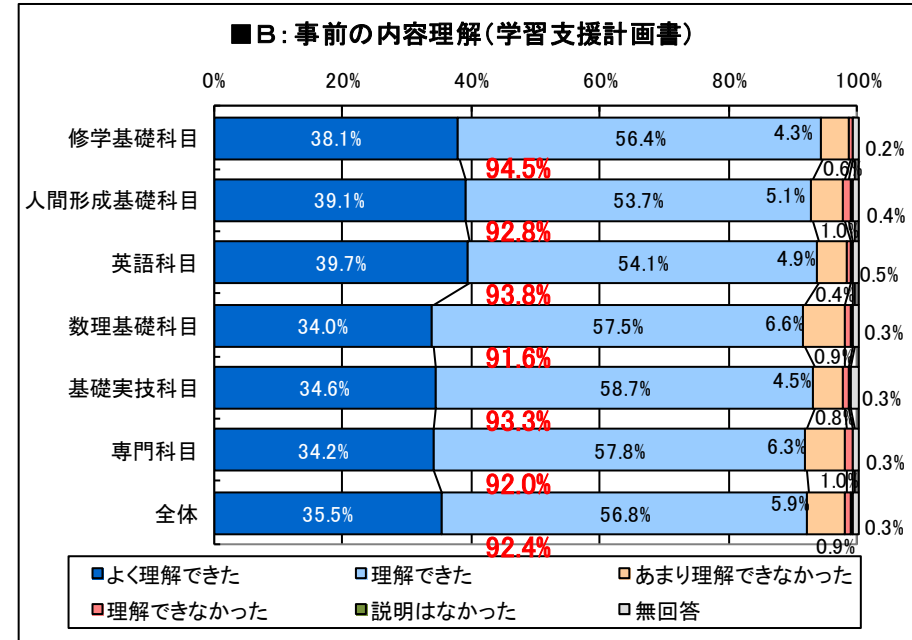
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BC: 応用化学科	81.8%	93.3%	94.4%	87.9%	94.5%	97.5%	96.3%	93.4%	97.1%	97.1%
BB: 応用バイオ学科	73.6%	91.9%	95.4%	81.5%	93.1%	97.6%	95.3%	91.5%	95.7%	94.4%



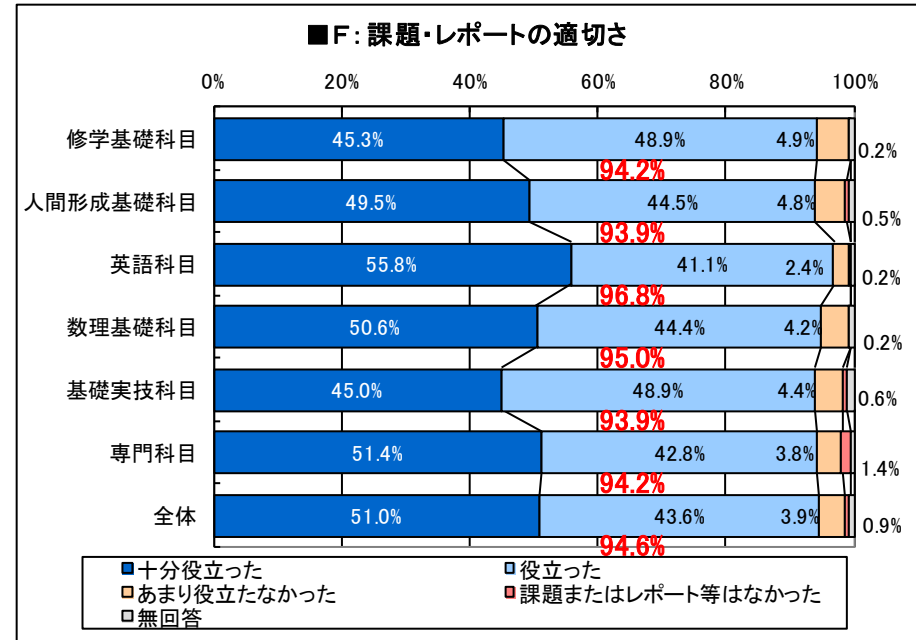
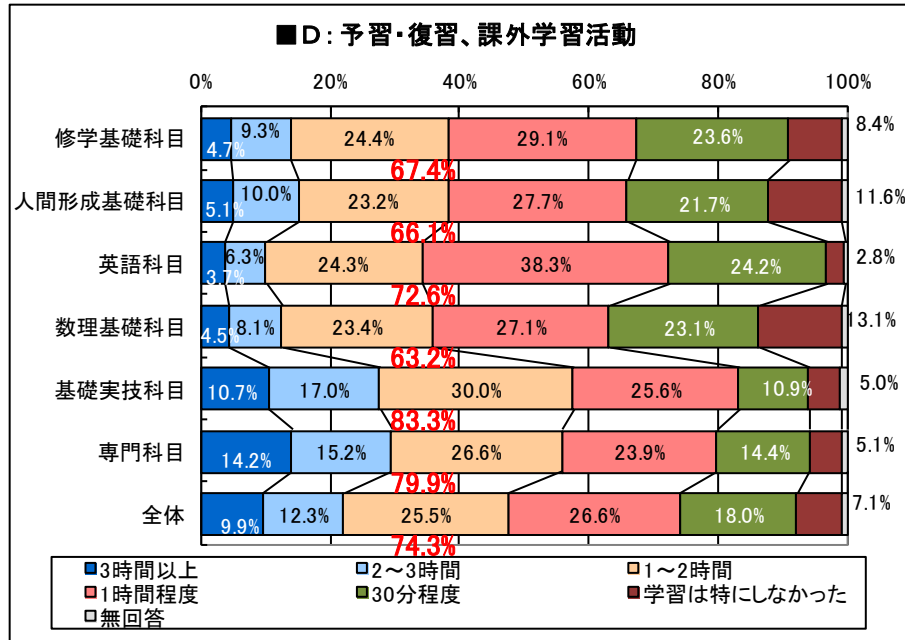
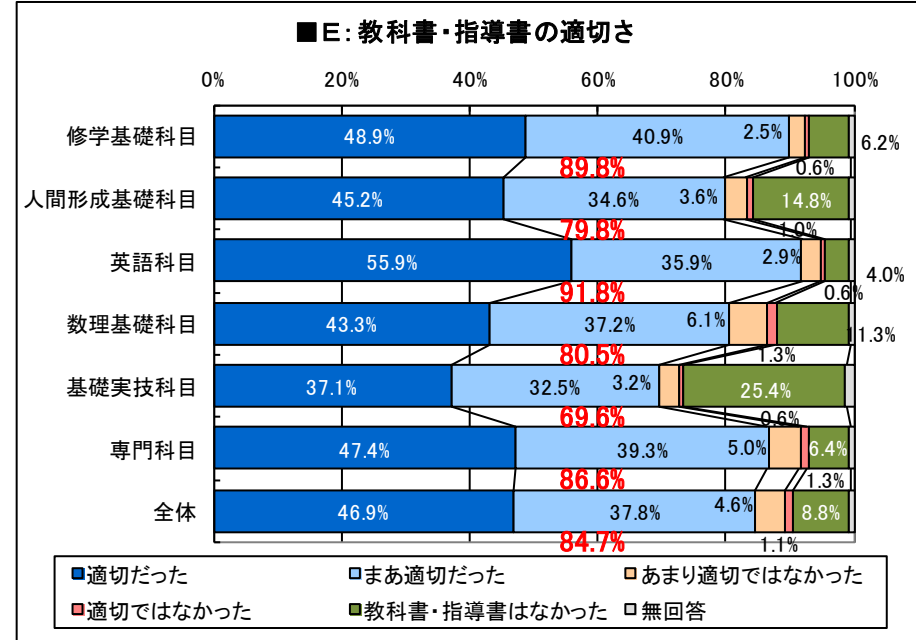
## <5>科目区分別の分析

# <5-1>科目区分別の比較

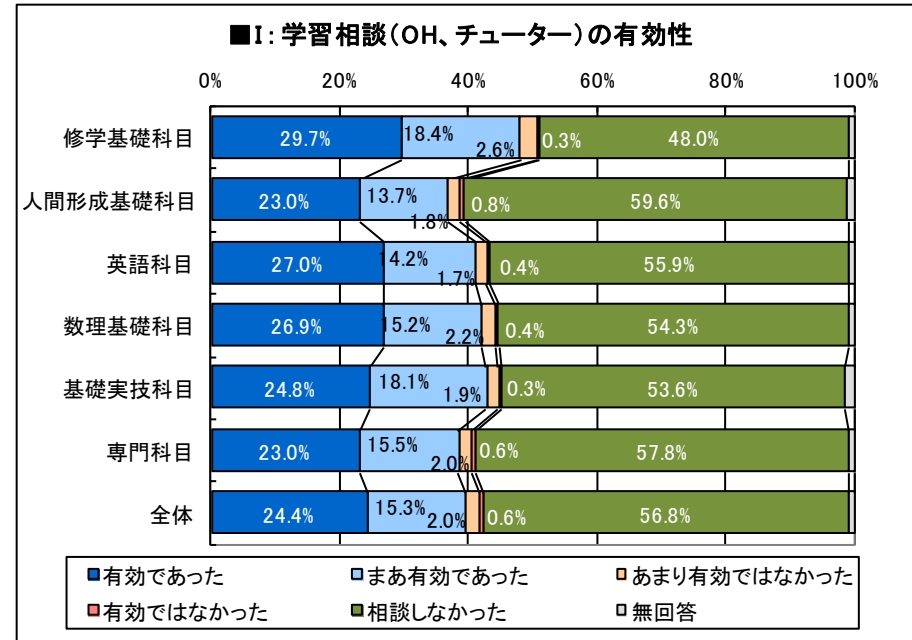
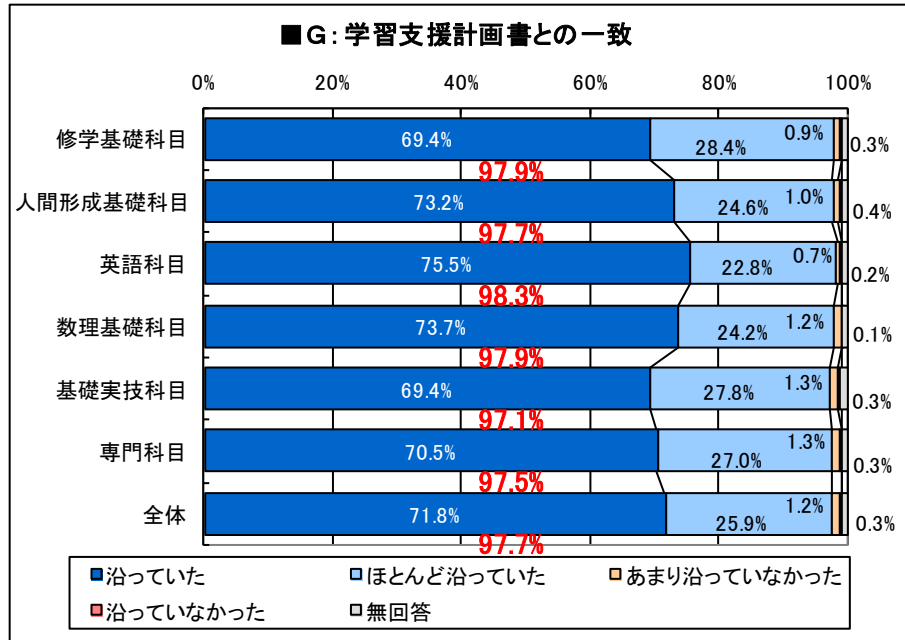
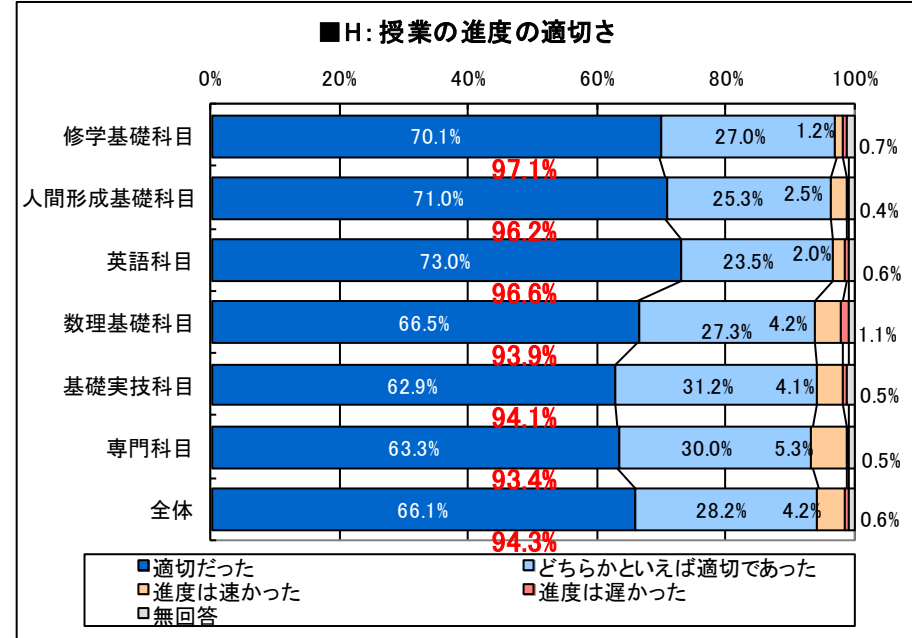
- 授業を6つの科目区分で分けて、その評価を比較した。
- 「A:事前の興味」で肯定的な意見が最も多かったのは「専門科目」の81.4%であり、「とても興味があった」も29.5%と多かった。次いで、「基礎実技科目」が76.2%、「英語科目」が75.6%で続いていた。一方、最も少なかったのは「修学基礎科目」の53.2%であり、他の科目区分に比べて興味の低さが目立っていた。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」の肯定的な意見が最も多かったのは「修学基礎科目」の94.5%であったが、他を見てもすべての科目区分で9割を超えており、非常に高い評価となっていた。
- 「C:自分の熱意と努力」の肯定的な意見もすべての科目区分で9割を超えており、いずれも高い熱意と努力が感じられた。そして、「努力した」だけを見ると、「英語科目」と「基礎実技科目」が58.9%と、非常に強い積極性が感じられた。



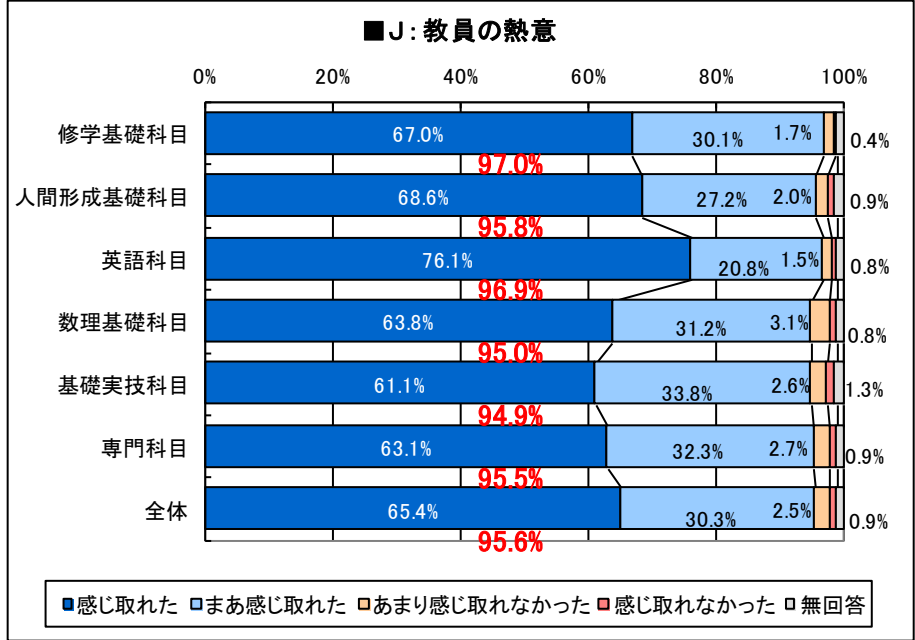
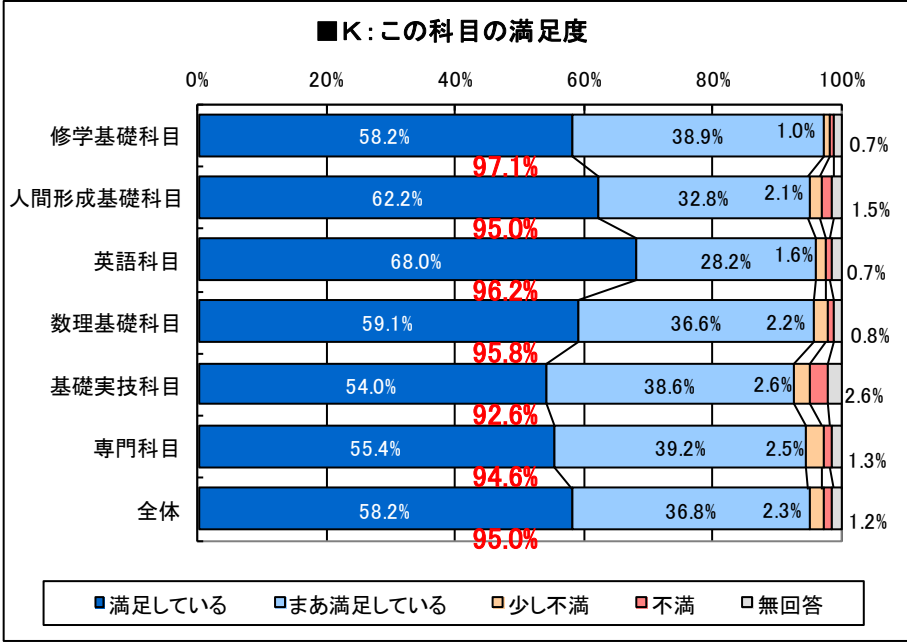
- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「1時間程度」までの合計を科目区分別に見ると、「基礎実技科目」が83.3%で最も多く、「専門科目」が79.9%で続いていた。この2つの科目区分では「3時間以上」も多く、学習時間をしっかりと確保している様子がうかがえた。一方、最も少なかったのは「数理基礎科目」の63.2%であったが、「学習は特にしなかった」が13.1%と最も多くなっていた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「英語科目」の91.8%であり、「適切だった」も55.9%と多かった。次いで、「修学基礎科目」が89.8%、「専門科目」が86.6%が続いていた。一方、最も少なかったのは「基礎実技科目」の69.6%であり、「教科書・指導書はなかった」が25.4%と非常に多い点特徴的であった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」はいずれの科目区分でも肯定的な意見が9割を超えており、全体的に高い評価となっていた。「十分役立った」だけを見ると、「英語科目」が55.8%で多さが目立っていた。



- 「G:学習支援計画書との一致」の肯定的な意見は全体的に多く、いずれの科目区分でも95%を超えていた。また、「沿っていた」だけを見てもほとんどの科目区分で7割以上であり、大きな課題はなさそうであった。
- 「H:授業の進度の適切さ」もすべての科目区分で9割を超え、高い評価となっていた。最も低い「専門科目」でも93.4%であり、これも十分に高い評価であった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を見ると、「修学基礎科目」が48.0%とやや少なかったが、他の科目区分ではいずれも5割を超えており、「人間形成基礎科目」では59.6%が「相談しなかった」と答えていた。そして、利用者の評価を見ると、いずれの科目区分でも否定的な意見は3%以内であり、大きな課題はなさそうであった。



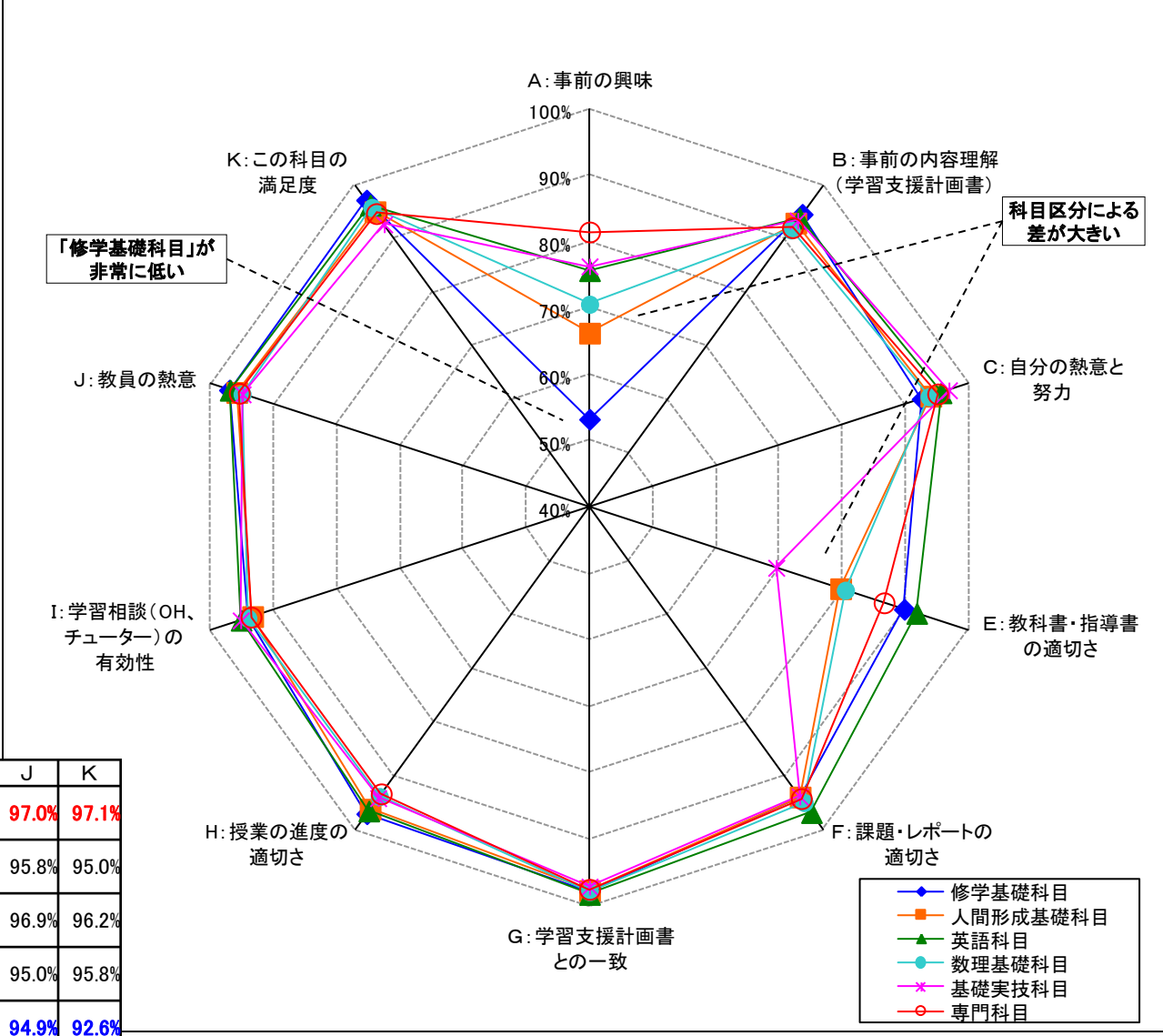
- 「J:教員の熱意」はほとんどの科目区分で肯定的な意見が95%を超え、非常に高い評価であった。「感じ取れた」だけを見ると「英語科目」が76.1%で多さが目立っていたが、他もすべて6割を超えており、しっかりと教員の熱意を感じている様子が見えてきた。
- 「K:この科目の満足度」もほとんどの科目区分で肯定的な意見が95%を超えて、いずれの科目区分でも非常に高い満足度であり、差は最大でも4.5ポイントと大きくはなかった。そして、「満足している」だけを見ると「英語科目」が68.0%で最も多く、強い満足度が感じられた。一方、最も少なかったのは「基礎実技科目」の54.0%であったが、これも5割を超えていた。



# <5-2> 肯定的な意見の科目区分別比較

- 肯定的な意見の割合を、科目区別にレーダーチャートにプロットし、比較を行った。
- 科目区分による差が大きかったのは、「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」の2項目で、他の項目ではほとんど差が見られず、よく似た評価となっていた。
- 上記の2項目のうち、「A:事前の興味」では「修学基礎科目」が非常に低く、科目区分による興味の強さの差が現れていた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」では「基礎実技科目」がやや低かったが、前出の個別の分析を見ると「教科書・指導書はなかった」の差が現れているものと思われる。
- 表の数値を詳細に見ると、「修学基礎科目」と「英語科目」は4項目で最も高く、「基礎実技科目」は5項目で最も低くなっていたが、グラフを見ると上記の2項目以外の差はわずかであった。

■ 科目区分別比較レーダーチャート



■ 科目の評価比較

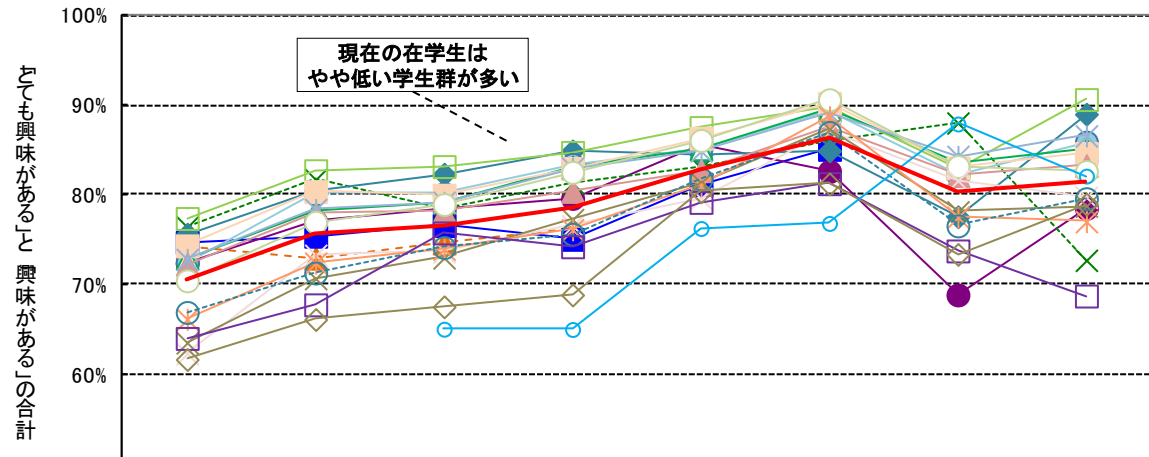
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	53.2%	94.5%	92.6%	89.8%	94.2%	97.9%	97.1%	94.1%	97.0%	97.1%
人間形成基礎科目	66.2%	92.8%	94.0%	79.8%	93.9%	97.7%	96.2%	93.3%	95.8%	95.0%
英語科目	75.6%	93.8%	95.7%	91.8%	96.8%	98.3%	96.6%	95.2%	96.9%	96.2%
数理基礎科目	70.5%	91.6%	93.8%	80.5%	95.0%	97.9%	93.9%	94.1%	95.0%	95.8%
基礎実技科目	76.2%	93.3%	96.9%	69.6%	93.9%	97.1%	94.1%	95.2%	94.9%	92.6%
専門科目	81.4%	92.0%	95.1%	86.6%	94.2%	97.5%	93.4%	93.6%	95.5%	94.6%

## <6> 同一学生群の分析

# <6-1> 同一学生群の変化に関する分析

- 同一学生群が学年が上がるにつれてどのような意識変化をしているのか、主要な指標を追跡してグラフ化した。
- 学期は「H21卒業生」の段階で3学期制から2学期制となったため、「H21卒業生」以前の学生群は「秋学期」を「後学期」として集計し、「冬学期」のデータは除外している。
- 「A:事前の興味」の「全体平均」を見ると、「1年次-前学期」には70.6%であり、それ以降は「3年次-後学期」の86.4%まで徐々に増加していた。そして、「4年次-前学期」で低下して、「4年次-後学期」まで横ばいとなっていた。
- 学生群ごとにみると、以前は4年間を通して低い学生群が多かったが、「H26卒業生」あたりから肯定的な意見が多くなり、授業に対する事前の興味が強くなってきているようであった。特に「R3卒業生」「R2卒業生」などは4年間を通じて肯定的な意見が多い状態を維持したまま卒業に至っていた。
- 一方、「R4卒業生」は「4年次-前学期」までは強い興味を持っていたが、「4年次-後学期」には一気に低下しており、今までに見ない変化となっていた。そして、現在の在學生は全体的に低めとなっており、「現4年次」は「4年次-前学期」で急降下、「現3年次」と「現2年次」は継続的に「全体平均」に近くなっており、ここ数年の学生で事前の興味が低いという傾向が続いていた。

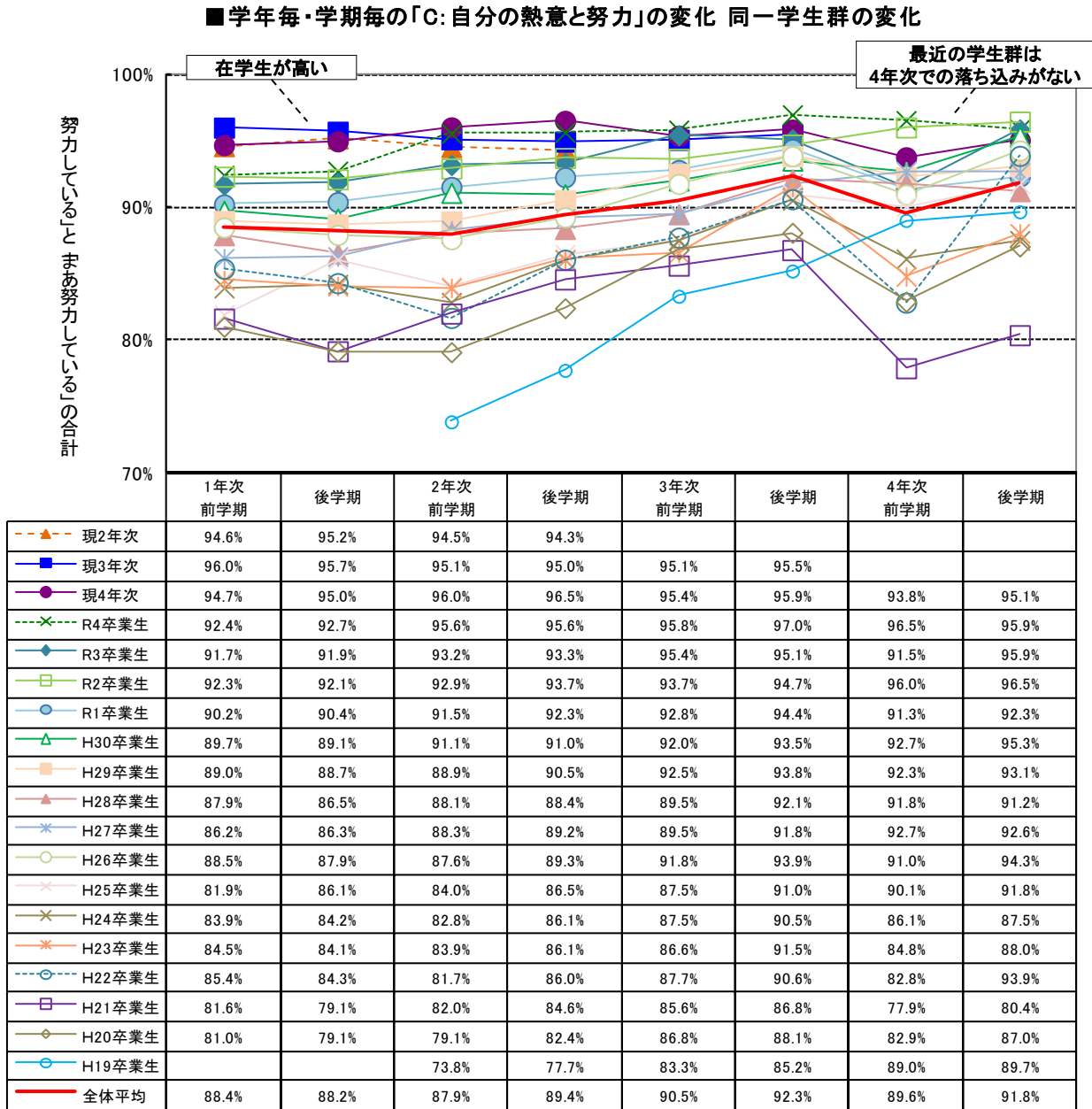
## ■ 学年毎・学期毎の「A:事前の興味」の変化 同一学生群の変化



	1年次 前学期	後学期	2年次 前学期	後学期	3年次 前学期	後学期	4年次 前学期	後学期
現2年次	74.1%	73.0%	74.7%	76.2%				
現3年次	74.7%	75.4%	76.6%	75.1%	81.2%	85.1%		
現4年次	72.4%	77.0%	78.4%	79.6%	85.6%	82.6%	68.9%	78.5%
R4卒業生	76.4%	81.7%	78.5%	81.3%	83.0%	86.0%	88.0%	72.7%
R3卒業生	75.6%	80.4%	82.3%	84.9%	84.5%	84.9%	77.6%	89.0%
R2卒業生	77.4%	82.7%	83.2%	84.7%	87.5%	89.9%	83.0%	90.6%
R1卒業生	72.5%	80.1%	80.2%	83.4%	85.2%	89.4%	82.2%	85.9%
H30卒業生	73.0%	78.2%	79.2%	83.1%	85.2%	89.5%	83.5%	85.0%
H29卒業生	74.3%	80.4%	80.0%	83.0%	86.3%	90.2%	83.0%	84.6%
H28卒業生	72.3%	77.9%	78.2%	80.4%	82.7%	87.5%	82.2%	83.3%
H27卒業生	72.8%	78.4%	79.2%	83.0%	84.9%	89.1%	84.3%	86.6%
H26卒業生	70.4%	77.0%	78.9%	82.5%	86.1%	90.6%	83.2%	82.6%
H25卒業生	62.3%	73.3%	73.7%	76.6%	79.6%	87.1%	81.6%	79.7%
H24卒業生	63.5%	70.7%	73.0%	77.3%	81.3%	87.3%	78.1%	78.8%
H23卒業生	66.2%	72.4%	74.0%	76.1%	81.0%	88.7%	77.5%	77.0%
H22卒業生	66.9%	71.3%	74.2%	75.6%	81.8%	87.0%	76.6%	79.6%
H21卒業生	64.0%	67.8%	75.8%	74.2%	79.2%	81.3%	73.8%	68.8%
H20卒業生	61.7%	66.1%	67.5%	68.9%	80.4%	81.2%	73.4%	79.0%
H19卒業生			65.1%	65.0%	76.3%	76.8%	87.9%	82.1%
全体平均	70.6%	75.8%	76.4%	78.5%	82.9%	86.4%	80.3%	81.4%

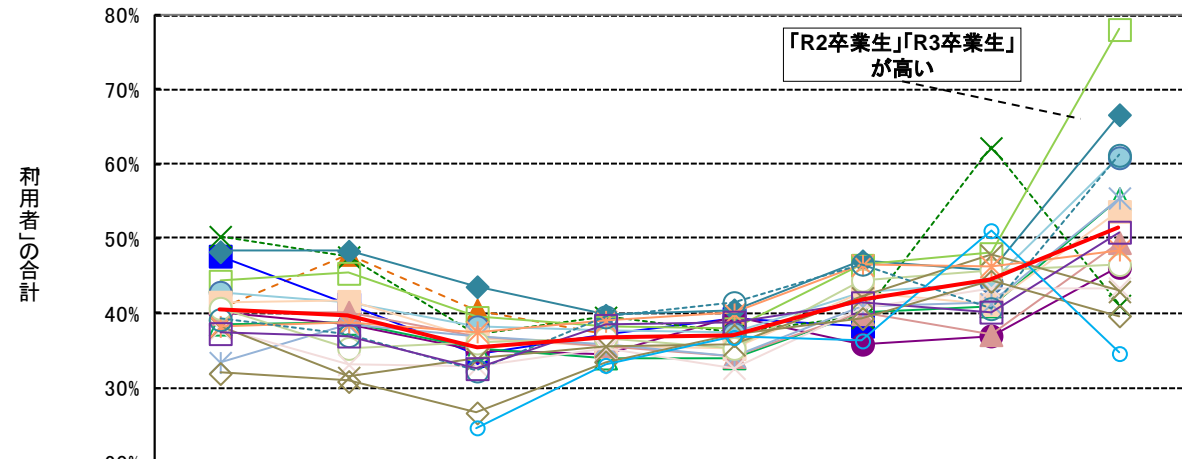


- 「C:自分の熱意と努力」の「全体平均」を見ると、「1年次-前学期」から「2年次-前学期」にかけて横ばいの後、「3年次-後学期」にかけてゆるやかに増加し、「4年次-前学期」で低下して「4年次-後学期」で再び増加していた。ただし、いずれの変化も大きいものではなく、熱意と努力は4年間であまり大きく変動していなかった。
- 学生群ごとにみると、以前は「H20卒業生」「H21卒業生」「H22卒業生」のように、4年次で大きく低下する学生群も見られたが、ここ数年は低学年の時点から高く、4年間を通じて中だるみなく卒業に至るケースが増加しているように思われる。
- 特に現在の在學生は「1年次-前学期」から非常に強い熱意を持っており、以前と比較すると学生の意識の変化が感じられた。



- 「I:学習相談の有効性」は内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を見ている。
- 「学習相談利用者割合」の「全体平均」は、「1年次-前学期」から「2年次-前学期」にかけてやや低下し、その後は「4年次-後学期」にかけて徐々に増加していた。利用者の割合は約35%から約50%に収まっており、一定割合の学生は継続的に学習相談を利用しているようであった。
- 各学生群の動きを見ると、「2年次-後学期」から「3年次-後学期」にかけてはバラツキが少ないが、「4年次」になると大きな差がついており、学生群による特徴が現れていた。
- 「4年次」の時期に特徴的であったのは「R2卒業生」「R3卒業生」などであり、「4年次-後学期」の利用率が一気に上がっていた。また、「R4卒業生」は「4年次-前学期」に大きく向上し、「4年次-後学期」に一気に低下していた。
- 現在の在学生では「現3年次」「現4年次」が「3年次-前学期」以降でやや低いという特徴が見られた。

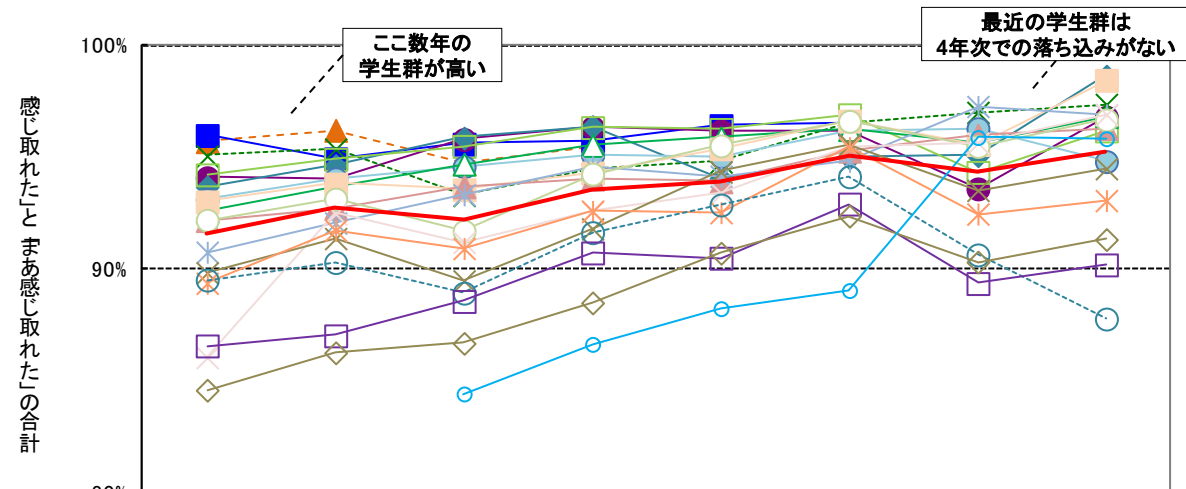
■ 学年毎・学期毎の「I:学習相談の有効性」による  
「学習相談利用者割合」の変化 同一学生群の変化



	1年次 前学期	後学期	2年次 前学期	後学期	3年次 前学期	後学期	4年次 前学期	後学期
---▲--- 現2年次	40.5%	47.9%	40.4%	37.2%				
---■--- 現3年次	47.7%	41.3%	34.3%	37.0%	39.3%	38.3%		
---●--- 現4年次	40.0%	38.5%	35.0%	34.6%	39.5%	35.9%	37.0%	46.2%
---×--- R4卒業生	50.3%	47.6%	37.2%	39.5%	37.3%	39.4%	62.2%	41.1%
---◆--- R3卒業生	48.3%	48.3%	43.6%	39.7%	40.5%	47.0%	45.7%	66.7%
---□--- R2卒業生	44.3%	45.4%	39.4%	38.1%	37.9%	46.4%	48.0%	78.1%
---○--- R1卒業生	42.8%	41.4%	38.2%	37.5%	37.3%	42.8%	44.2%	60.9%
---△--- H30卒業生	38.5%	38.7%	35.3%	34.0%	34.0%	40.1%	41.0%	55.4%
---□--- H29卒業生	41.5%	41.6%	36.6%	35.5%	35.3%	42.7%	41.2%	53.7%
---▲--- H28卒業生	40.0%	40.1%	36.9%	35.6%	34.2%	39.9%	37.1%	49.5%
---*--- H27卒業生	33.4%	38.4%	37.0%	35.8%	34.2%	40.8%	41.3%	55.5%
---○--- H26卒業生	40.7%	35.3%	36.0%	36.7%	35.3%	44.5%	45.8%	46.5%
---×--- H25卒業生	37.9%	33.1%	32.9%	35.1%	32.6%	40.5%	43.4%	43.4%
---×--- H24卒業生	38.2%	31.4%	33.9%	35.6%	35.8%	42.1%	47.8%	42.9%
---*--- H23卒業生	38.2%	38.6%	37.5%	38.9%	39.9%	46.5%	46.3%	48.5%
---○--- H22卒業生	39.1%	37.0%	32.3%	39.5%	41.4%	46.6%	40.6%	61.2%
---□--- H21卒業生	37.3%	37.0%	32.6%	38.4%	38.8%	41.4%	40.2%	50.9%
---◇--- H20卒業生	31.9%	30.8%	26.6%	33.5%	37.0%	39.3%	44.3%	39.7%
---○--- H19卒業生			24.6%	33.0%	36.8%	36.3%	51.1%	34.6%
---●--- 全体平均	40.6%	39.6%	35.3%	36.6%	37.1%	41.7%	44.5%	51.5%

- 「J:教員の熱意」の「全体平均」は、わずかな低下はあるものの継続的に90%から95%の間で、緩やかな右肩上がり推移しており、4年間を通してしっかりと教員の熱意を感じているようであった。
- 学生群の特徴を見ると、最近の学生群では他の指標と同様に「4年次-前学期」での中だるみのような低下が少なくなっており、全く低下することなく卒業に至る学生群も増加している。
- また、在学生も含めて、ここ数年の学生群は「1年次-前学期」から肯定的な意見が非常に多く、「1年次-前学期」から教員の熱意を強く感じており、入学直後から学習する姿勢が整っているのではないかと思われた。

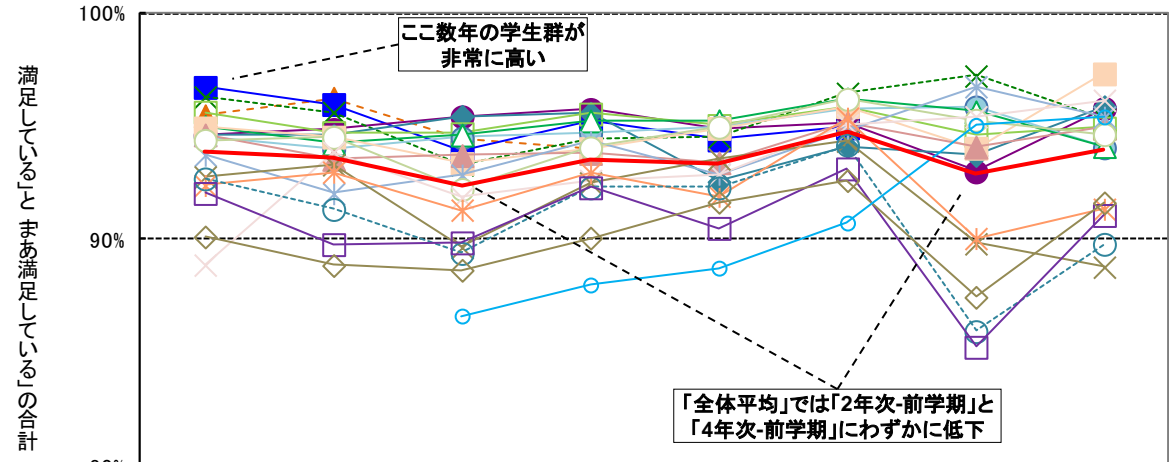
■ 学年毎・学期毎の「J:教員の熱意」の変化 同一学生群の変化



	1年次 前学期	後学期	2年次 前学期	後学期	3年次 前学期	後学期	4年次 前学期	後学期
---▲--- 現2年次	95.7%	96.2%	94.7%	95.5%				
---■--- 現3年次	96.0%	94.9%	95.6%	95.7%	96.4%	96.5%		
---●--- 現4年次	94.1%	94.0%	95.8%	96.3%	96.2%	96.1%	93.6%	96.8%
---×--- R4卒業生	95.0%	95.4%	93.3%	94.5%	94.8%	96.5%	97.0%	97.4%
---◆--- R3卒業生	93.7%	94.6%	95.9%	96.4%	94.1%	95.0%	95.1%	98.6%
---□--- R2卒業生	94.2%	94.9%	95.5%	96.3%	96.2%	96.9%	94.3%	96.2%
---○--- R1卒業生	93.1%	94.0%	94.6%	95.1%	95.0%	96.1%	96.3%	94.8%
---△--- H30卒業生	92.6%	93.7%	94.7%	95.5%	95.9%	96.2%	95.7%	96.8%
---◇--- H29卒業生	93.0%	93.8%	93.5%	94.3%	95.4%	96.6%	95.6%	98.4%
---▲--- H28卒業生	92.2%	92.7%	93.7%	94.0%	93.9%	95.3%	96.0%	96.3%
---*--- H27卒業生	90.7%	92.1%	93.3%	94.6%	94.1%	94.8%	97.3%	96.9%
---○--- H26卒業生	92.2%	93.1%	91.7%	94.2%	95.5%	96.6%	95.5%	96.7%
---×--- H25卒業生	86.0%	92.5%	91.2%	92.6%	93.4%	95.4%	95.6%	96.9%
---×--- H24卒業生	89.8%	91.4%	89.5%	91.8%	94.3%	95.6%	93.5%	94.5%
---*--- H23卒業生	89.4%	91.7%	90.9%	92.6%	92.5%	95.4%	92.5%	93.1%
---○--- H22卒業生	89.5%	90.3%	88.9%	91.6%	92.9%	94.1%	90.6%	87.8%
---□--- H21卒業生	86.6%	87.0%	88.5%	90.7%	90.5%	92.9%	89.3%	90.2%
---◇--- H20卒業生	84.6%	86.2%	86.7%	88.5%	90.7%	92.4%	90.3%	91.3%
---○--- H19卒業生			84.4%	86.6%	88.2%	89.0%	95.9%	95.8%
---■--- 全体平均	91.6%	92.7%	92.2%	93.5%	93.9%	95.1%	94.4%	95.2%

- 「K:この科目の満足度」の「全体平均」を見ると、「2年次-前学期」と「4年次-前学期」にわずかに低下するものの、4年間を通して93%前後が満足と答えており、非常に高い満足度となっていた。
- 以前の学生群は「4年次-前学期」で満足度が大きく低下する中だるみのような状況が見られたが、「H26卒業生」あたりからは他の指標と同様に4年間の変動が少なくなってきたており、満足度が高いまま卒業に至ることが普通になってきているようであった。
- ここ数年の学生群の満足度は「1年次-前学期」から高く、「現3年次」は96.7%、「R4卒業生」は96.3%、「現2年次」は95.5%と非常に高い満足度であった。そして、それ以降の変化も非常に少なく、「R4卒業生」は「4年次-前学期」で在学中の最高の満足度になるなど、意識の変化が感じられた。

■ 学年毎・学期毎の「K:この科目の満足度」の変化 同一学生群の変化

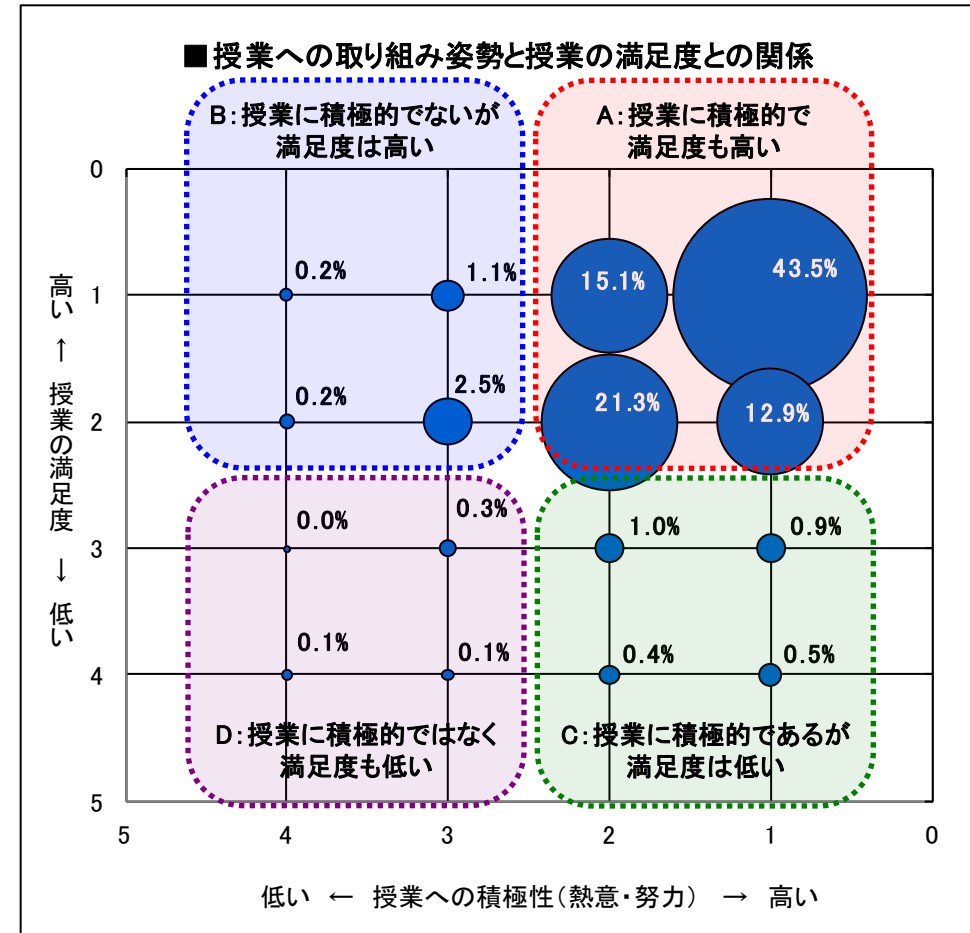


	1年次 前学期	後学期	2年次 前学期	後学期	3年次 前学期	後学期	4年次 前学期	後学期
---▲--- 現2年次	95.5%	96.3%	94.4%	94.0%				
---■--- 現3年次	96.7%	96.0%	93.9%	95.3%	94.4%	94.9%		
---●--- 現4年次	94.6%	94.9%	95.4%	95.8%	94.9%	95.2%	93.0%	95.8%
---×--- R4卒業生	96.3%	95.6%	93.3%	94.4%	94.5%	96.5%	97.2%	95.3%
---◆--- R3卒業生	94.7%	94.6%	95.5%	95.6%	92.6%	94.1%	93.7%	95.9%
---□--- R2卒業生	95.6%	94.7%	94.7%	95.6%	95.0%	95.9%	94.6%	94.9%
---○--- R1卒業生	94.6%	94.0%	94.5%	94.7%	95.0%	95.7%	95.9%	94.1%
---△--- H30卒業生	95.0%	94.2%	94.6%	95.3%	95.3%	96.2%	95.7%	94.1%
---■--- H29卒業生	94.9%	94.5%	93.4%	94.0%	94.9%	95.9%	94.0%	97.3%
---▲--- H28卒業生	94.6%	93.6%	93.7%	93.8%	93.4%	95.2%	94.1%	94.9%
---*--- H27卒業生	93.7%	92.0%	92.9%	94.3%	92.9%	94.8%	96.8%	95.4%
---○--- H26卒業生	94.4%	94.5%	92.2%	94.1%	95.0%	96.2%	95.3%	94.6%
---×--- H25卒業生	88.9%	93.9%	91.9%	92.6%	92.9%	95.1%	95.4%	96.2%
---×--- H24卒業生	92.8%	93.3%	89.7%	92.5%	93.6%	94.4%	89.8%	88.8%
---*--- H23卒業生	92.4%	93.0%	91.3%	93.0%	91.9%	95.4%	90.1%	91.3%
---○--- H22卒業生	92.7%	91.3%	89.4%	92.3%	92.3%	94.2%	85.9%	89.8%
---□--- H21卒業生	92.0%	89.8%	89.9%	92.3%	90.5%	93.1%	85.2%	91.1%
---◇--- H20卒業生	90.1%	88.9%	88.6%	90.1%	91.7%	92.6%	87.5%	91.6%
---○--- H19卒業生			86.6%	88.0%	88.7%	90.7%	95.1%	95.4%
---■--- 全体平均	93.9%	93.6%	92.4%	93.6%	93.3%	94.8%	92.9%	93.9%

## <7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

# <7-1>授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

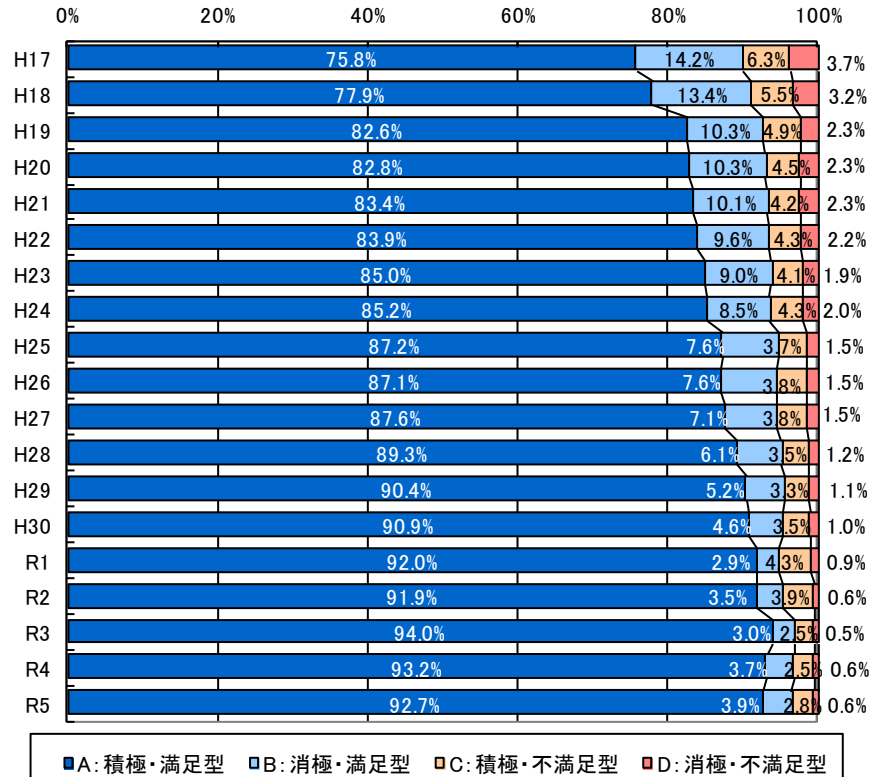
- 「C:自分の熱意と努力」(積極性)と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」は全体の92.7%と大多数を占めていた。内訳を見ると、「満足度」「積極性」が共に高い学生が43.5%であり、半数近くが非常に積極的で満足度が高く、充実していると答えていた。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」というグループは3.9%であった。これは授業には積極的ではないものの満足度は高いという学生群であり、教員の指導で引っ張られている学生などが想定される。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」というグループは2.8%であった。これは授業には積極的に取り組んでいるものの満足度が低いという学生群であり、授業の内容や指導方法などに不満を持っている学生が想定される。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」というグループは0.6%とわずかであった。これは最も課題が多い学生群で退学予備軍にも近いと思われ、しっかりとしたフォローが必要であると思われる。



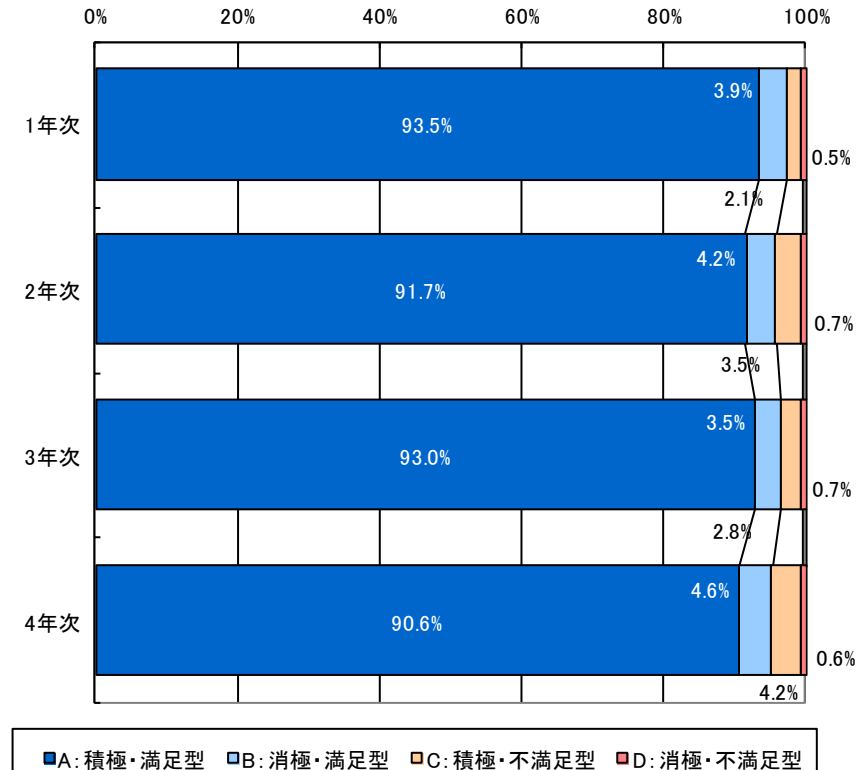
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	92.7%	授業に積極的で満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	3.9%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引っ張られているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	2.8%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	0.6%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 前項で見た4グループの経年変化を見ると、「A:積極・満足型」は92.7%で、過去最高であったR3の94.0%から徐々に減少する傾向が続いていた。そして、「B:消極・満足型」は前回から0.2ポイントの増加、「C:積極・不満足型」は0.3ポイントの増加、「D:消極・不満足型」は前回と同数であり、いずれもわずかな変化であった。
- 「A:積極・満足型」の割合を学年別に比較すると、最も多かったのは「1年次」の93.5%であり、次いで「3年次」が93.0%とわずかに少なく、「2年次」が91.7%、「4年次」が90.6%で続いていた。ただし、差は最大でも2.9ポイントとわずかであり、ほぼ横並びであった。

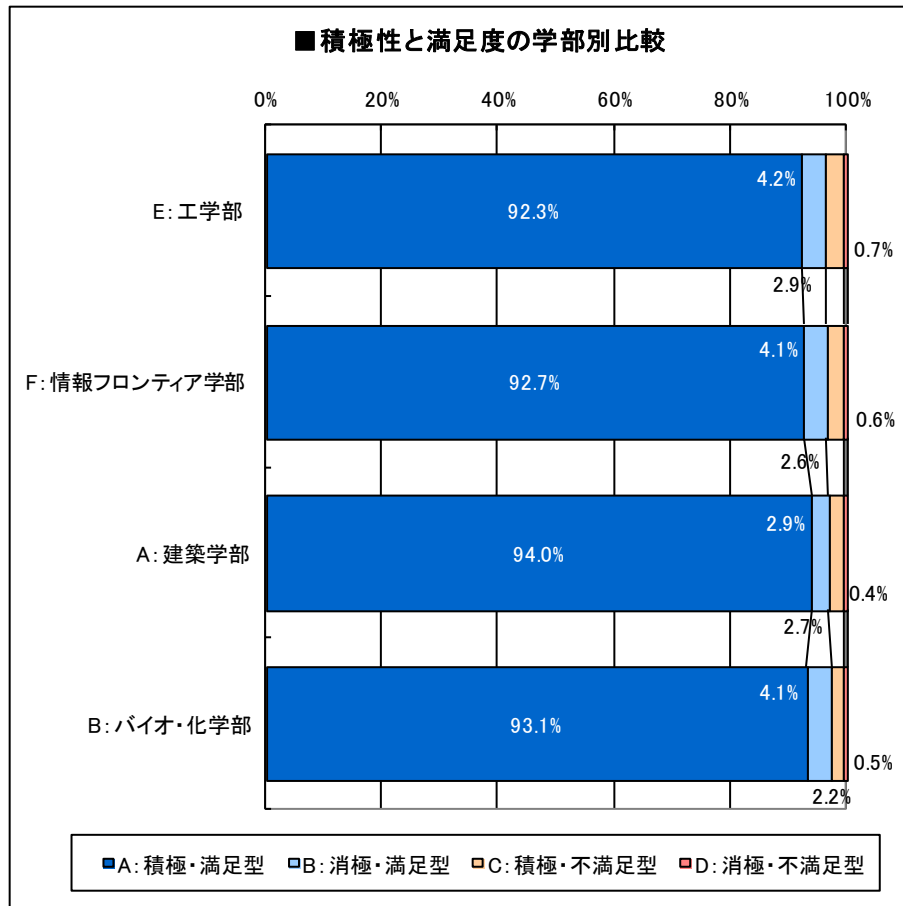
■ 積極性と満足度の経年変化



■ 積極性と満足度の学年別比較

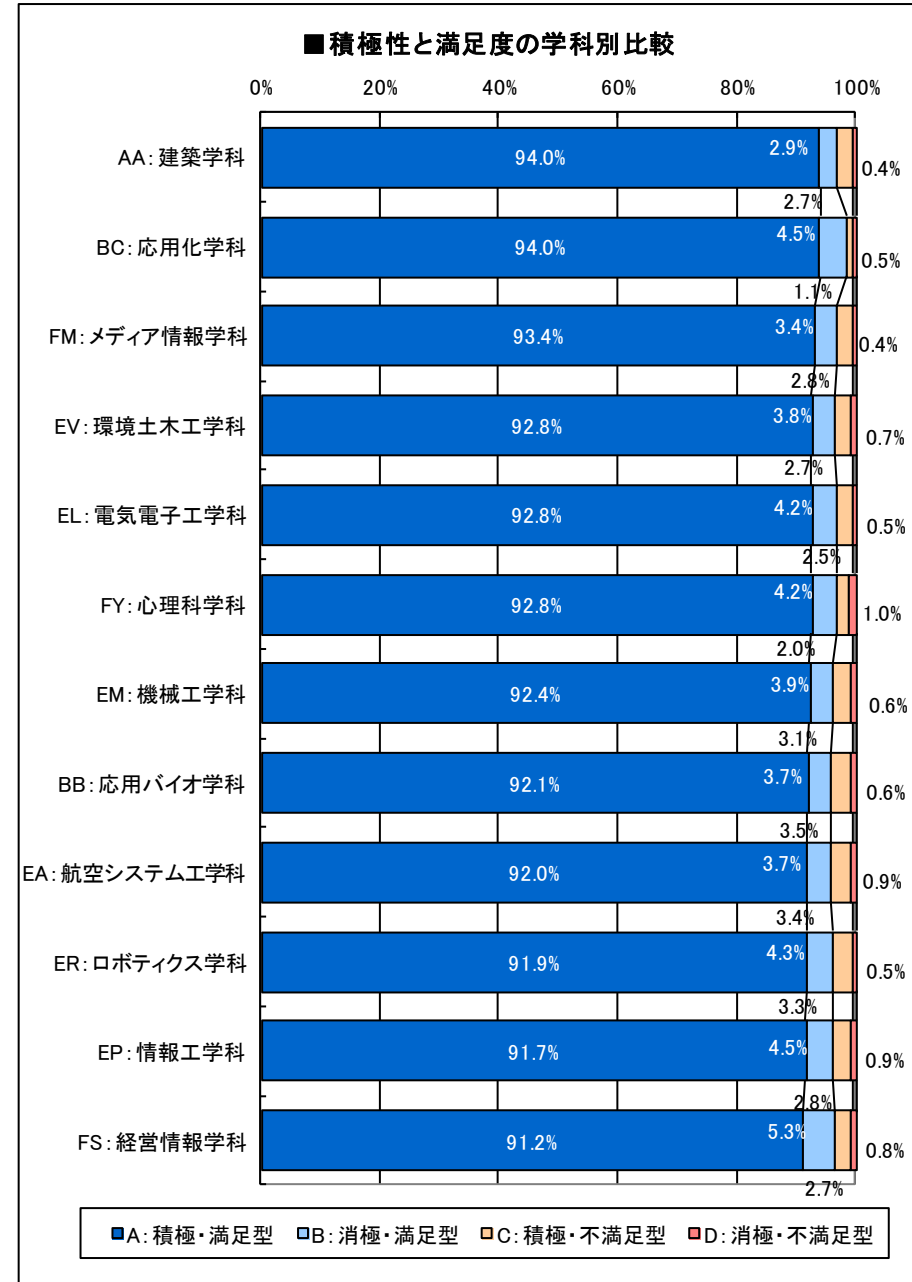


- 「A:積極・満足型」の割合を学部別に比較すると、最も多かったのは「A:建築学部」の94.0%であり、次いで、「B:バイオ・化学部」が93.1%、「E:工学部」が92.3%、「F:情報フロンティア学部」が92.7%が続いていた。ただし、差は最大でも1.7ポイントとわずかであり、ほぼ横並びであった。
- 他の3つのグループも学部による差はわずかであり、学部別に大きな差は見られなかった。



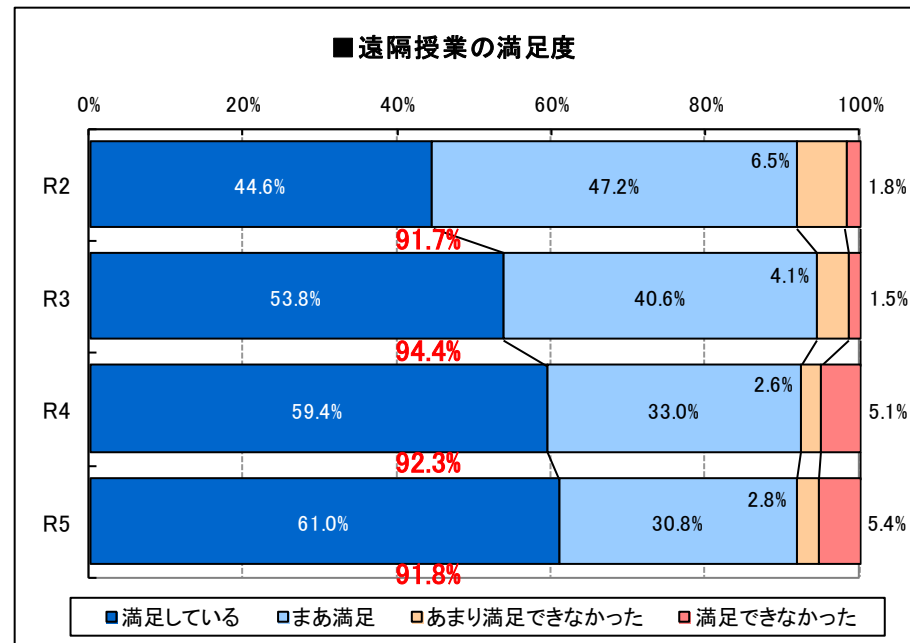
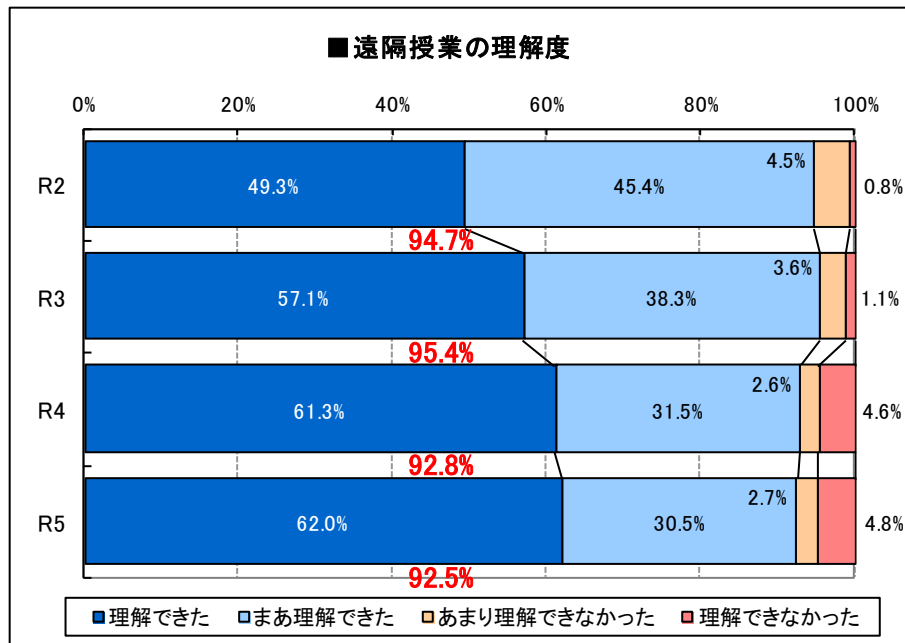
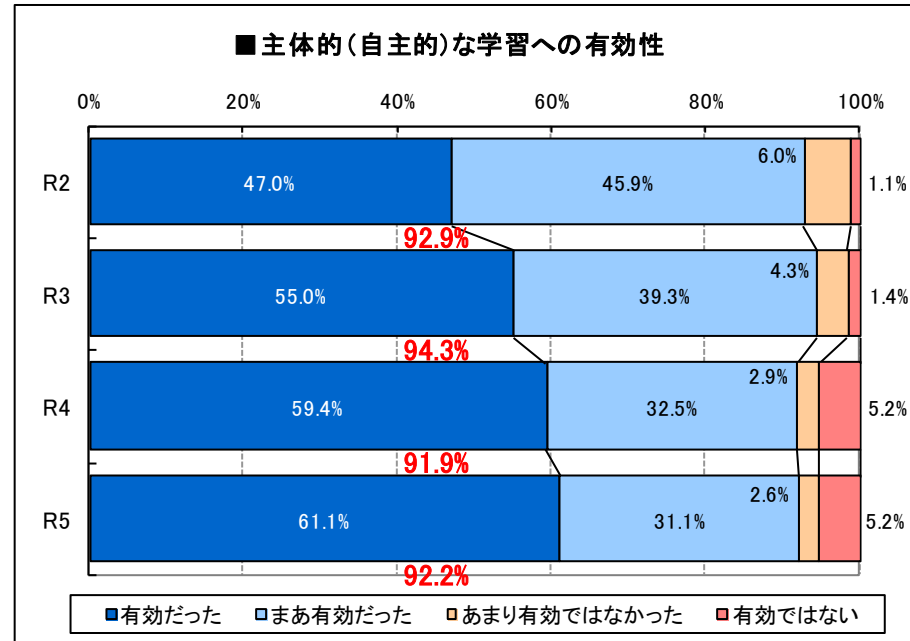


- 学科別のグラフは「A:積極・満足型」の割合でソートしているが、最も多かったのは「AA:建築学科」と「BC:応用化学科」の94.0%であり、「FM:メディア情報学科」が93.4%で続いていた。
- 一方、「A:積極・満足型」が最も少なかったのは、「FS:経営情報学科」の91.2%であり、「EP:情報工学科」が91.7%、「ER:ロボティクス学科」が91.9%となっていた。
- 学科間の差は最大でも2.8ポイントとわずかで、「A:積極・満足型」はすべての学科で9割を超えており、いずれも充実している様子がうかがえた。

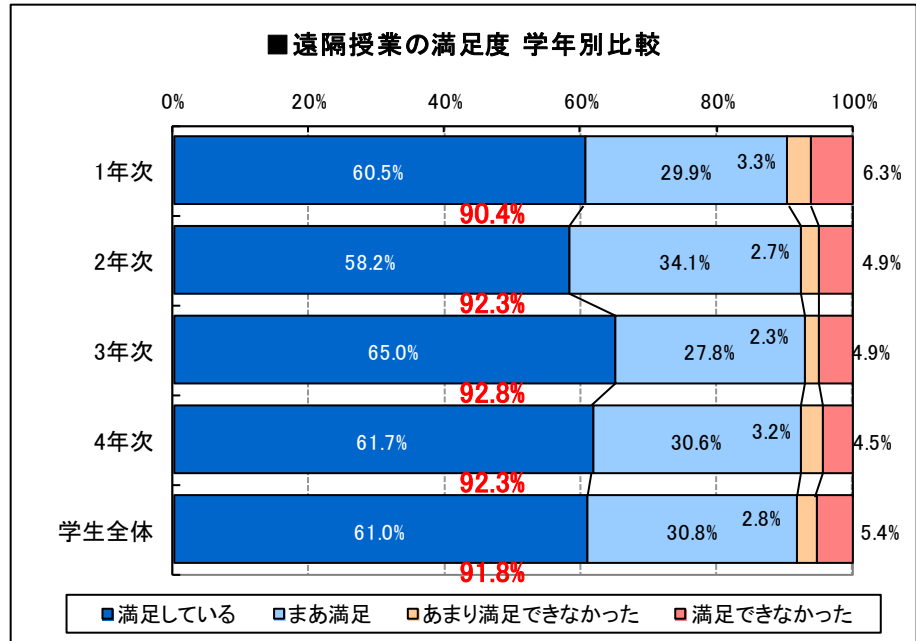
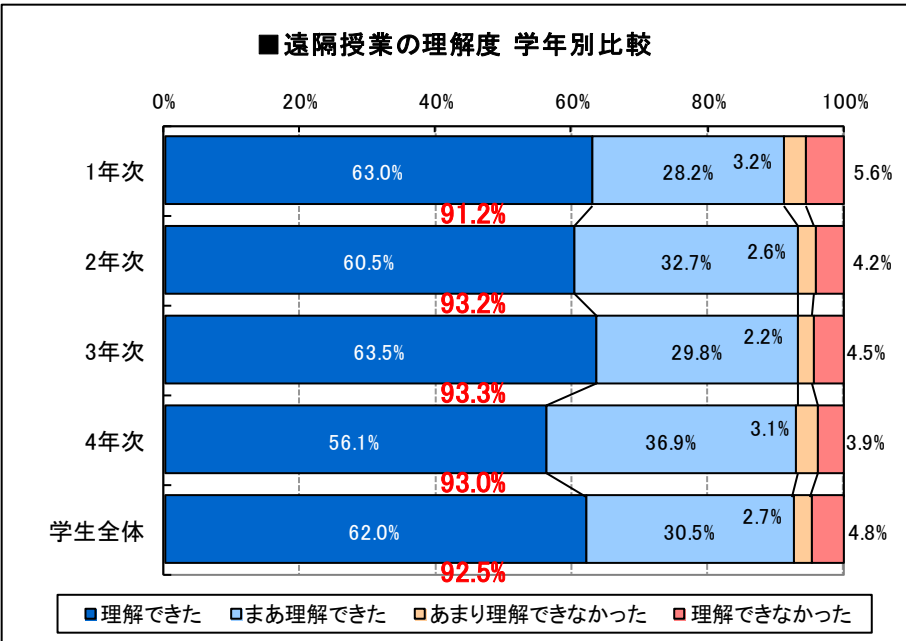
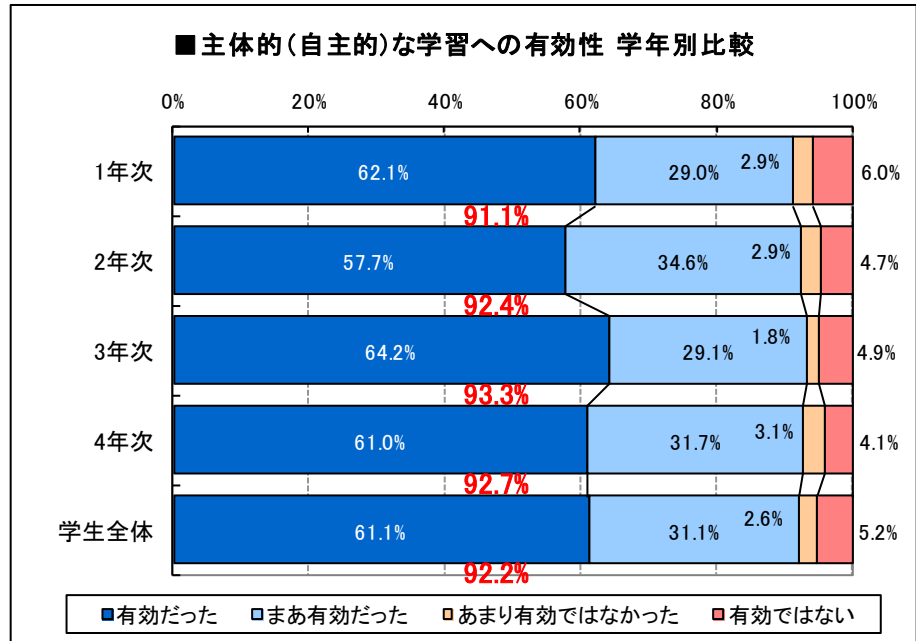


## <8>遠隔授業の評価の分析

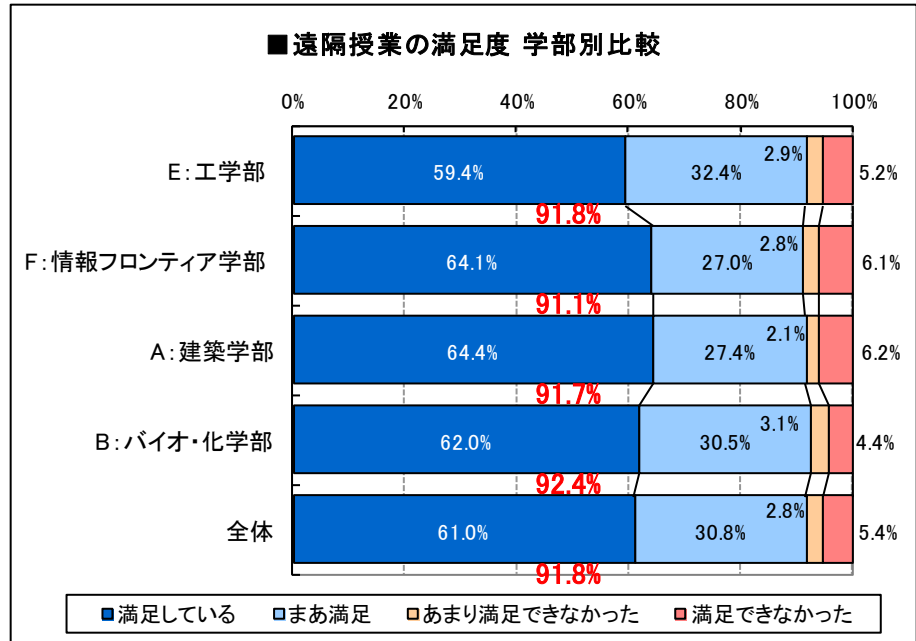
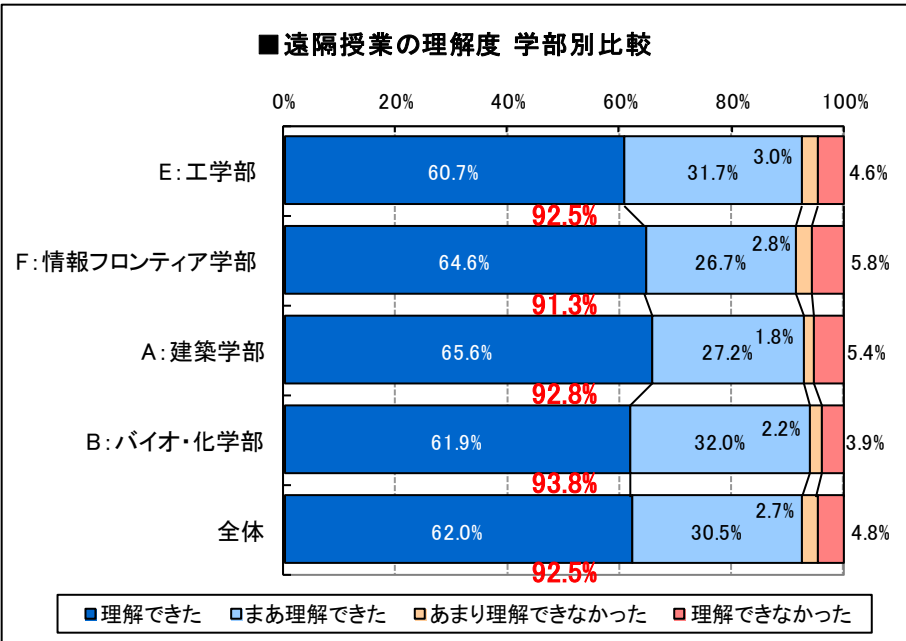
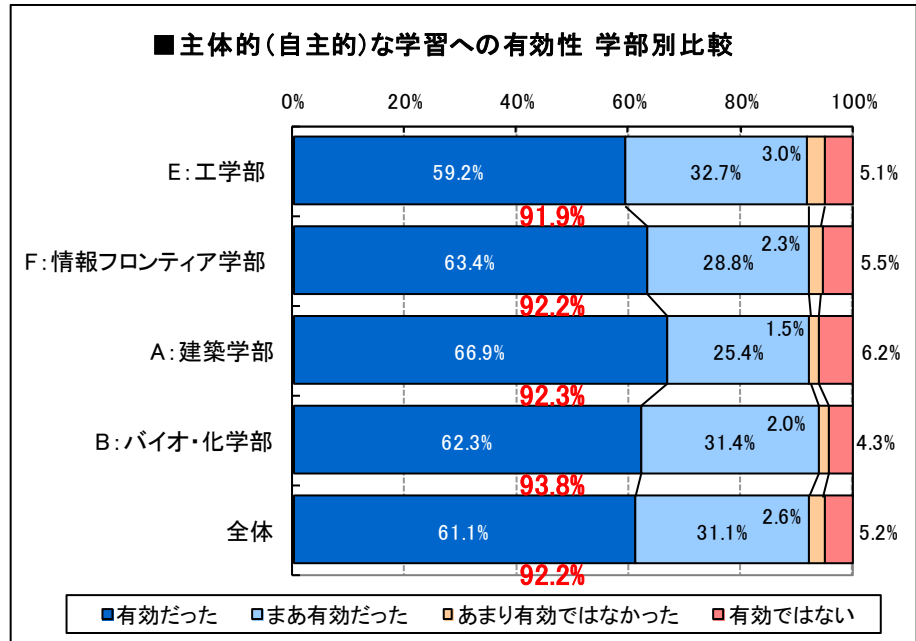
- R2から「遠隔授業」に関しての質問を追加している。R3までの集計には「無回答」を含めていたが、R4以降は遠隔授業減少のためか、「無回答」が多くなったため、過去に遡って「無回答」を除外して経年変化を見ている。
- 「遠隔授業の理解度」の肯定的な意見は、前回から0.3ポイント減少して92.5%であったが、「理解できた」だけを見るとR2から継続的に増加しており、今回は62.0%になっていた。ただし、「理解できなかった」も増加が続いて、4.8%になっている点も注意する必要がある。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」の肯定的な意見は92.2%で、前回はわずかに上回っていた。「有効だった」だけを見ても年々増加して今回は61.1%となっており、評価は上昇を続けていると言える。
- 「遠隔授業の満足度」の肯定的な意見は91.8%で、前回よりわずかに減少していたが、「満足している」は増加が続いて61.0%になっていた。ただし、「満足できなかった」も増加して5.4%になっている点にも気をつける必要がある。



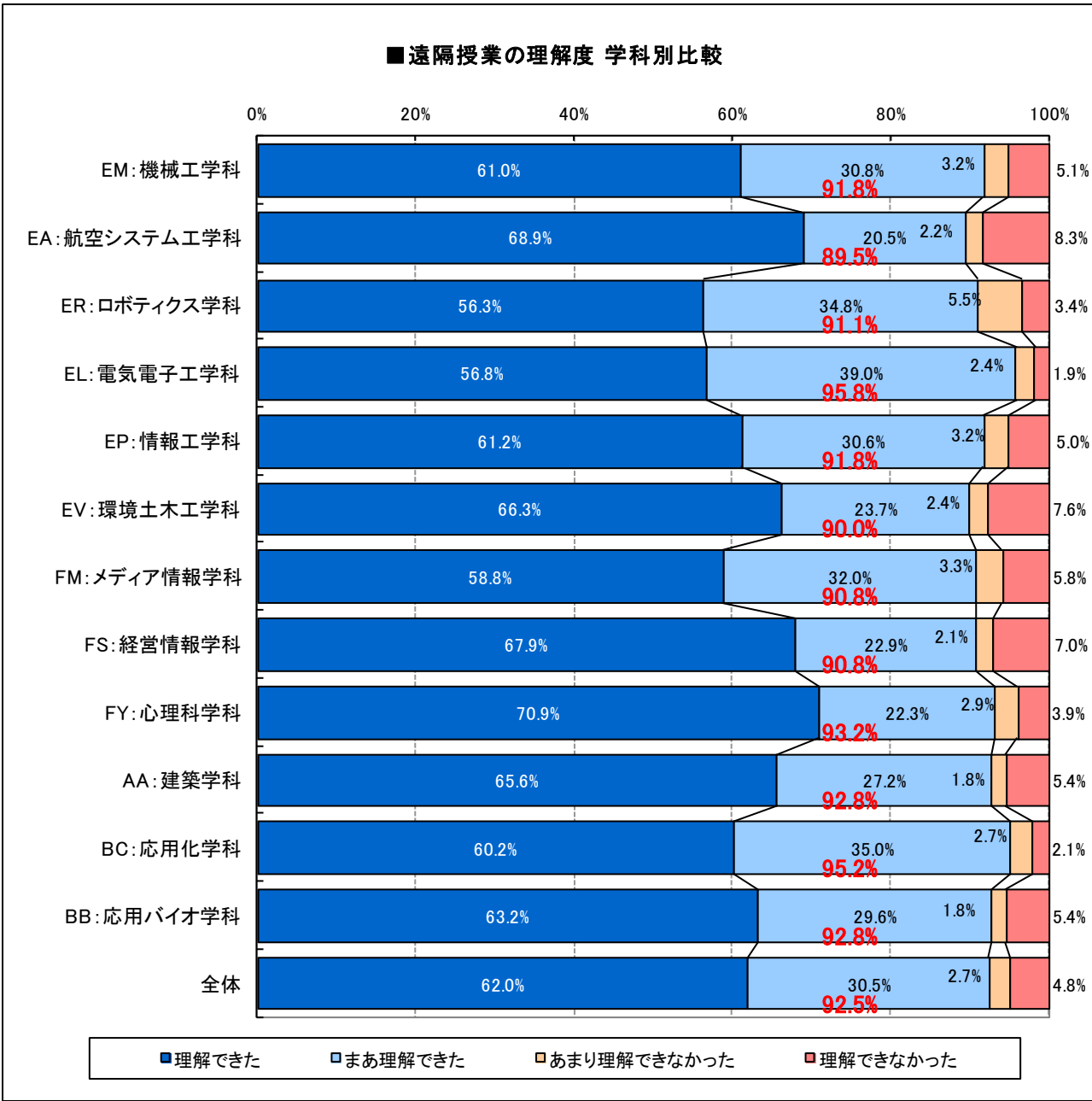
- 「遠隔授業の理解度」の肯定的な意見を学年別に見ると、最も多かったのは「3年次」の93.3%であった。一方、最も少なかったのは「1年次」の91.2%で、学年間の差は2.1ポイントと大きくはなかったが、「理解できた」だけを見ると「4年次」が56.1%と、他の学年に比べて少なさが目立っていた。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」の肯定的な意見も学年間の差はわずかであり、最も多い「3年次」の93.3%と、最も少ない「1年次」の91.1%との差は2.2ポイントであった。そして、「有効だった」だけを見ると「2年次」が57.7%でやや少なかった。
- 「遠隔授業の満足度」の肯定的な意見が最も多かったのは「3年次」の92.8%であり、最も少なかったのは「1年次」の90.4%であった。ここでも学年間の差は最大でも2.4ポイントとわずかであり、いずれの学年でも高い満足度となっていた。ただし、いずれの学年でも「満足できなかった」が5%前後となっており、この点には気をつける必要がある。



- 「遠隔授業の理解度」を学部別に見たところ、いずれの学部でも肯定的な意見が9割を超えており、非常に高い評価となっていた。最も高かったのは「B: バイオ・化学部」の93.8%、最も低かったのは「F: 情報フロンティア学部」の91.3%であり、差は2.5ポイントとわずかであった。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」も上記と同様にいずれの学部でも肯定的な意見が9割を超えて高い評価となっていた。最も高かったのは「B: バイオ・化学部」の93.8%、最も低かったのは「E: 工学部」の91.9%であり、差は1.9ポイントとわずかであった。
- 「遠隔授業の満足度」も上記2項目と同様にすべての学部で肯定的な意見が9割を超えていた。最も高かったのは「B: バイオ・化学部」の92.4%、最も低かったのは「F: 情報フロンティア学部」の91.1%であり、差は1.3ポイントと非常に小さかった。そして、「満足している」だけを見ても、ほぼ6割を超えており、遠隔授業は非常に高い満足度となっていた。

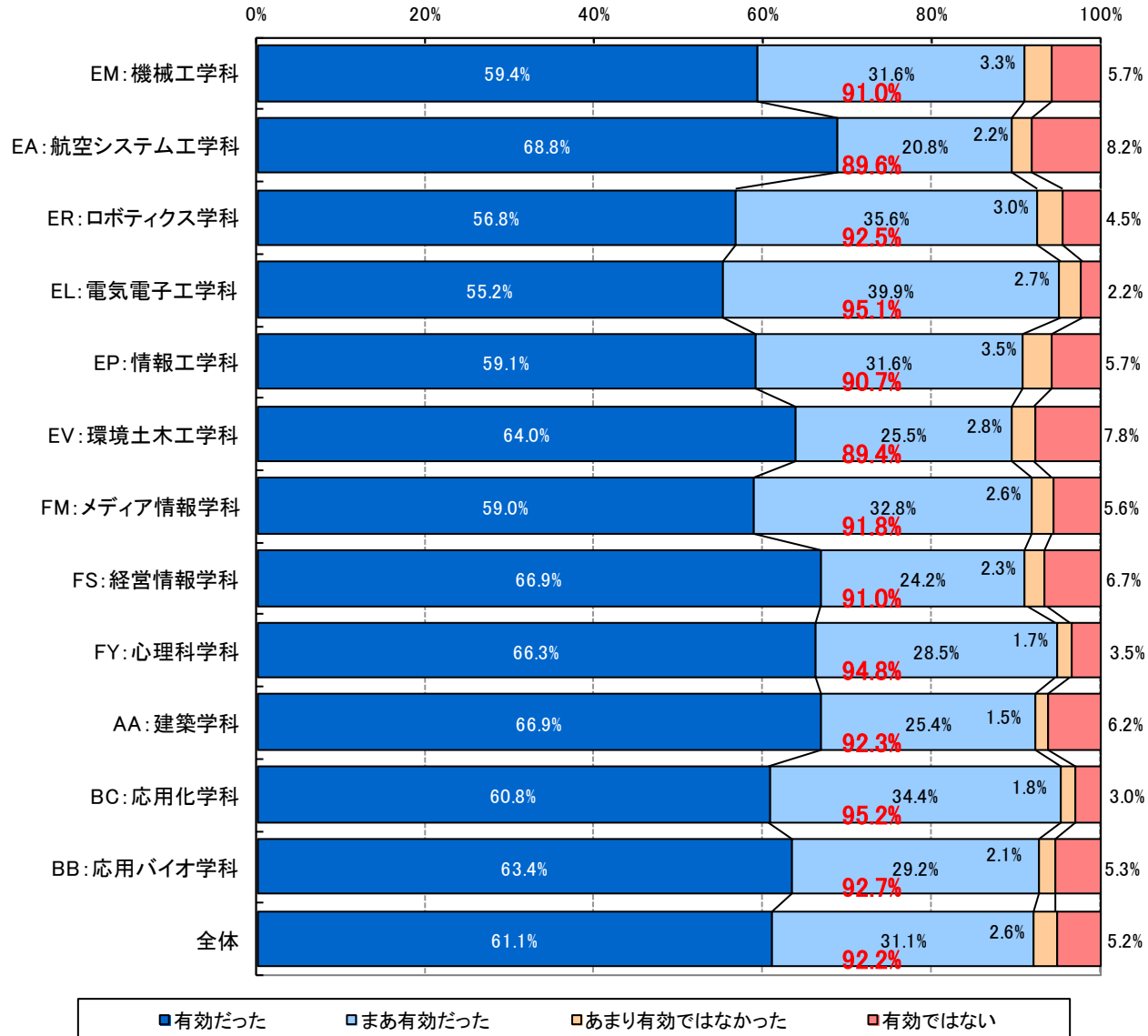


- 「遠隔授業の理解度」の肯定的な意見を学科別に比較したところ、最も多かったのは「EL:電気電子工学科」の95.8%であり、次いで、「BC:応用化学科」が95.2%、「FY:心理科学科」が93.2%で続いていた。
- 「理解できた」だけを見ると、「FY:心理科学科」が70.9%で最も高く、「EA:航空システム工学科」が68.9%、「FS:経営情報学科」が67.9%で続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「EA:航空システム工学科」の89.5%であり、上記で見たように「理解できた」は多いものの、肯定的な意見の合計は最も少なく、唯一、9割に満たなかった。



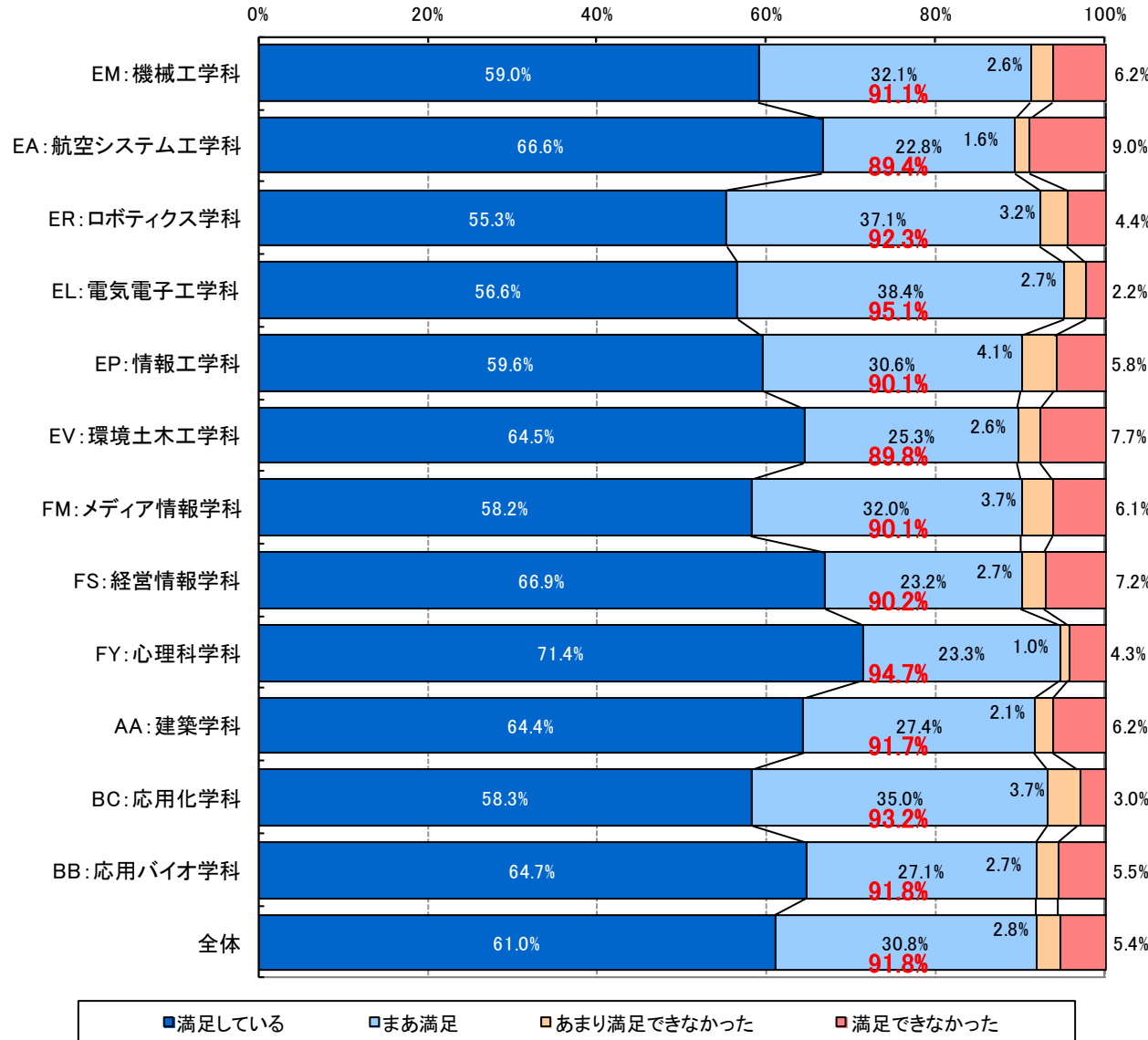
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」で肯定的な意見が最も多かったのは「BC:応用化学科」の95.2%であり、「EL:電気電子工学科」が95.1%、「FY:心理科学科」が94.8%で続いていた。
- 「有効だった」だけを見ると、「EA:航空システム工学科」が68.8%で最も多く、「FS:経営情報学科」と「AA:建築学科」が66.9%、「FY:心理科学科」が66.3%で続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「EV:環境土木工学科」の89.4%であり、「EA:航空システム工学科」の89.6%と共に9割を下回っていた。ここでも「EA:航空システム工学科」は「有効だった」は多いものの、肯定的な意見の合計は少なかった。

■ 主体的(自主的)な学習への有効性 学科別比較



- 「遠隔授業の満足度」の肯定的な意見はほとんどの学科で9割以上であり、いずれも高い満足度であった。中でも最も高かったのは「EL:電気電子工学科」の95.1%であり、「FY:心理科学科」が94.7%、「BC:応用化学科」が93.2%で続いていた。特に「FY:心理科学科」は「満足している」が71.4%と最も多く、強く満足している学生も多かった。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「EA:航空システム工学科」の89.4%であり、「EV:環境土木工学科」の89.8%と共に満足という回答が9割に満たなかった。ただし、「EA:航空システム工学科」では「満足している」が66.6%と多く、強く満足している学生は多いようであった。
- 学科間の満足度の差は最大でも5.7ポイントでそれほど大きくなく、大きな課題は見られなかった。

■ 遠隔授業の満足度 学科別比較





## <9> 全体のまとめ

# <9-1>全体の分析で分かったこと

今回の集計、分析から分かったことは下記の通り。

## 【全体傾向で確認できた事】

**「満足度」は95.1%と非常に高く、「自分の熱意と努力」「教員の熱意」でもほとんどの学生が肯定的な意見であった。また、授業の内容の評価も非常に高く、充実している様子がうかがえた。**

- ◆ 授業の前段階の項目の肯定的な意見は、「事前の興味」が76.4%、「事前の内容理解(学習支援計画書)」が92.6%であった。
- ◆ 授業の内容に関する項目の肯定的な意見は、「教科書・指導書の適切さ」が84.0%、「課題・レポートの適切さ」が94.6%、「学習支援計画書との一致」が97.7%、「授業の進度の適切さ」が94.4%、「学習相談の有効性」が94.0%であった。
- ◆ 授業に対する学生の姿勢の肯定的な意見は、「自分の熱意と努力」が94.9%、「教員の熱意」が95.7%、「満足度」が95.1%であった。

## 【学年別比較で確認できた事】

**「事前の興味」は「3年次」が高かった。そして、「教科書・指導書の適切さ」は高学年ほど評価が高く、学習時間も高学年ほど長い傾向が見られた。**

- ◆ 「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」で学年による差がやや大きく、「教科書・指導書の適切さ」は高学年ほど評価が高い傾向が見られた。その他の項目の学年による差はわずかであった。
- ◆ 「事前の興味」では「3年次」が非常に高い点が特徴的であった。また、しっかり学習時間を確保しているのも「3年次」であり、「4年次」も含めて高学年ほど学習時間が長い傾向が見られた。
- ◆ 「1年次」は、わずかな差ではあるが「満足度」が最も高かった。しかし、学習時間は最も短かった。

## 【経年変化で確認できた事】

**「満足度」をはじめとして、ほとんどの項目がR3から非常に高い評価のまま横ばいが続いていた。ただし、学習時間はR3から継続的に短くなる傾向が続いていた。**

- ◆ ほとんどの項目が前回からわずかに低下していたが、いずれもわずかであり、R3から非常に高い評価のまま横ばいが続いていた。
- ◆ 前回は「教員の熱意」「満足度」で「感じ取れた」「満足している」という強く肯定する意見が過去最高となっていたが、今回はいずれもわずかに低下していた。
- ◆ 「予習・復習、課外学習活動」で学習時間を見ると、「3時間以上」「2～3時間」「1～2時間」の回答が減少しており、R3から継続的に学習時間が短くなる傾向が続いていた。

## 【学部別・学科別比較で確認できた事】

**学部による差は全体的に小さかったが、「建築学部」で肯定的な意見が多かった。そして、学習時間でも「建築学部」の長さが目立っていた。**

- ◆ 「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」で学部による差が少し見られたが、他の項目では目立つものはなかった。
- ◆ 差は小さいものの数値を見ると、「建築学部」が5項目で最も高く、「工学部」が4項目で最も低かった。
- ◆ 学習時間を見ると、「建築学部」がしっかりと学習時間を確保しており、「バイオ・化学部」がやや短い傾向が見られた。
- ◆ 学部ごとに学科を見ると、「工学部」では「電気電子工学科」が6項目で最も高く、「情報工学科」が6項目で最も低かった。「情報フロンティア学部」では「経営情報学科」が全体的に低めであり、「バイオ・化学部」では「応用化学科」が全体的に高かった。

## 【科目区分別比較で確認できた事】

「事前の興味」では「修学基礎科目」、「教科書・指導書の適切さ」では「基礎実技科目」の評価が低かった。そして、「基礎実技科目」と「専門科目」では学習時間をしっかりと確保していた。

- ◆ 「事前の興味」では「修学基礎科目」が非常に低かった。「教科書・指導書の適切さ」では「基礎実技科目」がやや低かったものの、「教科書・指導書はなかった」の差も影響しているようであった。
- ◆ 上記の2つの項目以外では科目区分による差はほとんどなく、よく似た評価となっていた。差は少ないものの「修学基礎科目」と「英語科目」は4項目で最も高く、「基礎実技科目」は5項目で最も低かった。
- ◆ 学習時間では、「基礎実技科目」と「専門科目」で学習時間をしっかりと確保している様子がうかがえた。一方、「数理基礎科目」は学習時間が短く、「学習は特にしなかった」も多かった。

## 【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「積極・満足型」は92.7%で、R3から横ばいが続いていた。「積極・満足型」は、学年では「1年次」、学部では「建築学部」が最も多かったが、いずれも属性間の差はわずかであった。

- ◆ 「積極・満足型」は過去最高であったR3から徐々に減少して92.7%となっていた。ただし、変化はわずかであり横ばいが続いていると言える。そして内訳を見ると、「満足度」と「積極性」が共に高い学生が43.5%を占めていた。
- ◆ 学年別では「積極・満足型」は「1年次」が93.5%と最も多く、「4年次」が90.6%と最も少なかった。ただし、差は2.9ポイントとわずかであった。
- ◆ 学部別では「建築学部」が94.0%で最も多かったが、差は最大で1.7ポイントとわずかであった。学科では「建築学科」と「応用化学科」が94.0%で最も多く、最も少なかったのは「経営情報学科」の91.2%であった。

## 【同一学生群で確認できた事】

以前は「4年次」で中だるみが見られたが、最近の学生群は4年間を通して高い意識を維持するようになってきている。また、入学直後から学習する姿勢が整っている様子がうかがえた。

- ◆ 以前は「4年次」で中だるみのような変化が見られたが、最近の学生群は4年間を通して「事前の興味」「熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」が高いまま卒業に至るケースが増えており、学生生活の意識が変わってきているように思われる。
- ◆ 特に現在の在学学生は、入学直後の「熱意と努力」「満足度」が非常に高くなっており、入学前教育などにより学習する姿勢が整っているのではないかと考えられた。
- ◆ 「学習相談利用者割合」は、「3年次」までは学生群による差が少ないが、「4年次」になると大きな差が現れるという特徴が見られた。

## 【遠隔授業の評価で確認できた事】

遠隔授業の「理解度」「主体的な学習への有効性」「満足度」を強く肯定する意見は過去最高であったが、強く否定する意見も約5%で横ばいとなっており、この点には注意する必要がある。

- ◆ 遠隔授業に対する肯定的な意見の合計は、「主体的(自主的)な学習への有効性」は前回は上回り、「遠隔授業の理解度」と「満足度」は前回はわずかに下回っていたが、強く肯定する意見はいずれも過去最高となっており、評価としては上がっていると言える。ただし、強く否定する意見は全体の約5%で横ばいであり、この点には注意する必要がある。
- ◆ 学年別の評価は3指標共に「3年次」が最も高く、「1年次」が最も低かった。ただし、差はわずかであった。
- ◆ 学部別の評価は3指標共に「バイオ・化学部」が最も高かった。そして、学科では「電気電子工学科」「応用化学科」「心理科学科」が高かった。

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようなになる。

- 「満足度」は95.1%と非常に高く、「自分の熱意と努力」「教員の熱意」でもほとんどの学生が肯定的な意見であった。また、授業の内容の評価も非常に高く、充実している様子が見られた。
- 「満足度」をはじめとして、ほとんどの項目がR3から非常に高い評価のまま横ばいが続いていた。ただし、学習時間はR3から継続的に短くなる傾向が続いていた。
- 「事前の興味」は「3年次」が高かった。そして、「教科書・指導書の適切さ」は高学年ほど評価が高く、学習時間も高学年ほど長い傾向が見られた。
- 学部による差は全体的に小さかったが、「建築学部」で肯定的な意見が多かった。そして、学習時間でも「建築学部」の長さが目立っていた。
- 「事前の興味」では「修学基礎科目」、「教科書・指導書の適切さ」では「基礎実技科目」の評価が低かった。そして、「基礎実技科目」と「専門科目」では学習時間をしっかりと確保していた。
- 以前は「4年次」で中だるみが見られたが、最近の学生群は4年間を通して高い意識を維持するようになってきている。また、入学直後から学習する姿勢が整っている様子が見られた。
- 「積極・満足型」は92.7%で、R3から横ばいが続いていた。「積極・満足型」は、学年では「1年次」、学部では「建築学部」が最も多かったが、いずれも属性間の差はわずかであった。
- 遠隔授業の「理解度」「主体的な学習への有効性」「満足度」を強く肯定する意見は過去最高であったが、強く否定する意見も約5%で横ばいとなっており、この点には注意する必要がある。



- ❖ 「満足度」の95.1%をはじめとして、主要な指標ではほとんどの学生が肯定的であり、経年変化を見ると高い評価で横ばいが続いていた。また、特定の学年や学部、学科が低いといった傾向も見られず、大きな課題はなさそうであった。ただし、学習時間は短くなる傾向が続いており、これに関しては詳細に見ていく必要があるのではないかと考えられた。
- ❖ 以前と比較すると、入学直後から学習をする姿勢が整っており、大きな中だるみがないまま卒業に至る学生が多いように見受けられる。これは数値から見た仮説であり、学生の意識変化に関してははっきりとした検証も必要ではないかと考えられた。
- ❖ 「積極・満足型」の学生は92.7%と大多数を占めて、経年変化でも横ばいが続いており、大きな課題はなさそうであった。
- ❖ 遠隔授業については授業の評価も高い状態で横ばいが続いていた。ただし、強く否定する意見も5%あり、この内容も気になる点と言える。